

# 官報

號外

昭和八年三月十五日

## ○第六十四回衆議院議事速記録第二十六號

昭和八年三月十四日(火曜日)

午後一時二十四分開議

議事日程 第二十五號

昭和八年三月十四日

午後一時開議

質問

一 我カ民族力ヲ衰耗銷磨シツツアル三大弊事ニ關スル質問(荒川五郎君提出)

二 沖繩縣振興ニ關スル質問(高田耘平君提出)

三 足尾銅山鑛毒問題ニ關スル再質問(栗原彦三郎君提出)

四 實業補習學校ト青年訓練所トノ統合ニ關スル再質問(山折儀重君提出)

五 社會政策問題及思想問題ニ關スル質問(鈴木正吾君提出)

第一 震災被害者ニ對スル租税ノ免除猶豫等ニ關スル法律案(政府提出)

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第三 日本製鐵株式會社法案(政府提出)

第四 製鐵業獎勵法中改正法律案(政府提出)

第五 穀類摺製粉取締法案(荒川五郎君外二名提出)

第六 穀類摺製粉取締法案(山本莊一郎君外二名提出)

第七 中央卸賣市場法中改正法律案(上田孝吉君外二名提出)

第八 司法保護法案(小林錦君外四名提出)

第九 輸出生絲販賣統制法案(胎中楠右衛門君外二名提出)

第十 日本蠶絲株式會社法案(胎中楠右衛門君外二名提出)

第十一 出版權法案(原夫次郎君外六名提出)

第十二 營業收益稅法中改正法律案(木暮武太夫君外二名提出)

第十三 國務院創設ニ關スル決議案(野田文一郎君外四名提出)

第十四 決議案(教育ノ根本的改革ニ關スル件)(富田幸次郎君外十七名提出)

第十五 決議案(思想惡化ノ對策ニ關スル件)(櫻内幸雄君外十七名提出)

○議長(秋田清君) 諸般ノ報告ヲ致サセマ

(書記官朗讀)

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

農業勸進信用法案

漁業法中改正法律案

(以上三月十四日提出)

一 政府ヨリ受領シタル答復書左ノ如シ

衆議院議員荒川五郎君提出我カ民族力ヲ衰耗銷磨シツツアル三大弊事ニ關スル質問ニ對スル答復書

衆議院議員栗原彦三郎君提出足尾銅山鑛毒問題ニ關スル再質問ニ對スル答復書

衆議院議員山折儀重君提出實業補習學校ト青年訓練所トノ統合ニ關スル再質問ニ對スル答復書

問ニ對スル答復書

衆議院議員高田耘平君提出沖繩縣振興ニ關スル質問ニ對スル答復書

衆議院議員栗原彦三郎君提出足尾銅山鑛毒問題ニ關スル再質問ニ對スル答復書

衆議院議員山折儀重君提出實業補習學校ト青年訓練所トノ統合ニ關スル再質問ニ對スル答復書

衆議院議員鈴木正吾君提出社會政策問題及思想問題ニ關スル質問ニ對スル答復書

(以上三月十四日受領)

我カ民族力ヲ衰耗銷磨シツツアル三大弊事ニ關スル質問主意書

昭和八年二月二十七日

提出者 荒川 五郎

我カ民族力ヲ衰耗銷磨シツツアル三大弊事ニ關スル質問主意書

大弊事ニ關スル質問主意書

我カ民族ノ素質ヲ改善シ其ノ機能實力ヲ向上セシムベク最善ノ努力ヲ拂フコトハ我ガ民族ノ本宗デアラセラルル 皇上ニ對シ奉ル我等忠誠ノ第一義デアルノミナク實ニ祖國ノ傳統ノ光榮ヲ紹成シテ之ヲ子孫ニ傳フル爲ノ最高ナル責務デアル況ンヤ世界列國ノ競争日ニ劇甚ヲ加ヘ殊ニ對支ノ狀況ト謂ヒ對滿ノ前途ト謂ヒ延テハ國際聯盟ヨリ對米露ノ關係等今ヤ我ガ國ハ全ク空前ノ危機ニ瀕シテ居ルト云フテ可ナル重大ノ秋國民ハ何モノヲ措イテモ我ガ民族實力ノ維持向上ニ關シテハ全精神ヲ傾注シテ努力スル所ナクテハナラナイコトハ實ニ謂フ迄モナイ所デアル

然ルニ何事ゾ此ノ重大時機ヲモ顧ミズ自ラ思ハズシテ我ガ民族ノ素質ヲ日ニ慘虐暴殄セシメ或ハ僅カノ努力ヲ以テ改メ得ベキ弊習ニ泥ミテ我ガ民族ノ實力ヲ日ニ銷磨衰廢セシメツツアルコトヤ、國家民族ノ前途ノ爲眞ニ寒心ノ至リニ堪ヘナイ次第デアル

此ノ三大弊事ナリト信ズル

抑教育ノ事ハ學園ニ於ケル智能技術等ノ學業ニ止マラズシテ身體機能ノ發達ニ關スルコトモ均シク注意ヲ要スル最モ大切ナル教育ノ部類ニ屬シ隨テ國民營養問題モ極メテ重大ナル廣義ノ教育問題ニシテ實ニ此ノ三事項ハ國家構成ノ根本民族發達ノ基礎ニ關係スル至重至要ノ大問題ナリト思考セラルルガ故ニ茲ニ謹ンデ誠意ヲ披瀝シ敢テ政府ニ質問スル次第デアル

第一 入學準備ノ爲彼等少年ノ幼冲ナ心身ヲ壓虐戕害セシメツツアルコト

少年ノ入學準備ニ關シテハ朝野ノ間ニ夙ニ其ノ弊害ノ甚シキヲ認メ我ガ當局者ハ鈐意ニ之ガ排除ノ手段ヲ講ジツツアルモ奈何セン實際ノ狀況ハ倍其ノ深刻ヲ加ヘ彼等幼冲ナル少年ノ身體及思想情操ノ上ニ甚大ノ惡影響ヲ與ヘ之ガ精力ヲ消耗セシメツツアルノ實狀ヲ知ルキ眞ニ憂慮ニ堪ヘザル次第世間ノ多ク其ノ弊害ヲ認ムル者モ尙未ダ十分其ノ眞相ヲ認識スルニ至ラナイガ爲之ガ排除ニ努力足ラズ徹底ヲ缺クモノト思ハルガ私ハ多年深ク之ヲ憂ヒ曩ニ大正十二年三月第四十六回議會ニ衆議院ニ入學難緩和ニ關スル建議案ヲ提出シ六箇條ノ事項ヲ政府ニ建議

此等諸般弊習等ニシテ其除改善スベキモノ社會上教育上政治上經濟上數フレバ多アル中ニ於テ其ノ最モ重大ナモノヲ舉グレバ

第一 入學準備ノ爲彼等少年ノ幼冲ナ心身ヲ壓虐戕害セシメツツアルコト

第二 學科過重ノ爲一般學徒ノ精力素性ヲ消耗竭盡セシメツツアルコト

第三 營養缺損ノ爲國民全體ノ身體機能ヲ萎靡銷磨セシメツツアルコト

此ノ三大弊事ナリト信ズル

抑教育ノ事ハ學園ニ於ケル智能技術等ノ學業ニ止マラズシテ身體機能ノ發達ニ關スルコトモ均シク注意ヲ要スル最モ大切ナル教育ノ部類ニ屬シ隨テ國民營養問題モ極メテ重大ナル廣義ノ教育問題ニシテ實ニ此ノ三事項ハ國家構成ノ根本民族發達ノ基礎ニ關係スル至重至要ノ大問題ナリト思考セラルルガ故ニ茲ニ謹ンデ誠意ヲ披瀝シ敢テ政府ニ質問スル次第デアル

第一 入學準備ノ爲彼等少年ノ幼冲ナ心身ヲ壓虐戕害セシメツツアルコト

少年ノ入學準備ニ關シテハ朝野ノ間ニ夙ニ其ノ弊害ノ甚シキヲ認メ我ガ當局者ハ鈐意ニ之ガ排除ノ手段ヲ講ジツツアルモ奈何セン實際ノ狀況ハ倍其ノ深刻ヲ加ヘ彼等幼冲ナル少年ノ身體及思想情操ノ上ニ甚大ノ惡影響ヲ與ヘ之ガ精力ヲ消耗セシメツツアルノ實狀ヲ知ルキ眞ニ憂慮ニ堪ヘザル次第世間ノ多ク其ノ弊害ヲ認ムル者モ尙未ダ十分其ノ眞相ヲ認識スルニ至ラナイガ爲之ガ排除ニ努力足ラズ徹底ヲ缺クモノト思ハルガ私ハ多年深ク之ヲ憂ヒ曩ニ大正十二年三月第四十六回議會ニ衆議院ニ入學難緩和ニ關スル建議案ヲ提出シ六箇條ノ事項ヲ政府ニ建議

此等諸般弊習等ニシテ其除改善スベキモノ社會上教育上政治上經濟上數フレバ多アル中ニ於テ其ノ最モ重大ナモノヲ舉グレバ

第一 入學準備ノ爲彼等少年ノ幼冲ナ心身ヲ壓虐戕害セシメツツアルコト

第二 學科過重ノ爲一般學徒ノ精力素性ヲ消耗竭盡セシメツツアルコト

第三 營養缺損ノ爲國民全體ノ身體機能ヲ萎靡銷磨セシメツツアルコト

此ノ三大弊事ナリト信ズル

抑教育ノ事ハ學園ニ於ケル智能技術等ノ學業ニ止マラズシテ身體機能ノ發達ニ關スルコトモ均シク注意ヲ要スル最モ大切ナル教育ノ部類ニ屬シ隨テ國民營養問題モ極メテ重大ナル廣義ノ教育問題ニシテ實ニ此ノ三事項ハ國家構成ノ根本民族發達ノ基礎ニ關係スル至重至要ノ大問題ナリト思考セラルルガ故ニ茲ニ謹ンデ誠意ヲ披瀝シ敢テ政府ニ質問スル次第デアル

第一 入學準備ノ爲彼等少年ノ幼冲ナ心身ヲ壓虐戕害セシメツツアルコト

少年ノ入學準備ニ關シテハ朝野ノ間ニ夙ニ其ノ弊害ノ甚シキヲ認メ我ガ當局者ハ鈐意ニ之ガ排除ノ手段ヲ講ジツツアルモ奈何セン實際ノ狀況ハ倍其ノ深刻ヲ加ヘ彼等幼冲ナル少年ノ身體及思想情操ノ上ニ甚大ノ惡影響ヲ與ヘ之ガ精力ヲ消耗セシメツツアルノ實狀ヲ知ルキ眞ニ憂慮ニ堪ヘザル次第世間ノ多ク其ノ弊害ヲ認ムル者モ尙未ダ十分其ノ眞相ヲ認識スルニ至ラナイガ爲之ガ排除ニ努力足ラズ徹底ヲ缺クモノト思ハルガ私ハ多年深ク之ヲ憂ヒ曩ニ大正十二年三月第四十六回議會ニ衆議院ニ入學難緩和ニ關スル建議案ヲ提出シ六箇條ノ事項ヲ政府ニ建議

此等諸般弊習等ニシテ其除改善スベキモノ社會上教育上政治上經濟上數フレバ多アル中ニ於テ其ノ最モ重大ナモノヲ舉グレバ

第一 入學準備ノ爲彼等少年ノ幼冲ナ心身ヲ壓虐戕害セシメツツアルコト

第二 學科過重ノ爲一般學徒ノ精力素性ヲ消耗竭盡セシメツツアルコト

第三 營養缺損ノ爲國民全體ノ身體機能ヲ萎靡銷磨セシメツツアルコト

此ノ三大弊事ナリト信ズル

抑教育ノ事ハ學園ニ於ケル智能技術等ノ學業ニ止マラズシテ身體機能ノ發達ニ關スルコトモ均シク注意ヲ要スル最モ大切ナル教育ノ部類ニ屬シ隨テ國民營養問題モ極メテ重大ナル廣義ノ教育問題ニシテ實ニ此ノ三事項ハ國家構成ノ根本民族發達ノ基礎ニ關係スル至重至要ノ大問題ナリト思考セラルルガ故ニ茲ニ謹ンデ誠意ヲ披瀝シ敢テ政府ニ質問スル次第デアル

第一 入學準備ノ爲彼等少年ノ幼冲ナ心身ヲ壓虐戕害セシメツツアルコト

少年ノ入學準備ニ關シテハ朝野ノ間ニ夙ニ其ノ弊害ノ甚シキヲ認メ我ガ當局者ハ鈐意ニ之ガ排除ノ手段ヲ講ジツツアルモ奈何セン實際ノ狀況ハ倍其ノ深刻ヲ加ヘ彼等幼冲ナル少年ノ身體及思想情操ノ上ニ甚大ノ惡影響ヲ與ヘ之ガ精力ヲ消耗セシメツツアルノ實狀ヲ知ルキ眞ニ憂慮ニ堪ヘザル次第世間ノ多ク其ノ弊害ヲ認ムル者モ尙未ダ十分其ノ眞相ヲ認識スルニ至ラナイガ爲之ガ排除ニ努力足ラズ徹底ヲ缺クモノト思ハルガ私ハ多年深ク之ヲ憂ヒ曩ニ大正十二年三月第四十六回議會ニ衆議院ニ入學難緩和ニ關スル建議案ヲ提出シ六箇條ノ事項ヲ政府ニ建議

此等諸般弊習等ニシテ其除改善スベキモノ社會上教育上政治上經濟上數フレバ多アル中ニ於テ其ノ最モ重大ナモノヲ舉グレバ

第一 入學準備ノ爲彼等少年ノ幼冲ナ心身ヲ壓虐戕害セシメツツアルコト

シ其ノ後之ガ一部ハ採用實施ヲ得タルモ  
ノモアレド私ハ爾來一層各方面ニ付之ガ  
實狀及影響等ニ關シ調査スレバ調査スル  
ホド研究スレバ研究スルホド倍其ノ弊害  
ノ大ナルニ驚カザルヲ得ザルモノガアル  
然ラバ現下準備教育ノ狀況ハ如何ト云フ  
ニソレハ試驗前ノ十日トカ二三週間トカ  
言フ短時日間ノコトニアラズシテ第六學  
年ニ於テハ勿論全學年ヲ通ジテ行ハル  
ノミデナク第五學年モ之ニ準ジテ行ハル  
更ニ第四、三學年ニ及ビ甚シキハ第二學  
年デアアル可憐ナル八九歳ノ小童ニ迄モ復  
習ノ名義ニ依テ行ハレ過重ナ宿題ガ課  
セラレ他日入學ガ出來ナイコトガアッテ  
ハト早クヨリ鞭撻重壓ガ加ヘラルルガ如  
キモアリテ或ル人ハ男子ヲ出產シテ喜ブ  
代リニ他日ノ入學難ヲ考ヘテ今日ヨリ苦  
勞ノ種ヲ加ヘタト嘆息シタリトノ實話ヲ  
聞ク一タビ其ノ苦キ經驗ヲ嘗メタ者ハ或  
ハサコソト肯カレル次第デアアル  
今第六學年ノ有様ヲ略敘スレバ

- 一 毎日授業後日没時迄ニ止マラズ夜  
八時九時ニ及ブモ少クナイ甚シキハ  
十時十一時頃ニモ及ブノガアル
- 二 日没點燈頃ニ歸宅スル者モ更ニ過  
大ノ宿題ヲ與ヘラレテ夜間自宅深  
更ニ及ブ迄モ學習ヲ強ヒラル
- 三 更ニ甚シキハ早朝未明ニ登校サセ  
テ始業前一時間位之ヲ行フモアル
- 四 以テ迎ヘ(一)又提燈ヲ以テ送ル  
(二)等ノ實例ガアル
- 五 日曜祭日及冬期休日ハ勿論夏期炎  
熱ノ日ニモ登校サセテ勉強ヲ強ユル  
等デ之ガ弊害ノ甚シキモノヲ抽言スレバ  
一 兒童ノ心身ヲ極度ニ戕害シテ其ノ  
發達ヲ妨ゲ從テ國民ノ體格ヲ低  
下セシムルコト甚シク延テ思想感情  
ノ乾燥荒廢ヲ來シ爲ニ他日成長ト共  
ニ思想の偏倚ノ傾向ヲ胎ム虞モ閑却

スルコトガ出來ナイ

二 國民教育ノ精神及根柢ヲ破壞スル  
コトガ少クナイ

- 1 第六學年ノ如キハ正規ノ課程中  
手工、圖畫、書方、體操、裁縫、  
音樂等ノ學科ヲ無視シ此ノ時間ヲ  
準備教育ニ充テ專ラ受験科目タル  
讀方、算術、地歴、理科等ニ專心  
努力セシメ國民教育ヲ根柢ヨリ破  
壞シテ顧ミナイ弊ガアル
- 2 殊ニ科目ヲ教育のニ授クルコトヲ  
爲サナイデ全ク試驗の局部的ニ教  
育ニ爲國史ノ如キ國民精神ノ徹底  
的涵養ニ力メネバナラヌモノ、並ニ修  
身科ノ如キ其ノ薰陶德化ヲ唯一ノ  
目的トスルモノニ就テモ往往唯解  
答の語誦のニ授クル等國民教育ノ  
精神ハ全ク缺如スル憾ミガアル
- 3 兒童ハ常ニ恐怖ト不安ト壓迫ト  
ヲ感ゼシメラルルノミニ止マラズ  
準備勉強ニ迫ハレテ爲ニ團欒嬉笑  
シテ相惜ニ和諧スル家庭の慰安ノ  
時モナク世間ノコト郷土ノ情友朋  
相歡談スルノ機會モナク全ク生キ  
タ人間教育ヲ受ケ得ル機會ト時間  
トヲ奪ハレテ爲ニ情操ハ乾カラビ  
氣性ハ焦躁のトナルノミ實ニ性情  
ノ教育上一大缺陷ヲ來シツツアル
- 4 休日ノ登校ヲ他ニ氣付カレヌヤ  
ウ人若シ問ハバ登校スルコトヲ詐リ  
隱セト云ヒ含メルガ如キ其ノ他日  
の爲ニ手段ヲ選バズ又虚言ヲ吐  
ク等ノ惡癖ヲ拔除ノ功名心ニ驅ラ  
ルル等醇真ナル兒童ノ心情ヲ傷ツ  
ケカノ人ノ子ヲ戕フコト少クナイ  
又祝祭日ニ對スル國家の感情ノ養  
成ヲ素来ノ害モ認メザルヲ得ナイ
- 5 五、六學年ヨリ受験組ノ區別ヲ  
爲スモアリテ爲ニ數年間養ハレ來  
ツタ兒童間ノ友情ヲ破リ受験組ト

他生組トノ間ニ自ラ優劣貧富ノ階  
級的嫉妬心ヲ醸成シ將來ノ國民融  
合ノ慣習性ヲ害スル虞ガ多イ

三 宿題勉強ノ惱ミヲ免レンガ爲自ラ  
家庭教師ヲ要求スルニ至リ父兄ノ負  
擔ヲ重カラシム又父兄ノ兒童ノ惱ミ  
ニツケ込デ如何ハシイ所謂家庭教  
師業者ガ出來甘言虚構ヲ弄ブ等弊害  
ノ大ナルモノガアル

- 準備上ノ利ヲ考ヘ遠方通學ノ爲電車  
汽車等ニ頼ルモアリ其ノ負擔ト弊害  
モ認メザルヲ得ナイ
- 準備入學ニ付特ニ私益ヲ得ン爲暗夜  
ノ贈物其ノ他ノ卑劣手段等モ行ハレ  
其ノ弊モ決シテ藐視スベキデナイ又  
其レガ爲ニ教師ヲシテ兎角功利的ニ  
陷ラシムル虞モアル
- 四 入學率ニ依リ小學校ノ優劣ヲ評ス  
ル爲自然對校的ノ競争心ヲ誘ヒ各校  
長教師間ニ忌ハシキ空氣ヲ醸成スル  
ノ弊ガアル
- 極度ニ準備教育ヲ施ス小學校ヘハ他  
ヨリ轉校者ヲ生ジ其レガ爲其ノ校設  
備ヲ變體的ニ過不足ナラシメ教育設  
備費ノ浪費ヲ招クニ至ル
- 斯様ニ他區域ノ學校ニ通學セシムル  
父兄ハ在籍地ノ學校ニ對シテ冷淡ナ  
ルノミデナク却ツテ其レガ校長ノ學  
校經營ニ障害ヲ及ボシ自然其ノ校長  
モ弊害ヲ虞レツツモ準備教育ニ努力  
セザルヲ得ナイヤウニナル
- 五 斯ヤウナ次第デ國法ニ忠誠ナ順良  
ナル國民ノ養成ヲ旨トスベキ小學教  
師ガ學科ノ取捨轉換ヲ時間ノ延長等  
ヲ行フテ恬然トシテ之ヲ顧ミザルハ  
國法小學校令、施行規則等ヲ無視ス  
ル點ヨリシテモ適サニ由シキ問題  
デ法ノ精神ニ反シ法ノ權威ヲ蹂躪ス  
ルコトハ斷ジテ許スベキデナイ

- トハ大要何人モ認ムル所デアリ且當局者  
ヤ新聞雜誌等デモ之ヲ注意シ切言シツツ  
アルニ拘ラズ何故ニ現ニ斯ク激甚ニ行ハ  
レツツアルノデアアルカト云フニ
- 一 學校長ノ中ニ教育の良心ト其ノ信  
念トノ乏シイ者ガアツテ功名心又ハ  
權勢慾ノ奴隸トナリテ拔擢ノ功名ヲ  
爲サントスル陋劣ナル心事ニ起因ス  
ルモアル
- 二 受持教師ノ功利的劣情ニ起因スル  
モノモアリ又中ニハ善クナイト心ニ  
咎メツツモ愛情ニ惹カサレ又弱者ニ  
恩ヲ賣ル心カラ來ルモアラウ
- 三 目的ノ爲ニ手段ヲ選バザル現代惡  
風カラ教育ニ無理解ナル父兄等ガ學  
校ニ對シテ猥リニ準備教育ヲ強要ス  
ルニ因リ自然廣ク行ハルルニ至ル場  
合モ少クナイ
- 四 確キ信念アリ教育の良心ニ富ム校  
長モ此ノ父兄ノ要望ヲ容レナクテハ  
兒童ヲ轉校セシメルノミデナク學校  
全般ノ經營迄モ困難ナラシメルノ虞  
アリ已ムナク恨ミヲ吞ミツツ大勢ノ  
事情ニ引キツラレテ行ク者モ相當ニ  
多イ
- 五 教育行政ノ當局者ヨリ準備教育ノ  
撤廢ヲ嚴達シツツモ中ニハ其ノ效ナ  
キ事項モアル等實際之ヲ遵奉セズシ  
テ公然其ノ弊ノ行ハルルヲ看過シ中  
ニハ之ヲ已ムヲ得ザルモノトシテ認  
ムルガ如キ口吻ノ新聞記事ヲモ見ル  
コトガアル等爲ニ自然其ノ弊ヲ甚シ  
カラシメル因ヲモ爲ス
- 六 採用學校ニ於テ校長ノ内申ヲ信用  
セズシテ入學試驗成績ノミニ依リテ  
之ヲ取捨シ又中ニハ試驗ノ設題ガ普  
通の常識のナラザルヨリ自然已ムナ  
ク各方面ニ種種無用ノ心配ヲモ拂フ  
テ準備セシムル必要ヲ感ズルモアル  
等其ノ他一一舉グレバ種種ノ原因ガ  
アル

以上ノ次第ニテ現下ノ狀況ハ文政當局者  
モ其ノ令行ハレズシテ其ノ權威ヲ失墜シ  
學校自身ニ於テモ全校教育ノ統制ヲ妨  
精神ヲ破リテ種種ノ批難ヲ受ケ殊ニ屑  
無用ノ心配ニ精神ヲ勞シ又父兄ハ日夜ノ  
不安ト同情トニ驅ラルル上ニ多大ノ失費  
ヲ要スル等各方面トモ現ニ明瞭ナル損失  
犧牲モ少クナイガ此等ハ尙忍ブベシトス  
ルモ彼レ弱キ者兒童等ハ毎日一荷ニ餘  
正規ノ授業ヲ了リテ後更ニ日没燈迄モ  
重荷ニ苦メラレ憂慮不安ノ念ニ壓セラ  
ル重キ頭腦ヲ垂レツツトボトボト家路ニ  
急グ其ノ可憐サ之ヲ見ル者誰カ一片同情  
ノ涙ナキヲ得ルデアラウカ

家ニ歸リテ僅カニ食事ヲ爲シ了レバ親子  
談笑嬉嬉ノ寸時モ惜ミテ直ニ宿題ニ取  
掛リ幼腦ヲ深更迄モ痛メ其ノ疲果テテ  
寢床ニ入ルモ未解決ノ宿題ヲ夢ニ見諭言  
ヲ云フナド安眠以テ精ヲ補養スルコトモ  
出來ズシテ翌朝ハ又揺リ起サレテ眠リ不  
足ノ眼ヲコスリツツ朝ノ準備——強イラ  
レタ苦痛ノ場ヘ——更ニ焦躁ノ思ヒモテ  
出テ行カネバナラヌ嗚呼悲慘ナル殺人教  
育ヨト叫バザルヲ得ナイデハナイカ  
曩ニ準備教育ノ撤廢ガ試驗地獄ナド痛烈  
ナ名ヲ以テ轟轟トシテ天下ニ絶叫サレタ  
ガ其ノ當時ヨリモ尙一層激甚ヲ極メツツ  
アル今日ノ實狀ニ於テ斯ク泣クコトモ出  
來ズ訴フルコトモ知ラナイ此ノ可憐ナル  
弱者兒童ヲ救ハント努力スル者モナク此  
ノ重大事ヲ雲烟過眼ニ付シツツアルハ是  
レ何事ゾ

彼ノ支那民族ノ氣力ヲ消耗シタノハ科學  
ノ制ガ主原因ト稱セラル然ルニ今我が國  
ニハ支那科學ノ制ト比較ニモナラナイ重  
壓ヲ而モ幼沖ナ第二ノ國民ニ加ヘ我が光  
榮アル日本民族力ノ日ニ銷磨シユク此ノ  
大弊害此ノ年年數十萬ノ罪ナクシテ牢獄  
ニ懊惱セシメラレツツアル可憐ノ兒童ヲ  
救ハザルハ眞ニ是レ天下ノ大不祥デアリ

民族發展ノ大打撃デア  
仍テ私共ハ一日モ速ニ之ガ對策救済ノ途  
ヲ立ツルノ急要ヲ絶叫セザルヲ得ナイ次  
第デ差向直ニ實施施行スベキ諸點ハ左ノ  
事項ナリト思フ

一 小學校長ノ内申制度ヲ廢止スルコ  
ト

此レハ此ノ法ヲ設ケタ當時ハ多少ノ  
功果ガアツタガ現在デハ更ニ其ノ利  
ナキノミデナク弊害ガ多イノデ既ニ  
昨年ノ全國小學校長會議ニ於テモ之  
ガ廢止ヲ答申シタノデア  
其ノ理由ノ主ナルモノヲ擧グレバ

1 準備強制ニ兒童ヲ苦シメルコト  
ヲ欲シナイ父兄ハ家庭デ自由ニ氣  
樂ニ勉強サセタイト思フテ内申  
ノ評點ヲヨクシテ賞ハシガ爲ニ已  
ムナク他生ト共ニ競争シテ學校準  
備ヲシナクテハナラヌ

2 内申ノ評點ヲヨクシテ賞ハシガ  
爲阿諛賄賂等ノ不正ガ行ハレルコ  
ト少クナイ

3 校長トシテハ我が教ヘ兒ノ不利  
ニナル實際ノ事實ノ儘ヲ内申スル  
ニ忍ビズシテ悉ク優點ヲ付スルガ  
爲ニ受驗學校ハ更ニ内申ニ信用ヲ  
置カナイ

4 内申ノ爲ニ入學志望者ノ成績簿  
ニ記入シテアル評點ヲモ書キ改ム  
ルモノモアリ中ニハ二様ノ帳簿ヲ  
作ルガ如キ極端ナノモアル

5 兒童ハ自分ノ成績通知簿ト異ナ  
ル優點ヲ内申セラレ欺瞞虛偽ヲ教  
ヘラル甚ダ恐ルベキコトデア  
入學設問ハ必ズ第六學年ノ材料ヨ  
リ取ルコト

三 合格者ノ出身校名ヲ發表セヌコト  
無理ヲシテ入學シタル者ハ在學中  
半途退學スル者ガ少クナイ此ノ半途  
退學者ヲ出身校別ニ毎年公表スルコト

四 退學者ヲ出身校別ニ毎年公表スルコト

五 教育法規ノ絕對的遵奉ヲ嚴達シ違  
法者ノ處分方法ヲ定メ之ヲ勵行スル  
コト

六 視學ヲ常ニ地方ニ派シカラ之ガ矯  
正ニ盡サシメルコト

七 神戸市ニテハ絕對ニ準備ヲ禁止シ  
タ爲巷間窃ニ之ヲ爲ス者アルヤ警察  
力ヲ以テ壓迫シツツアリト此ノ種ノ  
方法モ一考ヲ要ス

八 各小學校長ノ申合規約ヲ立テ之ガ  
勵行方法ヲ圖ルコト

九 上級學校ノ入學試問ノ課題ヲ年次  
調査シ批評發表スルコト

十 通學ノ距離電車汽車等ニ關スル制  
ヲ設ケ又轉校ノ爲表面的ノ寄留ヲ取  
締ルコト

第二 學科過重ノ爲一般學徒ノ精  
力素性ヲ消耗竭盡セシメツツ  
アルコト

天ハ決シテ無用ノ一物ヲモ造ラズ其ノ無  
用トシ又ハ毒物トシテ捨テテ顧ミラレザ  
ルモノハ是レ未ダ人ノ智慧ガ之ヲ發見ス  
ルニ至ラナイノデ天下ノ森羅萬象何一ツ  
トシテ役ニ立タナイモノハナイカラ之ヲ  
一一研究シテ其ノ效能ヲ闡明スル必要ア  
ル以上ハ之ガ百科ノ學ハ勿論其ノ他之ニ  
伴フ智育ノ又ハ技能的ノ諸學科ハ悉ク人  
生ニ必要ナルハ謂フ迄モナイ

併シアレモ必要コレモ必要ト必要ノ方面  
ヨリ言ヘバ自然科學モ精神科學モ何一ツ  
除クベキモノナキハ勿論ナレド只限リア  
ル人間ノ能力ヲ以テ限リナキ萬有ノ學社  
會ノ現象ヲ悉ク一人ニテ研究シ難キコト  
ハ言フヲ要セヌ所デア  
徒ノ腦力體力ヲ測リ他方ニハ學科ノ難易  
ト其ノ必要ノ程度トヲ考ヘ以テ課程ノ配  
當取捨ヲ爲スコトハ極メテ必要大切ナコ  
トデア  
然ルニ今日ノ學校ニ於ケル教科ハ多ク社  
會必要ノ方面カラノミ割出シ學徒ノ負擔

力如何ヲ考慮セザリシ嫌モアツテ從來既  
ニ餘リニ學科ノ課程多キニ過ギ徒ニ學徒  
ヲ重荷ニ苦シムルノミニテ爲ニ各科トモ  
徹底ヲ缺キ無味ニ陥リ不消化ニ墮シテ所  
謂半上落下ノ實用ナキ遊民ヲ造ルニ止マ  
ルノ批難ハ事實ノ示ス所ナルニ拘ラズ今  
尙舊態依然トシテ之ガ取捨改善セラルル  
所殆ンド之レナキハ國家ノ前途民族ノ將  
來ノ爲誠ニ大遺憾事ト言ハザルヲ得ナイ  
次第デア  
之ニ加フルニ社會各般ノ情態ハ日ニ月ニ  
倍複雜多岐トナリ雜音驟然トシテ怒號叱  
咤變幻出沒恰モ走馬燈ノ如ク送迎ニ追ア  
ラズシテ更ニ之ヲ落付イタル氣分ニ導ク  
ノ注意ナキノミカ今日ニテハ官廳學校  
等ノ施設スラ一層之ニ拍車ヲ加フルガ如  
キモノモアツテ悉ク皆活動映畫中ノ我タル  
觀アル今日ノ四圍環境裏ニ何等心身ノ平  
靜ヲ攪亂セラルル所ナク徐ロニ過重多難  
ノ學科ニ勤マンコト誠ニ容易ノ業デナイ  
況ンヤ入學競争ノ大ナル難關ハ頑然トシ  
テ前路ヲ壓迫シ更ニ就職難生活難ノ將來  
ノ憂慮等人生ノ行路崎嶇險難ヲ思フテハ  
精神身體共ニ剛健強固ノ者デモ或ハ焦躁  
不安ノ念萌シテ動モスレバ忍苦ノ弦ハ弛  
ンデ壯志時ニ挫ケントスルモアルデア  
ウ

今日ノ中等學校ニ於ケル學科目ニテモ之  
ヲ檢討講究セバ其ノ整理分合ノ餘地ハ決  
シテ少シトシナイ第一ニ漢文ノ如キハ最  
モ困難デア  
荷課セラレテ居ル漢字漢語ハ今日ニア  
リテハ全ク國字國語デアツテ國民タル者  
ノ是非知ラナクテハナラナイモノナレバ  
困難ナリトテ之ヲ放棄スルヲ得ナイ若シ  
之ヲ忌避セントセバ日常ノ生活其ノ言動  
ニモ大ニ支障ヲ生ズルニ至ル況ンヤ漢字  
漢語之ヲ學ブノ困難ハ即チ困難ナレドモ  
英語等ト異イ漢字漢語ハ一一意義ヲ有シ  
之ヲ學知スルト同時ニ智識進達ノ力ヲ與

ヘテ學術修業ノ功果ヲ得ルノデアルカラ  
人生鍊磨向上ノ爲缺クコトノ出来ナイ必  
要ノモノデアルコトヲ知ラネバナラヌ併  
シ漢文其ノモノハ殆ンド英語ト共ニ學徒  
ヲ苦シムルコト大ナルヲ以テ中等學校ニ  
於テハ漢文ハ之ヲクツシテ假名交リ文ニ  
改メ以テ之ヲ學習シ易カラシムルヲ要ス  
漢文ニ反シテ英語ノ如キハ之ヲ知ラザルモ  
人生ノ行路ニ敢テ支障ナク殊ニ我が國ノ家  
庭ノ常態カラ一般風俗習慣等全然相異ル  
ヲ以テ之ヲ學知シ之ヲ修得スルニハ極メ  
テ困難デアッテ決シテ漢字漢語ヨリ修メ  
易イトハ言フコトガ出来ナイ現ニ今日中  
等學生ガ上級學校ニ入ル爲ニ最モ苦心ス  
ルモノノ一ハ英語デハナイカ而カモ其ノ  
英語ハ國漢等ヨリ多クノ時間ヲ費シテ居  
ルノヲ見テモ之ヲ知ルコトガ出来ル我ガ  
國ノ學校ニ於テ我ガ國ノ用字用語ノ教授  
ヨリモ外語ノ修學ニ多時間ヲ課スルト  
ハ本末轉倒ノ甚シキモノデ或ル外人ハ我  
ガ國ニ來リ此等ノ狀況ヲ觀テ日本ハ米國  
ノ殖民地カト言ヒタイト冷評シタコトヲ  
聞イテハ實ニ冷汗三斗ヲ浴ビル感ガスル  
ノデアル

今日大都市ニ於テスラ苦惱シテ修得シタ  
ル中等學生ガ英語ヲ我ガ身ニ役立タス者  
ハ少數デアアルニ況ンヤ山間地方ニ在ル  
中等學校ノ如キハ實ニ十ガ一ニモ及バヌ  
モノガ多イ有様デ此ノ點ノミカラ言フモ  
劃一ノ制度ヲ改善シテ伸縮彈力アラシメ  
ルヤウニスルコトハ極メテ必要大切ノコト  
デアアル

況ンヤ英語ハ之ヲ以テ專門學校ハ大學ヲ  
經テ社會ニ出ヅル者モ亦諸種ノ國家試  
驗ヲ通過シタル者モ多クハ試験ノ爲ニ學  
ブモ試験後ニハ用ナキガ少クナリ例ヘバ  
裁判官デモ辯護士デモ皆通譯ヲ用キツツ  
アルデハナイカ此等ノ事實ヨリ考察スレ  
バ英語ヲ獨立シテ役立タス者果シテ幾何  
アリヤ勿論皆無ニアラザルハ言フ迄モナ

ク官吏學者並ニ對外的實業家等其ノ數  
相當ニ之レアルベシトスルモ之ヲ中等學  
校ノ卒業生ノ數ニ比スレバ殆ンド比較  
ニナラナイ少數デアアル

一小部分ノ進學希望者ノ爲ニ大多數ノ  
者ノ腦力資力ヲ犧牲トシテ願ミナイト言  
フ法ガアルカ凡テノ事ハ多數ノ者ノ利益  
幸福ヲ目標トセザルベカラザルニ最モ大  
切ナ大多數ノ青年ノ血力ト最少數ノ  
者ノ爲ニ殉ゼシムルノ事實之ヲ果シテ何  
ト評スベキカ

殊ニ外國語ニ多クノ力ヲ用キルノ結果自  
然日本ノ國狀日本ノ家庭等我が存在ノ根  
本ニ關スル知識ニ疎クシテ之ト全ク制度  
習慣成立ノ異ナル外國ノ事ガ多ク惱裏ニ  
刻ミ付ケラレテ自然外國思想ノトナリ外  
國崇拜ニ陥リ甚シキハ我が國體ニ悖リ國情  
ニ反スルヤウニ墮スルニ至ルノデアル

以上ノ如キ現弊重害ニ鑑ミ速ニ學科ノ取  
捨按排ヲ爲シテ之ヲ運用上ノ彈力性ヲ有  
セシメ英語ノ如キハ主トシテ之ヲ進學志  
望者ニ課シ殊ニ中等學校ニテハ和文英譯ヲ  
廢シ又漢文ハ原文ノ儘ニセズ之ヲ假名交  
リ文ニ改メテ之ヲ課シ又國語ノ擬古文モ  
之ヲ省キ以テ大多數ノ者ヲシテ大ナル無  
用ノ苦惱ヨリ免レシメ一方ニハ日本歴史  
ノ如キハ史實ヨリモ特ニ國家ノ進展變遷  
ニ關スル重要ナル事項ニ止メ主トシテ國  
體ノ根本觀念ヲ確立シ傳統ノ國民精神ヲ  
扶植スルコトニ重キヲ置キ彼等精力ノ徒  
消ヲ除イテ其ノ力ヲ大ニ此等必要ナ方面  
ニ用キシメ以テ教育精神ノ徹底ヲ圖ルコ  
トガ必要デアアル

然ルニ此等學科ノ取捨ニ關スル世人ノ論  
議スル所ヲ見ルニ漢學者ハ漢學自己ノ立  
場ヨリ又英學者ハ英學本位ノ主張ヨリ其  
ノ他數學者理學者等各自己ノ立場利益  
カヲ主張シ總體ノ全般ノ利益ヲ學  
徒ノ實情ヲ顧ミズ五ニ相確執シテ國家民  
族ノ公ニ奉ゼンコトヲ思ハズ又學校ノ系統

等ノコトニ關シテモ大學ノ者ハ只大學ノ  
便ヲノミ是レ謀リ中學小學ハ亦皆夫レ夫  
レ自己ノ範圍ヲ主張シテ大局ヲ顧ミズシ  
テ他ヲ斥クルガ如キ何レモ皆利己ノ甚  
シキモノデ大ニ之ガ猛省ヲ促サザルヲ得  
ナイコトデアアル

斯ヤウナ次第デアアルカラ學校ハ青年子女  
ガ愉快ノ念ヲ以テ共ニ希望向上ニ勤ム感  
謝ノ殿堂デアリ家庭ハ和諧ノ心ヲ以テ互  
ニ交歡敬愛スル安慰ノ天國デナクテハナ  
ラスノニ苦難ナ多クノ學科ハ強課セラレ  
又各教師ハ徒ニ各受持學科ヲ何等ノ連絡  
モナク統制モナク全ク斷片ノ注入ノニ之  
ヲ無理強イニ誦誦セシメテ彼等青年ノ精  
力浪費ヲ願ミザル者多ク家庭モ亦放縱無  
節制ニシテ團樂嬉笑ノ安慰モナク入ツテ  
モ出テモ乾燥不愉快ノ間ニ重壓セラルル  
彼等學徒ハ爲ニ危殆ノ者ハ自暴自棄ニ陷  
リテ甚シキハ自殺スルニ至ルモアリ顯微  
ナル者ハ呪咀反抗ノトナリ危險凶惡ノ徒  
ト化スルモアル是レ寧ろ惘然ノ情ナキヲ  
得ルデアラウカ前年來世人ヲ驚カシタ凶  
逆ノ徒ノ殆ンド總テガ優秀者ノ入ルト言  
フ官立大學專門學校ノ出身者デアリト  
聞キテハ巨額ノ國費ヲ以テ國家ヲ破壞ス  
ル危險ノ「リード」ヲ國家自ラ養成シツ  
ツアリト言フテヨイ實ニ逆施倒行ノ甚シ  
イコトデハナイカ

以上ノ如キ事實ニ當面シテ一時モ速ニ之  
ガ整理改訂ヲ爲スベキ急要事ハ

一 學科ヲ整理シテ學徒過重ノ負擔ヲ  
輕減スルコト

二 學科及時間ノ按排ニ伸縮ノ餘地ヲ  
與ヘテ劃一ヲ除キ彈力性ヲ有セシム  
ルコト

三 英語漢文擬古文等ノ整理ヲ爲シ或  
ハ之ヲ希望者ニノミ課シ又上級入學  
受験科目ヨリ除クコト

四 各學科ノ連絡統制ヲ謀リ之ガ教育  
精神ノ徹底ヲ期スルコト

五 專ラ書物上ノ學問ニ偏スルノ弊ヲ  
改メ現實ニ即シテ之ガ研究ヲ爲スノ  
便ヲ與フルコト

六 記憶ト演繹トヲ主トセズシテ推理  
ト歸納トニ力ヲ用フルヤウ指導スル  
コト

七 注入ニ專ラナル弊ヲ改メ學徒自身  
ノ考察判斷ヲ行フ機會ヲ與フルコト

八 餘リニ試験ニ重キヲ置イテ卑劣心  
ヲ誘致スル制度ヲ改善シテ各自天性  
ノ暢達ヲ完ウセシムルコト

九 修身ハ知ルコトニ重キヲ置カズ行  
フコトヲ目標トシテ實行ノニ指導ス  
ルコト

十 中小學ノ歴史ハ煩細ナル史實ヨリ  
モ國民精神ノ涵養ヲ主トスルコト

第三 營養缺損ノ爲國民全體ノ身  
體機能ヲ萎靡磨滅セシメツ  
ツアルコト

我が日本民族ガ義勇烈烈トシテ眞ニ忠魂  
其ノモノガト思ハレ程愛國奉公ノ精神  
ニ富メルコトハ近ク滿洲上海等ニ於ケル  
壯烈鬼神ヲ泣カシメル偉績ニ徴スルモ明  
カデアツテ實ニ世界驚異ノ的トナツテ居  
ル然ルニ我ガ此ノ光輝アル日本魂モ若シ  
之ヲ容ルル全般國民ノ身體機能ガ漸次危  
弱銷磨シユイテハ之ヲ振起發揚スル精神  
ノ強健性ヲモ亡失シテ外ニ向ツテ剛勇ナ  
ル民族モ内ニ對シテ次第ニ衰敗センカラ  
怖レザルヲ得ザルコトハ苟モ國家民族ノ  
前途ヲ思フ者ノ極メテ重大ノ關心事デア  
ル

我が日本ノ土地ハ漸次氣候ガ溫暖ニナリ  
ツツアリト稱セラルルニ近年次第ニ人々  
ガ反テ厚服ヲ加ヘツツアル有様ハ是レ即  
チ各人皮膚ノ軟弱ニナリユク事實ヲ語ル  
モノデハナイカ皮膚ノ軟弱ハ即チ機能肉  
體ガ衰弱ニナツタ現レデアリ又我が日本  
人ノ齒ガ多ク丈夫デアツタコトハ明治ノ  
初米國齒科醫ガ日本人ノ齒疾者ノ少イノ

ニ驚キ手ヲ空ウシテ歸國シタリト言フヲ

以テモ知ラレコトデアアル然ルニ近年ニ至リ惡齒者滔滔トシテ殖エ今や世界第一ノ惡齒國タルノ狀況ヲ呈スルニ至ツタガ

齒ノ惡キハ身體筋骨ノ惡クナツタコトヲ示スノデアアルコトヲ知ラネバナラヌ

皮膚肉體ガ脆弱トナリ齒牙筋骨ガ脆惡トナリ而シテ其ノ惡結果ガ所在ニ現レザル道理ハナイ即チ從來殆ンド聞カナカツタ

兵士ヤ學徒ノ日射病ニ冒サル者ガ近年倍增加スル事實ヲ見ルデアラウ神經衰弱「ヒステリー」及近眼亂視ノ非常ナル増加ヲ知ルデアラウ更ニ近頃弱視者ノ多イ初

耳ノ事實ニ驚クデアラウ統計ノ示ス所ニ依レバ我が國小兒ノ死亡率ハ世界第一デアリ學校醫ノ言フ所ニ依レバ學生ノ四割ハ悉ク初期ノ肺病ニ悩ミツツアリトノコトデ「エ、エフ、トーマス」氏ノ如キハ

日本ヲ病人市場ト酷評シテ居ルデハナイカ

斯ヤウナ脆弱ナ肉體ト脆惡ナ筋骨トヲ以テ組ミ立テタ病的身體カラ如何シテ無病健全ナ精神ガ生ズルデアラウカ勇武強剛ナ氣力ガ出ルデアラウカヲ思フトキ實ニ

慄然トシテ膚ニ粟ヲ生ズルノ感ヲ致スノデアアル憂心ノ情忪忪トシテ湧キ來ルノデアアル

迄モナイ

我が國民ハ開闢以來米ヲ主要ノ常食トシテ來リ日本人ハ實ニ米ヲ養ハレ米ヲ育テラレ所謂日本魂ハ米ノ精力カラ受クル魂デアアル米ハ實ニ人體諸般ノ機能細胞ヲ形成シ健康長壽ニ要スル各種必要ノ營養素

滋養分ヲ悉ク完全ニ適量ニ含有スル全ク天惠ノ理想的食糧ナルニ拘ラズ元ト己ノ衣ニモ堪ヘザル婉柔ナ後房安居ノ媛女等ガ自

然軟食ヲ希望スルヨリ何時ノ頃ヨリカ時ニ春白シテ之ヲ供セラレ其レガ漸次ニ廣ガリ白色快觀ノ目ヲ喜バシテ上流華奢ノ

一部ニ行ハルルニ至リシモノガ上ノ爲ス所下之ヲ倣フ一般ノ人情ニ伴ヒ漸次春精ノ弊風ヲ增長シ時ニ穰穰豐年ノ餘穀ヲ剩

スヤ倍精白ノ流行ヲ誘致シ遂ニ德川氏太平ノ時ニ至リ一般遊惰華美ノ弊風ト共ニ

滔滔トシテ廣ク全國ニ普及スルニ至ツタモノデ決シテ何等生理上衛生上ノ如キ合理的

原因ニ依ツタノデナイコトハ勿論デアアル

併シ其ノ始ハ精白スルト言フモ只人ノ手足ヲ勞スル手杵臼等ノ家庭小作業デアッタカラ今日カラ見レバ三分搗五分搗位ノモノガ普通デ七分搗ニモ至ルガ如キハ極メテ稀デアツタラウカラ尙相當ニ滋養部分ハ殘存シテ居タノデアアルガ人々次第ニ勞力ヲ省クコトヲ工夫シ所謂砂搗石粉搗ガ所在ニ行ハルルニ至リ隨テ其ノ砂土ヲ清除スル爲徹底底ノ淘洗セザルヲ得ザルヲ以テ滋養部分ハ殆ド多ク水溶シ捨ツルニ至リ更ニ機械ノ發達ト共ニ精白業者ノ

常ナ不經濟ニ陥ッテ家計費ノ増大ヲ來シタノミデナク人工ノ調理的ニ加除スル副

食物ハ其ノ營養量質ガ常ニ過不足ヲ免レザルハ勿論到底玄米ノ天成自然ノ完全ナルニ及ブベクモアラズシテ爲ニ白米ヲ主

食トスルヨリ生ズル所謂白米病ニ罹ル者滔滔トシテ全國ヲ襲フニ至ルノ狀況トナツタノデアアル

現下ノ殆ンド全部ノ人々ハ兎角落付ガナクナテ忍耐ガ乏シク根氣ガ續カナイデ早ク倦怠ヲ感ズル等各自氣力體力ノ減耗ヲ來セルコト多大ナルモ或ハ之ヲ世ノ中ガ

澆季トナリ變遷スルヲ免レナイ自然ノ運行ナルガ如ク思ヒ括シテ顧省スル所ナキガ如キモ而カモ是レ全ク白米病ノ現ハレニテ之ガ爲ニ人々ノ事務ノ學業ノ能率ヲ減殺スルノ損害果シテ幾何ゾ況ンヤ其

ノ爲スル所各自ノ個性體質如何ニ因ッテ或ハ脚氣トナリ或ハ痔トナリ或ハ肺患トナリ或ハ疾トナル等疾病者ノ多キヲ致ス是

レ實ニ當然ノ結果ト言フベクカノ病人市場ト罵罵セラレテモ殘念ナガラ之ヲ反駁スル辭ハナイデハナイカ

以上ハ既ニ實際ノ事實ニ徴シテ明白ノコトデアアルガ尙茲ニ私ハ内外ノ博士專門家等ガ研究著述セル諸說中カラ其ノ要旨ヲ抄取シテ以テ其ノ趣旨ヲ確實ニシタイケレドモ餘リニモ長文トナルヲ慮レ左ニ

參考ノ爲私ガ獵涉講究シテ重ナル諸著說ノ書名題目ノミヲ掲グ

一玄米ト癌腫トノ關係

ボストン大學教授 バツカート博士

一榮養ノ研究 醫學博士 大森 憲太

一國民榮養講座

醫學博士 高龜 良樹

一榮養ノ本義 醫學博士 佐伯 矩

一小兒脚氣ト糠ノ效力 アンドレウス

一白米食トカルシウム缺乏ノ害

一オリザニンノ必要

農學博士 鈴木梅太郎

一神カラ授ケラレタ有難ヒ玄米食

醫學博士 二木 謙三

一國民榮養ノ現在ト將來

醫學博士 戸田 正三

一玄米食ノ分析及榮養素量

陸軍糧秣本廠

一糠ト白米トノ成分ニ就テ

農科大學

一無砂及泥砂搗精ニ依ル試驗

農林省

一白米病ニ就テ

醫學博士 平石 貞市

一肺結核豫防及治療ノ本道

醫學博士 近藤 乾郎

一眼ト榮養

醫學博士 田丸 要槌

一日本ニ適スル衣食住

中山 忠直

一めしのあぢは

村土 純祥

一民族衛生

醫學博士 永井 清

一榮養問題ト齒ノ關係

日本齒科醫專學校長 中原市五郎

尙醫學博士戸出軍兵氏ノ「白米亡國論」ヲ

緋ケバ徳川氏ノ中葉ヨリ白米食ノ盛行ト

共ニ脚氣病大ニ流行シ當時ノ皇漢醫中之

ガ研究ニ力ヲ致セシ者少カラザル事實ヨ

リ下ツテ明治ノ後ニ至ッテモ内外ノ博士

大家ガ之ニ頭ヲ痛メシ跡ヲ披シツツ項ヲ

分ッテ博士ノ索勞研究スル所ヲ合セ説キ

終リニ「白米禁止ニ關スル實際運動」ノ項

ニ於テ



我が國ニ於ケル白米禁止運動ハ極メテ最近ノコトデアラスノ提議ノ始メテ現レタノハ荒川五郎氏ノ玄米ニ關スル提議案ヲ大正八年第四十一議會ニ提出シタルニ始マリ島田三郎氏ハ大正十一年夏始メテ禁砂問題ノ必要ナルヲ説キ尾崎行雄氏ハ大正十四年穀類摘取取締ニ關スル請願ヲ紹介シ更ニ同議會ニ於テ荒川五郎氏ハ同趣旨ノ建議案ヲ提出シタ

云云ト私ノ建議本文ヤ理由書及議事ノ經過等ヲ掲ゲ而シテ博士ハ其ノ最後ニ於テ以上述べ來ツタ數萬言ニヨリ今後數十年、數百年ト白米ガ續ケラルルナラバ日本國民ハ必ズ體力ノ上カラ衛生ノ上カラ劣敗者トナリ亡國ノ基トナルニ至ルト誰シモ考ヘルデアラウ即チ吾人ガ此論文ヲ敢テ公表スル所以デア

ト結論シテ居ル所實ニ博士憂國ノ赤誠ニ敬意ヲ表スルト同時ニ斯ヤウニ專門家ノ說ク所全ク私共素人ノ思ヒ惱ム所ト毫モ異ナル所ナク皮膚筋骨ノ耗弱身體精神ノ衰退今日ノ實狀ヲ見ルトキ永ク此ノ程度ニ停マルコトヲ誰カ斷言シ得ルデアラウカ既往ニ考ヘ之ヲ將來ニ測ルハ今後倍急速度ニ其ノ惡變ノ性狀ト其ノ數量ヤ範圍ノ廣ク且大ヲ増加スルデアラウコトヲ思フテハ何トシテモ是レ寸時モ徒過スルヲ許サレナイ眞ニ由シキ重大事デア

ス様ニ體力氣力ハ低劣シテ人々多ク焦躁トナリ陰鬱トナリ能率ガラズ事功進マズ不安重壓ヲ感ズルノ時一方ニハ世ノ中ハ倍複雑繁忙トナリ之ニ加フルニ經濟難生活難ハヒシヒシトシテ身邊ニ迫リ來リ之ヲ防禦シ撃退スル氣力モナク哀レヤ人生ノ敗亡者タラントスルキ自然ニ人ヲ嫉ミ世ヲ呪ヒ或ハ自暴自棄ニ陥リ危險凶逆ニ墮スルニ至ル者アルコト是レ全ク其ノ者ノ罪デア

ルデハアルマイカ此ノ世相ヲ凝視シテ苟モ國ヲ思ヒ人ヲ愛スル者ノ深憂ノ感ナキヲ得ルデアラウカ私ハ一身ヲ獻ゲテ教育奉仕ニ盡サンコトヲ心ニ誓フテ以來最モ關心ニ堪ヘナイノハ知能學藝ノコトヨリモ此ノ國民體力ノ劣惡化デアツテ健康ヲ身體ヲ造ラネバ健全ヲ精神ヲ宿スコトガ出來ザレバ此ノ國民ヲ養フ主食ノ米ノコトニ關シテ大正八年二月玄米食ノ普及獎勵ノ建議案ヲ提出シ專ラ之ガ普及ニ努メテ居タガ地震災ノ當時白米ガ間ニ合ハナイノデ玄米ノ炊方等モ知ラズ殊ニ一般焦躁不安ノ際ニ玄米ヲ配給サレボロボロノ半炊飯ヲ咀嚼モセズ嚥下スルト言フ有様多クノ人ニ一層玄米ハ實ニ喰ヒニクク又腹ノ具合モ惡シキモノトノ實感ヲ與ヘ之ガ普及ニ頓挫ヲ來シ已ムナク之ガ一時ノ經過ヲ次善ニ維ガント思ヒ大正十四年三月榮養主糧食ノ取締及獎勵ニ關スル建議案ヲ提出シタ次第幸ニ此ノ建議ハ委員會モ本會議モ滿場異議ナク通過シタカラ私ハ此ノ建議ノ理由ヤ委員會ニ於ケル政府委員トノ問答等ヲ始め此ノ事ニ關スル諸願記事等ヲモ録シテ「國民ノ保健及經濟ニ大關係アル榮養主糧問題」ト題シテ小冊子ヲ作り之ヲ各方面ニ配呈シテ世人ノ注意ヲ喚起センコトヲ圖ツタノデア

此ノ頃ヨリ半搗米、胚芽米ノ榮養價值ニ就テ醫學者ハ勿論其ノ他一般人士ノ論議モ倍多ク遂ニ斯道ニ熱心ナル醫學博士ニ木謙三氏ニ依リテ人間榮養ノ生命糧トナルモノハ生性ヲ保テル食物デナクデハナラナイカラ假令半搗七分搗ト雖モ既ニ器械ニテ春虐セラルル以上ハ其ノ生性ヲ失ヒ即チ死米トナルヲ以テ人間ノ食糧ハ玄米ニ限ルコトヲ公ニセラレ一方戸出、平石其ノ他ノ諸博士ニ依リテ白米病ニ關スル研究ガ發表セラレ之ニ伴フテ玄米食ノ炊キ方調理ノ研究家モ續出シ殊ニ宮脇彦三郎氏ノ如キハ東京榮養研究會ヲ起シ專ラ玄米ノ普及ニ努力スルニ至ツタヲ見テ私ハ昨昭和七年十二月宮脇氏ヲ誘フテ平沼樞密院副議長、山本内務大臣並ニ床次竹二郎氏等ノ共鳴ヲ求メテ其ノ連名ノ下ニ玄米榮養食ノ講演及試食ノ會ヲ開キ二木、白石兩博士ノ講演ヲ乞ヒタル所齋藤總理大臣ノ如キハ刻下政務最モ多忙殊ニ重大ノ時ナルニモ拘ラズ四時間以上モ列席シテ聽講試食ヲ共ニシ且大ニ之ガ實行普及ノ希望ヲ演說セラレタ等私ハ此等諸氏ガ國家民族ノコトヲ思ハル誠意ニ對シテ眞ニ感謝ニ堪ヘザル所其ノ後私ハ廣島ノ自宅ニテモ二回又東京ニ於テモ鳩山春子女士ヲ誘フテ同様に會ヲ開イタノミデナク各方面ノ會食宴會等殆ンド常ニ玄米飯ヲ持參シテ試食ヲ求メ説明ヲ爲シ居ルニ當リ茲ニ有力ナ實業家白石元次郎氏ノ如キハ此ノ程日本工業俱樂部ニ多數ノ知友ヲ招キテ試食宣傳ノ會ヲ開カルル等次第ニ共鳴者ヲ増シツツアルコトハ是レ私共ノ大ニ意ヲ強ウスル所デア

又二木謙三、平石貞市、村上連三、高木逸磨、川崎頑太郎ノ五醫學博士ハ「玄米ハ人稱榮養上最モ完全」ナル旨ヲ解説宣明書ヲ發シ全國各地ノ醫學博士ヨリ續續贊同ヲ申來リ今既ニ三百四十餘名ニ及ンデ居ルデア

アル態度トシテ私ハ敬意ヲ表スルデア

斯様ナ次第デ私ハ此ノ國家ヲ濟シ民族ヲ救フハ先ヅ何モノヲ措イテモ玄米食ノ古ニ復シ之ガ普及ニ努力スルニ在ルコトヲ思ヒ殊ニ今日國民經濟難思想難ノ時局ヲ匡救スルノモ全ク此ノ玄米食ノ普及ヲ根本ノ國策ナリト確信シ此ノ時此ノ際猶セズ豫セズ一時モ速ニ玄米食ノ普及盛行ヲ切望スル所以デア

彼レ世界ノ自由國ヲ以テ誇ル米國デスラ尙人民ノ嗜好ト自由ト抑ヘ一部ノ反抗ヲ壓シテ迄斷乎トシテ禁酒ヲ嚴令シタデハナイカ國家多大ノ收入ヲ犧牲トシテ迄勇決以テ民族ヲ救ハントスル其ノ氣慨抱負ハ今ヤ政情ノ變化之ヲ解クニ至ルトハ言ヘ其ノ遠謀深慮ノ雄大ナルヲ羨マザルヲ得ナイ次第デア

ル又「ヒリツピン」政府ハ脚氣病ノ續出ヲ見ルヤ直ニ白米使用禁止令ヲ發シ

爾今政府ヨリ糧食ノ官給ヲ受クル者ニ對シ白米飯ノ使用ヲ嚴禁ス

玄米ヲ得ガタキ場合ニ於テ同量ノ「マングー」ヲ以テ一日置キニ代用スルトキハ白米ヲ使用スルコトヲ得而シテ政府ハ此場合ニ「マングー」ガ白米ノ代用トシテ確カニ使用セラレタルコトヲ以テ満足スベシ

若シ玄米及ビ「マングー」ノ何レヲモ得ガタキ特別ノ場合ハ白米ヲ使用スルコトヲ得ルモ但シ此ノ場合ニ於テハ糖又ハ其ノエキスを求メ得ル場合ハ醫師ノ指定ノ下ニ白米ト共ニ之ヲ食用スベシ

右ノ場合ニ於テ白米ヲ使用シタルトキハ直ニ其ノ理由及事情ヲ具シ衛生監督官ニ報告スベシ

ト嚴達シテ糧食官給者ニ勵行セシメ以テ一般人民ニモ之ニ倣ハシムルヤウ促及スルノ方法ヲ講ジテ居ル

彼レ「ヒリツピン」政府スラ此ノ如シデア

ル殊ニ米國ノ如キ巨額ノ酒稅收入ヲ損シテ迄モ一旦之ヲ英斷セルニ比シテ我ノ此ノ玄米食ハ國家ノ收入ヲ損スル所ナキノミカ搗粉其ノ他ノ輸入ヲ減ジ諸般國費ノ節約ヲ謀リ得ル所少カラザル上ニ民間副食多費ノ節約利益ニ止マラズ疾病不能率ノ損失ヲ免レ國家ノ進運經濟ノ上ニモ多大ノ利益ヲ擧ゲ得テ何レノ方面カラ見テモ百利アリテ一損ナキ以上ハ之ヲ斷行勵施スルニ於テ何ノ躊躇スル所アルベキヤ世間ニハ人ノ常食嗜好ヲ壓スルハ困難ナリト説キ又政府者ニモ此ノ論アリテ其ノ

大ニ利益ナルヲ知りナガラモ尙且逡巡シテ之ヲ斷行スル能ハザレド併シ此ノ重大時局ニ當リ斯ヤウナ瑣瑣タル小執ニ拘リ其レスヲ排除スルコト出來ズシテハ如何シテ此ノ時局ヲ開轉シ民力ヲ作興スベキカ實ニ慷慨ニ堪ヘナイ次第デアル

況ンヤ白米食ハ國民天然ノ嗜好ニ出ヅルノデナクテ時弊ニ伴フタ一種ノ惡習慣ニ止マルカラ決シテ天然ノ嗜好ヲ抑壓スルニアラズシテ時弊馴致ノ惡習慣ヲ改メンコトヲ望ムノデ嗜好ト慣習トノ此ノ間ニ大ナル區別ノアルコトヲ知ラナクテハナラナイ

故ニ玄米食ノ普及ヲ圖ルノハ國民ノ嗜好ヲ禁ズルニアラズシテ弊習ノ改善ヲ勸ムルノデアリ壓制スルニ非ズシテ之ヲ開導スルノデアツテ而カモ少シク心ヲ用キレバ直ニ其ノ惠ニ浴シ其ノ利ニ霑フテ一般ノ大ニ安生ト愉快ト利益トヲ樂ミ得ルニ至ルコト實ニ鏡ニカケテ觀ルガ如シ

故ニ政府ハ躊躇セズ依違セズ國民民生ノ爲斷斷乎トシテ一日半時モ速ニ之ガ普及ノ途ヲ講ジ先ヅ陸海軍隊ハ勿論其ノ他學校病院施療院等常食官給ノ者ニ對シテ總ベテ之ヲ玄米食ニ改メ同時ニ進ンデ廣ク一般ニ普及方ニ關シ其ノ方法ヲ設ケラレシコトヲ望ム

右三事項ニ對シ

- 一 文政當局ノ責任者タル文部大臣ハ如何ノ所見對策ヲ有セラルカ
  - 二 三事項トモ身體衛生ニ大關係アルモノ隨テ其ノ當局タル内務大臣ハ如何ニ考ヘラルカ
  - 三 又剛健勇武ナル護國ノ干城ヲ育成スベキ陸海軍大臣モ均シク重キヲ置カレザルヤ
  - 四 尙國政全般ノ變理統制ニ任ゼラルル總理大臣ノ此等ニ對スル一般方針如何
- 右及質問候也

昭和八年三月十四日

内閣總理大臣 子爵齋藤 實

衆議院議長 秋田清殿

衆議院議員 荒川五郎君提出我カ民族力ヲ衰耗銷磨シツツアル三大弊事ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員 荒川五郎君提出我カ民族力ヲ衰耗銷磨シツツアル三大弊事ニ關スル質問ニ對スル答辯書

- 一、從來少年ノ上級學校入學準備ニ關スル弊害ノ尠カラザルモノアルヲ認メ曩ニ中等學校入學者選抜ニ關スル制度ニ改正ヲ加ヘ學校ニ於テ選抜ノ爲ニ行フ考查ハ小學校ニ於ケル平素ノ教育力著實ニ行ハレ兒童ヲシテ日々ノ課業ヲ規律正シク學習セシムルニ於テハ良好ナル結果ヲ現ハシ一時ニ急速ナル準備教育ヲ施スノ必要ナカラシムルガ如キ材料方法ニ依リテ實施セシムルコトトシ以テ小學校ニ於テハ小學校令ノ本旨ニ依リテ國民教育ノ實績ヲ學クルコトニ全力ヲ盡シ上級學校ニ於テハ性行實力等ニ就キ公正ナル選抜ヲ行フヘキコトヲ期セシメツツアリ、之ニ依リ近時入學準備ノ弊ハ漸次改善セラレツツアルモノト認メ將來ニ於テモ尙此ノ趣旨ニ依リ準備教育ノ弊ヲ矯正スルコトニ力メントス
- 二、學校教育ニ於テハ國民生活上必要ナル知徳ヲ養成シ能力ヲ鍊磨スルヲ要スルニ依リ其ノ教育内容ハ國民生活ノ進歩、文化ノ發展ニ適應セザルベカラズ、之ヲ以テ學校ニ於ケル學科課程ノ編制ニ關シテハ之ガ需要ニ應ズルト共ニ生徒ノ心身ノ發達ニ深ク留意シ負擔ノ過重ヲ避クルコトニ付深甚ナル考慮ヲ加ヘ必要ニ應ジ適當ナル改正ヲ施シツツアルモノナリ
- 三、(イ)我カ國民ノ常食トシテ米ハ非常ニ

貴重ナル食料ナリ近時精白米ガ國民一般ノ常食トナル傾向アリ、同時ニ精白米ノ有スル營養上ノ缺陷(ウイタミンBノ缺乏)モ學者ノ研究ニ依リテ明白ナリ、其ノ缺陷ヲ補ハシガ爲ニ胚芽米、七分搗米等提供セラレタリ、而シテ單ニ化學的成分ヨリ見レバ玄米ハ最モ勝レタル價值ヲ有スルモノコトナリ從テ學校教育ニ於テハ家事科等ヲ中心トシテ此ノ點ニ關スル營養學上ノ理論ニ基キ兒童生徒ヲシテ米ノ營養ニ對シ正シキ理解ヲ與フルコトニ力メ居レリ

(ロ) 又學校寄宿舎ノ食事ニツキテハ直接獻立上ノ指導ヲナサズト雖モ何レモ精白米ノ缺陷ニツキテハ十分承知セルヲ以テ各學校共其ノ食事ハ原則トシテ胚芽米、七分搗米等ヲ用ヒ、精白米ノ缺陷ヲ補フコトニ力メ居ルノ現狀ナリ

(ハ) 又昨年九月ヨリ實施セル學校給食臨時施設ニツキテモ、其ノ獻立ニ於テ特殊ノ事情ナキ限り米ヲ用フル場合ニハ、概ネ精白米ハ用ヒ居ラズ

(ニ) 米ハ精白スルコトニ因リテ、ビタミンB、蛋白質、脂肪並ニ灰分ヲ多ク含有スルモノ皮質及胚芽ヲ損耗シ、之ニ依リテ米ノ營養價ヲ減損スルヲ以テ、副食物ヲ適當ニ配合シ、營養ノ補充ヲ爲スニ非ザレバ、營養障害殊ニ我國ニ多キ脚氣ノ誘因ヲ爲スノ惧アリ故ニ白米ノ常食ハ營養上之ヲ適當ナリト謂フコトヲ得ズ

玄米食ニ付テハ搗減ノ憂ナク、從テ化學的成分ニ於テハ優レ且白米病ノ虞ナシト雖、又一面消化吸收率ノ低クシテ、徒費量ノ大ナルコトヲ得ズ

ト等ニ於テ相當缺陷ヲ有スルモノト認メラル

要之、國民ノ常食トシテ玄米食ヲ獎勵スベキヤ、將タ或ル程度ニ精白シタル米ヲ獎勵スベキヤハ、保健並ニ經濟ノ兩方面ヨリ周到ナル調査研究ヲ遂ゲタル上斷定スベキモノナルヲ以テ、内務省ニ於テハ營養研究所ヲシテ銳意之ガ研究ヲ爲サシメツ、アリ、而シテ、現在迄ノ同研究所ノ調査ノ結果ハ、玄米食ヲ以テ最モ推奨スベキモノト謂フヲ得ズ

右及答辯候也

昭和八年三月十四日

文部大臣 鳩山 一郎  
内務大臣 男爵山本 達雄

沖繩縣振興ニ關スル質問主意書  
右成規ニ據リ提出候也  
昭和八年二月二十八日

提出者 高田 耘平  
沖繩縣振興ニ關スル質問主意書

沖繩縣ハ其ノ氣候、風土、交通等他ノ内地ト非常ニ異ルヲ以テ今日ノ如ク内地ト同一待遇ニテハ官吏ハ其ノ位置ニ安セス其ノ職ニ安定セサル官吏ノ指導監督ヲ以テシテハ産業助成ノ爲政府力如何ニ多大ノ支出ヲ爲スモ其ノ成果ヲ舉グルニ困難ナルヤ明ナリ今ヤ政府ハ昭和八年度ヨリ相當多額ノ支出ヲ爲シ以テ今日迄等閑ニ付セラレタル沖繩縣ノ産業振興ニ著手セムトス依テ此ノ際同縣官吏ノ待遇ヲ臺灣、朝鮮ト同一程度ニ改善スルヲ以テ合理的ニシテ根本的ナル同縣振興ノ方策ナリト信ス政府ノ所見如何

右及質問候也

昭和八年三月十四日

内閣總理大臣 子爵齋藤 實  
衆議院議長 秋田清殿

衆議院議員高田平君提出沖繩縣振興ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員高田平君提出沖繩縣振興ニ關スル質問ニ對スル答辯書  
沖繩縣官吏ノ待遇改善ニ關シテハ從來相當考慮シ居レルモ未ダ成案ヲ得ルニ至ラズ今後尙篤ト考究ノ見込ナリ  
右及答辯候也  
昭和八年三月十四日  
內務大臣 男爵山本 達雄

足尾銅山鑛毒問題ニ關スル再質問主意書  
右成規ニ據リ提出候也  
昭和八年三月二日  
提出者 栗原彦三郎

足尾銅山鑛毒問題ニ關スル再質問主意書  
本員ハ曩ニ足尾銅山鑛毒ニ關スル質問書ヲ提出シ政府ノ答辯ヲ得タルモ答辯其ノ要領ヲ得ズ依テ已ムヲ得ス茲ニ再質問ヲ提出ス

內閣總理大臣ニ對スル質問  
足尾銅山鑛毒堆積場十八箇所ニ堆積スル、植物及人畜ヲ害スル猛毒含有ノ毒泥渣ハ之ヲ將來流出ノ憂ナキ程度ニ完全ナル處置ヲ爲サントスレハ現在ノ堆積量ニ於テ其ノ經費四千五百八十八萬圓ヲ要スト見積ラレ又之ヲ一時ニ處置セス唯流出ヲ止作業ノミヲ行フモ其ノ經費年額三十五萬圓以上ヲ要シ若完全ナル處置又ハ日必要ナル流出ヲ止作業ヲ怠ラハ飛騨國一箇國ノ面積ニ相當スル舊被害地七十六箇村ハ忽チ毒沙漠ト化スル虞アリ鑛業主一朝廢山シタル場合ハ毒泥渣ノ處置又ハ毒泥渣流出ヲ止作業ハ政府自ラ之ヲ行フモノナリヤ或ハ前鑛業經營者ヲシテ之ヲ行ハシメムトスルヤ政府ノ所見如何

商工大臣ニ對スル質問

足尾銅山鑛業主古河ハ足尾銅山ノ經營資金ハ以前五千萬圓以上ナリト稱シ來リシカ前年株式組織ト爲ス時資本金二千五百萬圓ノ鑛業會社トシタリ然ルニ最近一方ニ於テ増產計畫ヲ立テ其ノ準備ヲ爲シツアルニ拘ラス曩ニ其ノ資本金ヲ減少シテ一千萬圓ト爲シ更ニ資本金ヲ再減シテ五百萬圓ト爲シ運轉資金ハ一切借入ニ仰カムトスルノ意圖ヲ有スト聞ク是レ明ニ損害賠償ノ原因發生シタル際之ヲ忌避シ又廢山、休山等ノ場合會社無力ニシテ堆積毒泥渣ノ處置並毒泥渣流出ヲ止作業ヲ爲スノ力ナシトシ其ノ經費支出ヲ國家ニ轉嫁セムトスルノ陰謀ニ基クモノナリ政府ハ之ニ對シ如何ナル監督ヲ爲シツアルヤ  
右及再質問候也  
昭和八年三月十四日  
內閣總理大臣 子爵齋藤 實  
衆議院議長秋田清殿  
衆議院議員栗原彦三郎君提出足尾銅山鑛毒問題ニ關スル再質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)  
衆議院議員栗原彦三郎君提出足尾銅山鑛毒問題ニ關スル再質問ニ對スル答辯書  
足尾銅山ニ於ケル泥渣ノ處置ニ關シテハ政府ハ常ニ周到ナル注意ヲ拂ヒ監督ヲ厲行シツツアル所ニシテ現在泥渣散逸ノ虞ナキモノト認ム  
尙同鑛山ハ現在ノ稼行狀態ヨリ推察スルニ當分廢山スルコトナカルベキヲ以テ今直チニ其ノ場合ニ於ケル對策ヲ攻究シ置ク必要ナキモノト認ム  
右及答辯候也  
昭和八年三月十四日  
內閣總理大臣 子爵齋藤 實  
衆議院議員栗原彦三郎君提出足尾銅山

鑛毒問題ニ關スル再質問ニ對スル答辯書  
足尾銅山ハ從來石炭鑛業及金屬鑛業ヲ兼營スル資本金二千二百五十萬圓ノ古河鑛業株式會社ニ屬シタリシガ本年三月一日ヨリ同會社ハ資本金ヲ一千萬圓ニ減少シ古河石炭鑛業株式會社ト改稱シテ石炭鑛業ノミヲ經營スルコト、ナリタルト同時ニ足尾銅山其ノ他ノ金屬鑛業ハ資本金二千萬圓ノ無限責任古河鑛業合名會社ノ事業トナリタルモノニシテ之ガ爲足尾銅山堆積泥渣ノ處置ヲ爲スノ資力ニ別段ノ支障ヲ及ボスコトナシト認ム  
右及答辯候也  
昭和八年三月十四日  
商工大臣 男爵中島久萬吉

朝鮮私設鐵道ニ關スル質問主意書  
右成規ニ據リ提出候也  
昭和八年三月二日  
提出者 綾部健太郎  
外二名

朝鮮私設鐵道ニ關スル質問主意書  
第一問  
朝鮮ニハ鐵道國有法ノ施行ナキ爲從來國ニ於テ敷設ヲ要シタル鐵道モ政府財政ノ都合ト便宜民營ニ委シ敷設經營サレタル結果トシテ現ニ營業セル私設鐵道ノ多クハ國鐵代用ニ非サレハ國鐵培養ノ犧牲ノ使命ヲ負ヒ形態上ハ民營ナルモ其ノ實國營代行ノ鐵道トシテ性質上内地ノ地方鐵道ト全然同一視スヘカラサルモノト認メラルルカ政府ニ於テモ其ノ保護政策上ヨリ朝鮮私鐵ノ特異性ヲ認メ居ラルルヤ所見如何

第二問  
前段ノ如ク朝鮮ノ私設鐵道ハ國鐵代用ニ非サレハ完全ナル國鐵培養ノ鐵道ナラカ故ニ鐵道ノ根本經理ハ國私鐵道ヲ區別シテ計算スヘカラサル關係ニ置カレアルヲ以テ朝鮮ノ私鐵對策ヲシテハ國營代行ノ趣旨ニ基キ買収ニ依リ漸

次國有化スルヲ原則トシ然ラサル場合ハ補助ヲ繼續シテ或程度ニ其ノ自立ヲ保證スルカ二者其ノ一ヲ擇ハサルヘカラサルハ朝鮮私鐵ノ特異性ヨリ來ル當然ノ歸結ナリト信スルカ政府ノ所見如何

第三問

現在施行サレ居ル朝鮮私設鐵道補助法ニ依レハ當該會社ノ每營業年度ノ益金カ年八分ニ達セサルトキハ會社設立ノ日ヨリ十五年ヲ限リ其ノ不足額ヲ補助スルコトヲ得ト規定サレ一方ニ於テ補助スヘキ豫算ノ最高額ヲ五百萬圓ト限ラレ居ルモ元來補助法ハ言フ迄モナク朝鮮總督カ補助ヲ行フ準據法ナルヲ以テ當該會社ハ直接補助法ニ依リ補助ヲ受クルモノニ非スニ總督ノ指令ニ基クモノニシテ其ノ補助率ハ六分ニ始マリ年ヲ追フテ七分八分ト順次増率サレ補助ノ年總額モ最高二百五十萬圓ヲ三百萬圓ニ増シテ四百五十萬圓ニ増加シ其ノ後續路ノ延長ニ件ヒ更ニ今日ノ五百萬圓ニ増額シ補助期限ニ在リテモ當初十箇年ト定メタルモ更ニ五箇年ヲ延長シ現在ノ十五箇年ト爲セルカ如ク從來補助ヲ受クル會社ノ必要ニ應シ都度補助條件ヲ變更シ來リシ沿革ノ事實ニ顧ミ而モ其ノ補助年限十五箇年ノ内既ニ十三年以上ヲ經過シ居ル以上ハ現行補助法ニ依リ十五箇年八分ノ補助ハ最早理論ニ非ス確固タル既定ノ事實ト認ムルノ外ナシ政府ノ所見如何

第四問

若國家財政上ノ見地ヨリセハ自立性ニ乏シキ朝鮮ノ私設鐵道ニ對シ永年ニ互リ高率ノ補助ヲ續クルヨリ之ヲ低利ノ事業公債ニ換價スルヲ得策ト考ヘラルルノミナラス朝鮮ニ於ケル私設鐵道ノ運賃率ハ國鐵ノ運賃率ニ倍スルヲ以テ國鐵ニ統一セハ一般民衆ノ福利ニモ合致スル諸畢竟買収ハ政府財政ノ整理ト



社會政策上ノ施設ヲ兼ネ且鐵道國有化ノ一般方針ニモ副フ實ニ一舉三得ノ良策ナリ唯時節柄考慮サルヘキハ公債ノ増發ナルモ此ノ點ニ付テモ會社ハ多クノ社債ヲ有シ居ルヲ以テ交付公債ヲ以テ社債ヲ償還セハ相殺サレテ憂フヘキ通貨ノ膨脹又ハ金融市場ノ壓迫ヲモ來ササルニ依リ結局朝鮮ノ私鐵對策トシテハ買収力最效果ノナリト信セラル政府ノ所見如何

#### 第五問

朝鮮私設鐵道ノ大部分ハ昭和九年度ニ於テ補助期限満了ト爲ルモノナルカ前段ノ趣旨ニ基キ補助期限ノ延長ニ關シ補助法ノ改正案ヲ本期議會ニ提出サルル準備アルヤ否ヤ又補助期限ノ切迫ニ依リ懸念ノ爲株式市價ニ惡影響ヲ與ヘ延テ一般株主ハ勿論殊ニ多額ノ社債權者及金融業者ニ不安ヲ感セシメ當面其ノ借替ニ支障ヲ來シ居ル事情ノ如キハ政府ニ於テモ特ニ考慮セラレ此ノ際殆ト二百萬株ニ達スル之カ一般株主其ノ他利害關係者ニ安定ヲ與フル爲是非今期議會ニ改正案ヲ提出スルノ要アルモノト信ス猶念ノ爲承知シ置キタキハ補助法ノ改正ニ伴フ一般補助條件ニ付テハ從來ノ如ク朝鮮私鐵ノ特異性ニ鑑ミ内地地方鐵道ヨリモ比較ノ有利ニ定メラルヘキモノト信シテ可ナリヤ政府ノ所見如何

右及質問候也

本質問ニ對シテハ書面ヲ以テ答辯アラムコトヲ望ム

昭和八年三月十四日

內閣總理大臣 子爵齋藤 實

衆議院議長 秋田清殿

衆議院議員 綾部健太郎君外二名提出朝鮮私設鐵道ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

官報號外

昭和八年三月十五日

衆議院議事速記第二十六號

衆議院議員 綾部健太郎君外二名提出朝鮮私設鐵道ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一、朝鮮ニ於ケル私設鐵道ノ主ナルモノハ交通上幹線ヲ爲スモノ多ク所謂國營代行ノ性質ヲ帶ブルモノト謂フベク一般ノ地方鐵道トハ其ノ趣ヲ異ニセルモノアルヲ以テ之ガ助成發達ニ關シテモ亦從來特殊ノ方針ヲ採リ來レルモノトス

二、朝鮮ニ於ケル私設鐵道ハ前述ノ如キ特質ヲ有スルモノアルヲ以テ其ノ實情ニ鑑ミ漸次買収スルヲ得策ト認メ曩ニ議會ノ協賛ヲ經テ昭和二年度ヨリ同六年度ニ互リ既ニ五線三三九六分(交付公債額面二六、〇四〇千圓)ヲ買収シタルガ將來ニ於テモ同様ノ方針ニ依リ事情ノ許ス限リ主要鐵道線ノ買収ヲ行ハムトスルモノナリ補助ノ點ニ關シテハ後述スル所ノ如シ

三、朝鮮ニ於ケル私設鐵道ノ補助ニ就テハ大正三年度以降補助命令ノ形式ヲ以テ補助開始以來補助率ニ就テハ六分ヨリ七分、八分ト順次増率シ大正十年朝鮮私設鐵道補助法制定施行ニ方リテモ補助率ハ從來通り八分トシ補助年限ヲ會社設立登記ノ日ヨリ十年、補助金年總額最高限度ヲ二百五十萬圓ト定メタルガ其ノ後會社ノ實情並ニ各般ノ狀勢ヲ考慮シ補助年限ヲ十五年ニ延長シ補助金年總額最高限度モ順次遞増シテ現行ノ五百萬圓ニ達セリ而シテ其ノ間右ノ範圍內ニ於テ事情ノ許ス限リ私設鐵道ノ發達助成ノ目的ヲ達スベク努メ來レルモノナリ

四、朝鮮ニ於ケル私設鐵道ノ買収ニ關シテハ第二項ニ於テ述べタル通トス五、朝鮮ニ於ケル私設鐵道ノ特質並ニ業績ニ鑑ミ將來ニ於テモ尙相當保護助成ノ方法ヲ講ズルノ必要ナルヲ認ム而シ

テ私設鐵道中ニハ昭和九年度ニ於テ補助期限満了スルモノアルヲ以テ旁々諸般ノ事情ヲ考慮シ補助年限、補助率並ニ補助方法等ニ關シ目下慎重調査中ニ屬スルヲ以テ之ガ改正ニ付テハ今期議會ニ提出ノ運ビニ至ラズ

右及答辯候也

昭和八年三月十四日

拓務大臣 永井柳太郎

實業補習學校ト青年訓練所トノ統合ニ關スル再質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和八年三月十四日

提出者 山根 儀重

實業補習學校ト青年訓練所トノ統合ニ關スル再質問主意書

實業補習學校ト青年訓練所トノ統合ニ關スル本員ノ質問ニ對スル鳩山文相及荒木陸相連署ノ答辯書ヲ受領セリ然ルニ「青年訓練ノ實質ヲ毫モ低下セシムル虞ナキ様充分研究ヲ遂ゲ度キ」カ爲ニ「相當時日ヲ要スルハ已ムヲ得ザル所」ナリトシテ其ノ研究ヲ要スヘキ内容ヲ明示セラレサルヲ遺憾トス文部省ハ既ニ「兩者ノ統合ニ關スル草案ヲ作製シテ陸軍當局ニ示シセル由ナルカ故ニ文部省ハ之ヲ確信ヲ有スルモノト考ヘラル若文部省カ未タ研究ヲ遂ケス確信ヲ有セスシテ之ヲ陸軍省ニ提示セリトセハ文部省ハ甚タ輕卒不謹慎ナリ本員ハ斯ノ問題ノ成行ニ關シテ政府ノ答辯ニ依リ益、不可思議ノ感ヲ深クセリ斯ノ問題ニ關心ヲ有スル者亦然ルヘシ凡ソ立憲政治ノ下ニ於テ國民ノ要望スル事項ニシテ政府力直ニ之ヲ實現スル能ハサル場合ニ於テハ政府ハ其ノ見解ヲ天下ニ明示シ國民ト共ニ之ヲ考究スヘキナリ唯徒ニ調査中ナル抽象的言辭ヲ弄シテ一時ヲ糊塗スヘキニ非ス調査中ナラハ其ノ調査ヲ要スル問題其ノ俄ニ實施シ得ヘカ

ラサル理由ヲ公ニスヘキナリ依テ左記項目ニ付明確ニ答辯セラレムコトヲ望ム

一、文部省カ審ニ立案セルモノハ實施スル能ハサル程度ノ重大缺陷ヲ有スルモノナリヤ

二、若然リトセハ文部省カ斯ル草案ヲ陸軍省ニ提示セルハ輕卒ナリト言ハサルヲ得ス所見如何

三、陸軍省ニ於テ兩者ヲ統合セル教育施設ノ名稱ヲ青年學校トセムトスル文部省案ニ反對シ青年訓練所ナル名稱ヲ存續セムコトヲ主張シ兩者ノ意見遂ニ一致ヲ見ル能ハサル狀態ニアリトノ風說世上ニ流布サル果シテ然ルヤ若然リトセハ兩者各主張ノ理由如何

四、陸軍省ハ統合施設ニ於テハ教練ノ時間數ノ他ノ學科時間數ニ比シテ從來ノ青年訓練所ニ於ケルヨリモ比率下ルカ故ニ自然教練力輕視セラルル恐アリトシテ統合ニ反對セラルルトノ流說アリ果シテ然ルヤ

五、右ハ寧ろ事實ニ反シ他ノ學科ヲ多ク履修スルコトニ因リ兵役ニ服スルノ素質ヲ一層鞏固ニスル所以ナリト考ヘラル所見如何

六、陸軍省ハ我カ國青年ノ訓練ハ軍人カ主トシテ其ノ衝ニ當ルヘキモノナリトシテ兩者統合ノ上ハ軍人ヨリモ教員カ寧ろ青年訓練ノ中樞タルヘキニ付之ヲ快シトセス是レ陸軍省カ兩者ノ統合ヲ遷延セシメツツアル底意ナリト推察スルモノアリ果シテ然ルヤ

七、兩者統合ニ關スル世論ノ要望ハ夙ニ數年前ヨリ起レルモノナリ而シテ文部省ハ之カ利害得失ヲ考究シテ既ニ成案ヲ得タリトスルニ陸軍省ハ尙之カ研究ニ相當時日ヲ要ストセラル陸軍省ハ世論ヲ等閑ニ付シテ研究ヲ怠リタルカ然ラスムハ陸軍省側ニ於テ研究ヲ要スヘ

キ重要問題ノ存スルカ何レカナラサルヘカラス前者ナルコトハ本員ノ之ヲ信スルヲ好マサル所ナリ後者ナリトセハ其ノ研究ヲ要スル諸點ヲ世ニ示サルヘキナリ

昭和八年三月十四日

内閣總理大臣 子爵齋藤 實

衆議院議長秋田清殿  
衆議院議員山井儀重君提出實業補習學校ト青年訓練所トノ統合ニ關スル再質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員山井儀重君提出實業補習學校ト青年訓練所トノ統合ニ關スル再質問ニ對スル答辯書

實業補習學校ト青年訓練所トノ統合ハ本來青年教育上ノ重要事項ニシテ文部當局ニ於テモ之ガ實現ニ當リ關係各方面ノ意見ヲ參酌シテ其ノ方案ヲ定ムルヲ妥當ト認メタリ而シテ青年訓練所ハ陸軍當局ト緊密ナル關係ヲ有スル施設ナルヲ以テ文部當局ニ於テハ陸軍當局ト關係事項ニ就キ豫メ協議セムガ爲右ニ關スル草案ヲ作成シテ之ヲ陸軍當局ニ内示セルモノナリ之ニ對シ陸軍當局ハ現下内外ノ情勢ニ顧ミ青年訓練ノ實質ヲ毫モ低下セシムル虞ナキ様統合ノ方案ニ關シ文部當局ト共ニ充分研究ヲ遂ゲ度意嚮ヲ有スルモノニシテ兩者ノ統合ノ實現ヲ遷延セシメントスルニアラザルコトハ言フ俟タズ  
目下文部陸軍兩當局ニ於テハ兩者統合ノ實現ノ爲慎重研究ニ努メツ、アルモ研究事項ノ内容ニ就テハ未ダ發表ノ時期ニアラサルヲ遺憾トス而シテ再質問主意書中ノ列記項目一、二及七ニ關シテハ上ニ述ブル所ニ依リテ了解セラルベク又三乃至六ニ關シテハ憶測ト思料スルヲ以テ茲ニ所見ヲ述ベ難シ  
右及答辯候也

昭和八年三月十四日

陸軍大臣 荒木 貞夫  
文部大臣 鳩山 一郎

社會政策問題及思想問題ニ關スル質問主意書  
右成規ニ據リ提出候也  
昭和八年三月十四日

提出者 鈴木 正吾

社會政策問題及思想問題ニ關スル質問主意書

一世相險惡ナレハナル程政府ハ各般ノ社會政策の施設ノ充實徹底ヲ期セサルヘカラス假令其ノ爲ニ相當巨額ノ經費ヲ要スルモノハ社會的變革ヲ豫防スル保險料トシテ忍ムテ支辨スヘキナリ然ルニ政府ハ却テ非常時ニ藉口シテ少額ノ經費ヲ以テ實施シ得ヘキ幾多ノ社會政策的施設ヲ放擲シテ顧ミサル如キ態アルハ奇怪至極ト言ハサルヲ得ス  
政府ハ今期議會ニ失業保險法、賃銀保護法、商店法及小作法等ヲ提出スルノ意思アリヤ  
二、明治製糖株式會社ノ脱稅問題ニ對スル政府ノ處置ハ國民ノ納稅義務觀念ヲ惡化シ延テ憂フヘキ社會思想ノ醜態ヲ助長スル虞アリト信ス政府ノ所見如何  
右及質問候也

昭和八年三月十四日

内閣總理大臣 子爵齋藤 實

衆議院議長秋田清殿  
衆議院議員鈴木正吾君提出社會政策問題及思想問題ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員鈴木正吾君提出社會政策問題及思想問題ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一、現下ノ社會狀勢ニ鑑ミ政府ハ社會政策ノ必要ヲ痛感シ其ノ施設ノ實現擴充

ニ努力シツツアリ即チ昨年一月一日ヨリ施行セラレタル救護法ノ實施ハ我國救貧行政上ノ一新紀元ヲ劃シタルモノト謂フヘク之ニ伴ヒ罹災救助基金法ヲ改正シ救護法ノ實施ヲ圓滑ナラシムルト共ニ其ノ他私設社會事業ノ助成等ニモ本基金ヲ充當シ得ルノ途ヲ拓キ又軍事救護法ノ運用ニ依リ事變關係ノ陸海軍下士兵卒及其ノ遺家族ノ救護ニ付テモ亦遺憾ナキヲ期シツツアリ又失業ノ防止救濟ニ關シテハ失業應急事業其ノ他ノ公共土木事業、農業土木事業等ノ起興ニ依リ生活困窮者ノ應急的救濟ヲ爲スト共ニ其ノ根本的方策ニ關シテハ失業對策委員會ヲシテ調査研究ヲ行ハシメ尙地方改善、公益質屋等ニ關スル時局匡救事業ノ遂行ニ依リ労働者其ノ他ノ小額所得者ノ生活安定ヲ圖リ更ニ労働者ノ福利増進ニ關シテハ工場法、鑛業法、健康保險法等ノ實施ニ加フルニ昨年一月労働者災害扶助法ノ制定ニ依リ工場鑛山ニ於ケル労働者ノミナラス屋外労働者ニ對シテモ同様ノ福利増進ヲ圖リ得ルコトナレリ尙各種ノ社會政策的立法中兒童虐待防止法ハ既ニ成案ヲ得テ今期議會ニ提出シタルカ其ノ他失業保險法、賃銀保護法、商店法、小作法等ニ付テハ目下鋭意調査研究中ナリ

昭和八年三月十四日

大藏大臣 高橋 是清  
內務大臣 男爵山本 達雄  
農林大臣 後藤 文夫

二、明治製糖株式會社ノ脱稅問題ニ對スル政府ノ處置ハ豫算委員會其ノ他ニ於テ屢々政府ノ説明シタル通ナリ  
右及答辯候也  
(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一昨十三日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ  
造幣局工場及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案  
昭和八年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案  
大阪帝國大學工學部設置ニ付帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關涉ニ關スル法律案

朝鮮事業公債法中改正法律案  
樺太事業公債法中改正法律案  
貨幣法中改正法律案  
船舶安全法案  
船舶職員法中改正法律案  
日本興業銀行法中改正法律案

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ  
震災被害者ニ對スル租稅ノ免除猶豫等ニ關スル法律案 (以上三月十一日提出)  
一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ  
製造煙草ノ輸出ニ關スル建議案  
提出者

山崎 猛君 上野 基三君  
鈴木 英雄君 助川啓四郎君  
寺田 市正君 宮澤 裕君  
酒造稅法中清酒ノ造石稅率等改正ニ關スル建議案  
提出者

京都市內國有鐵道高架改築ニ關スル建議案  
提出者  
中野種一郎君 鷺野米太郎君  
鈴木吉之助君

一去年十一月特別委員理事補選結果左ノ如シ  
衆議院議員選舉法中改正法律案(政府提出)委員  
理事 作田高太郎君(理事清水德太郎君本月九日委員辭任ニ付其ノ補闕)

一 去十一日議長ニ於テ選出シタル委員左ノ如シ  
南滿洲鐵道株式會社ノ株式引受ニ關スル法律案(政府提出)委員  
野田 俊作君 内田 信也君  
門田 新松君 兼田 秀雄君  
志賀和多利君 船田 中君  
春名 成章君 仙波 久良君  
上原平太郎君 津崎 尚武君  
今井 健彦君 小林 絹治君  
増田 義一君 鶴澤 宇八君  
海野 數馬君 松尾 四郎君  
豐田 豐吉君 古屋 慶隆君

東京都制案(政府提出)委員

濱田 國松君 中島 守利君  
磯部 尚君 伊藤仁太郎君  
津雲 國利君 本田 義成君  
野方 次郎君 有馬 淺雄君  
田子 一民君 深澤豐太郎君  
瀨川 嘉助君 鈴木吉之助君  
水島彦一郎君 沼田嘉一郎君  
上田 孝吉君 喜多 孝治君  
中井 一夫君 坂本 一角君  
高木 正年君 小山 松壽君  
戸井 嘉作君 川橋豐治郎君  
杵谷 寅吉君 松田竹千代君  
前田房之助君 中村 繼男君  
福田 虎龜君

農村負債整理組合法案(政府提出)委員

大口 喜六君 出井 兵吉君  
坪山 德彌君 増田 金作君  
佐々木家壽治君 西方 利馬君  
松岡 俊三君 山本莊一郎君  
加藤 知正君 匹田 銳吉君  
服部 岩吉君 森田 福市君  
伊藤皆次郎君 貝谷 眞致君  
森 肇君 佐藤 重遠君  
熊谷 巖君 助川啓四郎君  
高田 耘平君 山本 厚三君  
藤井 啓一君 岡田喜久治君

松田 正一君 武知 勇記君  
猪股謙二郎君 後藤 亮一君  
中田 正輔君  
一 去十一日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ  
輸出絹織物取締法中改正法律案(政府提出)委員  
辭任立川 太郎君 補闕一瀬 一二君  
辭任栗原彦三郎君 補闕中村 繼男君  
衆議院議員選舉法中改正法律案(政府提出)委員  
辭任後藤 亮一君 補闕由谷 義治君  
營業收益稅法中改正法律案(木暮武太夫君外二名提出)委員  
辭任堀川 美哉君 補闕小林 銆君  
一 昨十三日齋藤内閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

南滿洲鐵道株式會社ノ株式引受ニ關スル法律案(政府提出)委員

內閣書記官長 堀切善次郎  
法制局長官 黑崎 定三  
第六十四回帝國議會政府委員被仰付  
一 昨十三日委員長及理事五選ノ結果左ノ如シ  
南滿洲鐵道株式會社ノ株式引受ニ關スル法律案(政府提出)委員  
委員長 野田 俊作君  
理事 門田 新松君 兼田 秀雄君  
海野 數馬君 豐田 豐吉君  
濱田 國松君  
東京都制案(政府提出)委員  
委員長 濱田 國松君  
理事 本田 義成君 瀨川 嘉助君  
喜多 孝治君 川橋豐治郎君  
杵谷 寅吉君 福田 虎龜君  
農村負債整理組合法案(政府提出)委員  
委員長 大口 喜六君  
理事 西方 利馬君 貝谷 眞致君  
森 肇君 武知 勇記君  
猪股謙二郎君 後藤 亮一君

東京都制案(政府提出)委員

濱田 國松君  
一 昨十三日特別委員長補闕選舉ノ結果左ノ如シ  
都市計畫法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)委員  
委員長 堀川 美哉君(委員加藤謙五郎君昨十三日委員長辭任ニ付其ノ補闕)  
一 昨十三日特別委員理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ  
造幣局工場及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案(政府提出)外二件委員  
理事 中川 觀秀君(理事野中徹也君昨十三日委員辭任ニ付其ノ補闕)  
一 昨十三日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ  
造幣局工場及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案(政府提出)外二件委員  
辭任野中 徹也君 補闕中川 觀秀君  
辭任鈴木 正吾君 補闕野中 徹也君  
輸出絹織物取締法中改正法律案(政府提出)委員  
辭任福田 虎龜君 補闕栗原彦三郎君  
衆議院議員選舉法中改正法律案(政府提出)委員  
辭任西岡 次郎君 補闕三上 英雄君  
營業收益稅法中改正法律案(木暮武太夫君外二名提出)委員  
辭任庄 晋太郎君 補闕木暮武太夫君  
農村負債整理組合法案(政府提出)委員  
辭任岡田喜久治君 補闕林 平馬君  
○議長(秋田清君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、御諮リ致シマス、第五部選出建議委員久山知之君、常任委員辭任ノ申出ガアリマス、許可スルニ御異議アリマセスカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○議長(秋田清君) 御異議ガナケレバ許可シマス、其部ノ諸君ハ速ニ補闕選舉ヲ行ヒ、御屆ケアラントラ望ミマス、本日ノ日程ニ掲ゲマシタ質問ハ、何レモ政府ヨリ答辯書ヲ受領致シマシタ、仍テ日程ヨリ之ヲ省キマス、答辯ニ對スル意見陳述ハ、適當ノ機會ニ通告願ニ依リ許可致シマス、日程第一、震災被害者ニ對スル租稅ノ免除猶豫等ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、大藏大臣高橋是清君

第一 震災被害者ニ對スル租稅ノ免除猶豫等ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會  
震災被害者ニ對スル租稅ノ免除猶豫等ニ關スル法律案  
第一條 政府ハ震災(昭和八年三月三日ノ震災及之ニ伴フ火災又ハ海嘯ヲ含ム以下同ジ)ニ因ル被害者ノ震災地ニ於テ納付スベキ昭和七年分第三種所得稅第四期分ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除スルコトヲ得  
第二條 政府ハ震災ニ因リ著シク利用ヲ妨ゲラレタル土地ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地租ヲ免除スルコトヲ得  
第三條 政府ハ震災地ニ於テ納付スベキ昭和八年分ノ第三種所得稅、個人ノ營業收益稅及乙種資本利子稅ニ限り課稅ニ關スル申告及申請並ニ課稅標準ノ決定ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得  
第四條 政府ハ震災地ニ於テ昭和八年三月三日以後ニ納付スベキ租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得  
第五條 第一條、第三條及前條ノ震災地ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第六條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ免除セラルル租稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ免除セラレザルモノト看做ス  
前項ノ規定ハ北海道地方稅及縣稅ニシテ震災ニ因リ減免セラルルモノニ付之ヲ準用ス

第一讀會

震災被害者ニ對スル租稅ノ免除猶豫等ニ關スル法律案  
第一條 政府ハ震災(昭和八年三月三日ノ震災及之ニ伴フ火災又ハ海嘯ヲ含ム以下同ジ)ニ因ル被害者ノ震災地ニ於テ納付スベキ昭和七年分第三種所得稅第四期分ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除スルコトヲ得  
第二條 政府ハ震災ニ因リ著シク利用ヲ妨ゲラレタル土地ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地租ヲ免除スルコトヲ得  
第三條 政府ハ震災地ニ於テ納付スベキ昭和八年分ノ第三種所得稅、個人ノ營業收益稅及乙種資本利子稅ニ限り課稅ニ關スル申告及申請並ニ課稅標準ノ決定ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得  
第四條 政府ハ震災地ニ於テ昭和八年三月三日以後ニ納付スベキ租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得  
第五條 第一條、第三條及前條ノ震災地ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第六條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ免除セラルル租稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ免除セラレザルモノト看做ス  
前項ノ規定ハ北海道地方稅及縣稅ニシテ震災ニ因リ減免セラルルモノニ付之ヲ準用ス

第一條 政府ハ震災(昭和八年三月三日ノ震災及之ニ伴フ火災又ハ海嘯ヲ含ム以下同ジ)ニ因ル被害者ノ震災地ニ於テ納付スベキ昭和七年分第三種所得稅第四期分ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除スルコトヲ得  
第二條 政府ハ震災ニ因リ著シク利用ヲ妨ゲラレタル土地ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地租ヲ免除スルコトヲ得  
第三條 政府ハ震災地ニ於テ納付スベキ昭和八年分ノ第三種所得稅、個人ノ營業收益稅及乙種資本利子稅ニ限り課稅ニ關スル申告及申請並ニ課稅標準ノ決定ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得  
第四條 政府ハ震災地ニ於テ昭和八年三月三日以後ニ納付スベキ租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得  
第五條 第一條、第三條及前條ノ震災地ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第六條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ免除セラルル租稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ免除セラレザルモノト看做ス  
前項ノ規定ハ北海道地方稅及縣稅ニシテ震災ニ因リ減免セラルルモノニ付之ヲ準用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣高橋是清君登壇〕

○國務大臣(高橋是清君) 茲ニ只今議題トナリマシタ震災被害者ニ對スル租稅ノ免除猶豫等ニ關スル法律案ノ説明ヲ致シマス、去ル三月三日ノ三陸地方ニ於ケル震災ハ、相當激甚デアリマシテ、殊ニ之ニ伴フ海嘯ハ、一層其慘禍ヲ大ナラシメマシタ、被害者ニ對シマシテハ、洵ニ同情ニ堪ヘナイ次第デアリマス、被害者中ニハ國稅ノ納稅者ニシテ、土地ノ損傷、家屋ノ倒壊流失、家財其他營業用商品、原料品等ノ滅失毀損等ノ爲ニ、租稅ノ負擔力ヲ減殺セラレタル者ガ少クナイノデアリマス、租稅負擔力ノ減殺セラレタル場合ノ救済方法ニ關シマシテハ、現行法中ニモ一部其規定ガアリマシケレドモ、震災ノ如キ非常災害ニ對應スル方法ト致シマシテハ、十分デアリマセヌノデ、從來モ震災ノ場合ニ於キマシテハ、租稅ノ免除猶豫等ニ關シ、特ニ救済ノ方法ヲ講ジタル例ガアルノデアリマスルガ、今回モ亦特ニ是ガ救済ノ方法ヲ講ズルノ必要アリト認メマシテ、本案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上、速ニ協賛アラシコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(秋田清君) 質疑ヲ許シマス——菅原傳君

〔菅原傳君登壇〕

○菅原傳君 只今提案セラレタル法案ハ、實ニ此災害ニ對スル人情味ノアル、意義アル、最モ結構ナル案ト私ハ思フノデゴザイマス、是ト關聯シテ、災害救済ニ關スルコトニ付テ、二三分開極ク簡單ニ、政府ノ御意見ノアル所ヲ質問スルコトノ御許シヲ願ヒタイノデゴザイマス、今回ノ災害ハ、極ク大キク大難把ニ言ウテ見マシテモ、實ニ大ナルモノノデアル、死シタ人ガ數千人デアリマス、サウシテ家屋ノ流失、倒壊モ數千デアリマス、其外漁船漁具、色

色ノ損害ト云フモノハ、實ニ大ナルモノデゴザイマス、當局ニ於カレテハ、固ヨリ既ニ正確ニ御承知ト思ヒマスガ、私ハ地方ノ當局ナリ其他ヨリ聞及シタ所ヲ、極ク概略的ニ申シテ見マスレバ、今度ノ災害地デモ、最モ被害ノ甚大ナル所ハ岩手縣ノヤウニ思フノデアリマス、實ニ岩手縣ハ死シタ人ガ四千五百有餘人ト云フノデアリマス、實ニ大ナルモノデアリマス、サウシテ家屋ノ流失、倒壊モ四千何百軒ト云フノデアリマス、其外漁船漁具ノ損害、是ハ又大シタ莫大ノモノデアリマス、宮城縣ガソレニ次グノデアリマスガ、死者約三百餘人デゴザイマス、サウシテ家屋ノ倒壊流失モ千三百餘、無論漁船漁具ノ紛失流失、是モ大ナルモノデゴザイマス、是等地方ノ當局ナドノ考ニ依リマスレバ、復舊事業トシテモ、岩手縣ノ如キハ三千何百何十萬ト云フ巨額ヲ要スルト云フ、宮城縣モ次イデ五百萬位要ル、青森縣ハ其次ニナリマスケレドモ、人命モ失ヒ、又損害モ中々僅少デハナイノデアリマス、今度ノ海嘯ノ如キハ、北海道ニマデモ幾分及シタト云フコトデ、實ニ被害ハ甚大ナルモノデゴザイマス、其外ニモ東北三縣ニハ、滿洲ニ出征シテ居ル軍人ノ家族等モアリマシテ、是等ノ事ヲ思ヒマスレバ、實ニ感慨無量ナコトデゴザイマス、政府ニ於カレテモ、固ヨリ是等ノ點ニ御考慮アレテ、既ニ地租ノ免除ナリ猶豫等ノ提案モセラレタ、是ハ實ニ結構デアリマスガ、今申上ゲタル死者或ハ家屋ノ流失、港灣其他損レタ所ヲ救済スルト云フコトハ、固ヨリ政府ニ於テモ必ズ御考ノコト、思フ、死シタ人ハ固ヨリ蘇ラセル譯ニハ參リマセスケレドモ、物質的ノコトハ、是非ハ復舊或ハヨリ以上ニ更生スルヤウニ、御願シタイノデゴザイマス、斯ク考ヘテ見マスレバ、政府ニ於カレテモ、必ズ救済ノ方法ヲ講ジテ居ラレルト思フノデアリマスガ、幸ニ吾々立法者トシテ考ヘレバ、議會ハ今開會中デ

アリマス、議會開會中デナケレバ、或ハ豫備金トカ、或ハ色々ソレモ、政府ニ於テモ御考慮アルト思ヒマスケレドモ、如何ニモ會期モモウ十日ニ迫リテ居リマスケレドモ、地震、海嘯、斯ウ云フ場合ニハ又應急ノ策、殊ニ今立法院ガ開カレテ居ル場合デアリマスルカラ、政府ノ見ル所ヲ議會ニモ御諮ヒニナッテ、サウシテ是等災害ノ人民ヲ救フコトニ爲シテ頂戴シタイノデアリマス、要スルニ私ナドノ希望ハ、此場合は非追加豫算ヲ御出シサレテ、是等ノ困テ居ル人々ヲ救フヤウニ御願シタイ、別ニ私ハ理窟張テ中シマセスケレドモ、代議政治ノ御代デアリマスカラ、出來ルナラバ開會中ニ人情味ノアル、意義アル立憲的態度ヲ以テ、是非此救済ヲ爲シサレシコトヲ、地方ノ爲ニモ、立法院ノ一員トシテモ御願スル次第デアリマス、是非追加豫算ヲ此議會ニ御提出下サレシコトヲ望ミ、此邊ニ付テ政府ノ御意圖ノアル所、御意見ノアル所ヲ御伺致シタイ次第デゴザイマス(拍手)

〔國務大臣高橋是清君登壇〕

○國務大臣(高橋是清君) 只今菅原君ヨリ御尋ノ事ニ付テ御答ヲ致シマス、此點ニ付キマシテハ、主トシテ内務、農林兩省ニ於テ、實際ノ取調ヲ取急イデ居ル次第デアリマス、此取調ガ了致シマシタナラバ、早速其手續ヲ執ル積リデアリマスカラ、此段御答致シテ置キマス(拍手)

○議長(秋田清君) 日程第二、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○上田孝吉君 本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第三及第四ハ、同一委員ニ付託シタル議案ナルニ依リ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、日程第三、日本製鐵株式會社法案、日程第四、製鐵業獎勵法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ續ク開キマス、委員ノ報告ヲ求メマス——委員長若宮貞夫君

第三 日本製鐵株式會社法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第四 製鐵業獎勵法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 日本製鐵株式會社法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和八年三月十一日

委員長 若宮 貞夫

衆議院議長秋田清殿

附帶決議

一 本合同ノ目的ヲ達成シ得ルヤ否ヤハ主トシテ出資財産ノ評價如何ニ依ル故ニ政府ハ本會社ニ參加スヘキ各製鐵事業者ノ出資財産ニ付テ其ノ撰擇及評價ヲ嚴正ニスヘシ

二 製鐵所ト八幡市其ノ他直接關係市町村トノ特殊ノ沿革及將來ノ緊密ナル關係ニ鑑ミ政府ハ是等市町村ニ對スル措置ニ付遺憾ナキヲ期スヘシ

報告書

一 製鐵業獎勵法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和八年三月十一日

委員長 若宮 貞夫

衆議院議長秋田清殿

(若宮貞夫君登壇)

○若宮貞夫君 特別委員會ノ經過並ニ結果ヲ報告申上ゲマス、此委員會ハ連續九回開會セラレマシテ、委員諸君ハ極メテ熱心ニ審議セラレテ、多クノ質疑應答ガ重ネラレタノデアリマスガ、茲ニ其中自ラ審査ノ中心トナリマシテ、多クノ問答ガ重ネラレタ數點ニ付テ、概要ヲ報告申上ゲタイト思フノデアリマス

其第一ハ、官營ノ製鐵所ハ、我國ノ製鐵工場中設備ガ最モ整ヒ、成績モ最モ良好デアリ、之ニ反シテ民間ノ工場ハ、官業ニ比較シテ設備モ劣リ、又成績モ不良デアリ、然ルニ今俄ニ之ヲ合同シテ民營ニ移サントスル其理由ハ、何レニ在リヤト云フ問題デアリマスガ、此事ハ申ス迄モナク本案ノ根本義トナルモノデアリマスガ故ニ、自然此點ニ質問ノ多クガ集中セラレタト云フコトハ、洵ニ故アル次第デアリマシテ、今其質問ノ要點ヲ彙類シ綜合シテ申上ゲテ見マスト云フコト、大體八項目ニ分レルヤウニ思ハレルノデアリマス、即チ其一ツハ、成績ガ良好デアル所ノ官業ヲ出資シテ、之ヲ民間ノ事業ト合同スル、其結果ハ民間ノ不良會社ヲ救済スルト云フコトノ弊ニ陷ル虞ナキヤ否ヤ、其二ハ、官民ノ設備ヲ如何ニ選擇スルカ、又其評價ハドウ云フ風ニスルノデアルカ、嚴正ナル評價ガ果シテ爲シ遂ゲ得ラレルヤ否ヤト云フコト、其三ハ、合同ノ結果果シテ生産費ヲ低下スルコトガ出來ルカドウカ、其四ハ、民間ノ會社ヲ出資シテ果シテ可能ニシムル計畫デアルカ、其計畫ハ果シテ可能ニシムル計畫デアルカ、五ハ、滿洲ニ於ケル製鐵業ヲ併セテ合同セシメナケレバ、完全ナル計畫ト申スコトガ出來ナイ、日滿間ニ於ケル所ノ斯業ノ統制ハ、如何ニシテ之ヲ爲シテ行ク積リデアアルカドウカ、其六ハ、製鐵業ニ對シテ只今賦課サレテ居ル所ノ保護關稅、此保護關稅ハ合同ト共ニ之ヲ輕減撤廢スルノ必要アリト

認ムルガ、政府ノ所見ハドウデアアルカ、其七ハ、技術ノ點カラ見テ、又ハ原礦石若クハ石炭ヲ取得スルコト云フ上カラ見テ、民間ニ移スト云フコトハ、何等カノ支障ヲ生ゼザルヤ否ヤ、其八ハ、國防上ノ見地カラ見テ、民營ニ移スト云フコトガ、何等カノ支障ヲ生ゼザルヤ否ヤ、斯ウ云フ大體八項目ニ分類スルコトガ出來ルノデアリマシテ、是等ニ對スル政府ノ答辯ヲ要約シテ申上ゲテ見マスルコト云フ、先ヅ我國ニ於ケル重要ナル基礎均工業デアアル製鐵業ヲ、早く確立シナケレバナラヌト云フコトガ、目下ノ急務デアアルコトハ勿論デアリ、所ガ諸外國ニ於テハ大規模ノ組織、大規模ノ設備ヲ以テ相當ノ統制ガ行ハレテ居ル、之ニ反シテ我國ニ於テハ官業ト民業ト分立ヲシテ居リ、又民業ト民業ト對立ヲシテ居リ、動トモスレバ互ノ間ガ競争ニ陷ラントスル、斯ル現狀ヲ以テシテハ、到底外國ノ競争ニ對抗スルコトハ不可能デアリ、況ヤ海外ニ進出スルコト云フコトハ、勿論不可能ト申サナケレバナラヌノデアリ、此目的ヲ達スル爲ニハ、是非トモ官民ノ一大合同ヲ行テ、設備ノ重複投資ヲ整理シ、事業ヲ合理化シテ、生産費ヲ低下セシムル必要ガ目前ニ迫ラテ居ルノデアリ、諸君然ラバ其合同ノ方式ハドウシトラバ宜シイカト云フコトヲ案ジテ見マスルニ、大體三ツノ方式ガ考ヘ得ラレル、其一ツハ民間ノミヲ合同セシムルト云フコト、其二ハ民業ヲ買収シテ官業ニ合同スルト云フコト、其三ハ本案ノ如クニ官業ヲ出資ニ充テ、之ヲ民營ニ移スト云フ、大體此三ツノ方式ガ案出セラレ得ルノデアリガ、其第一ノ民業ノミヲ合同セシムルト云フコトハ、種々ナル事情ニ制セラレテ、從來屢ニ之ヲ試ミテ悉ク失敗ニ終ラテ居ル、此事績ニ鑑ミテ不可能デアリ、然ラバ第二ノ民業ヲ買収シテ官業ニ合同スルコトハ如何カト云フニ、今日ノ財政ノ現狀ニ鑑ミルト云フコト、是亦不能ト申サナケレバナラヌ、ソコデ本案ノ如クニ官

業ヲ出資ニ充テ、此出資ヲ中心トシテ、民間ノ設備ヲ合同セシメヨウトスル、此方法ヲ採ルノ外ニ途ハナイノデアリ、而シテ合同ノ目的ハ言フマデモナク、整理ヲ圖リ統制ヲ圖リ、合理化ヲ圖ルト云フコトデアリガ故ニ、官業モ民業モ共ニ同ジ標準ニ依テ極メテ嚴重ナル評價ヲ爲シテ、官民ノ設備ノ間ニ適當ナル比率ヲ保タシメ、資本額ヲ整理收縮センコトヲ期スルモノデアリ、極メテ嚴正ナル評價ヲ行ハシムルト云フコトノ爲ニハ、特ニ評價審査委員會ヲ構成シテ、其審査ヲ經セシムルモノデアリガ故ニ、決シテ一部ノ人ガ憂フルガ如キ、民間救済ノ弊ニ陷ル虞ガナイト確信ヲスル、斯様ニ整理ヲ遂ゲテ參レバ、生産費ハ可ナリ之ヲ低下スルコトガ出來ルノデアリ、合同ノ目的トシテ居ル所ノ民間ノ會社ハ、年産額三萬五千噸以上ノ設備ヲ有シテ居ル所ノ、十一社ヲ目標トシテ居ルノデアリガ、是ハ種々ナル事情ノ下ニ、一時ニ十一社ヲ合同セシムルコトハ困難デアリガ故ニ、先以テ鉄鐵製造ノ五會社ヲ合同セシメテ、其他ノモノハ順次合同ニ導イテ、終ニ十一社全部ニ及バンストスルモノデアリ、此計畫ハ決シテ不能デアルトハ思フテ居ラナイ、滿洲ノ製鐵業ハ現在ノ實情ニ照シテ見ルト、直チニ此合同ニ入レルト云フコトハ困難デアリ、ソレ故ニ滿洲ハ滿洲方面ニ於テ合同セシメテ、日滿間ニ於テハ特殊ノ連繫機關ヲ設ケテ、互ノ間ノ聯絡統制ヲ圖ル積リデアリノダ、關稅ニ付テハ、事業ノ基礎ガ確立スルニ伴ウテ、漸次低減撤廢ニ及ブ精神デアリケレドモ、今直チニ之ヲ實現スルコトガ出來ナイ情勢ニ在ルカシテ、此度ハ約百萬圓ノ獎勵金ヲ廢止スルト云フコトニ止メテ、關稅ハ暫ク其儘ニシテ置ク積リデアリ、技術ニ付テハ、官業ヲ民營ニ移スト雖モ、是ガ爲ニ技術ヲ低下スルコト云フ虞ハ絶對ニナイト信ズル、又原礦石及石炭ノ取得ト云フコトニ付テモ、何等支障ノナイモノ

ト信ジテ居ル、斯様ニ答辯セラレテ居ルノデアリマス、尙ホ又國防ノ問題ニ付キマシテハ、陸軍並ニ海軍兩大臣ガ出席セラレテ、國防上必要デアル所ノ條件ヲ附シテアルカシテ、其方面ニ於テハ何等差支ナイト認ムル旨ノ答辯ガアッタノデアリマス

此場合特ニ一ツ附加ヘテ置カケレバナラスト思ヒマスルノハ、評價審査委員會ノ構成ニ關スル一事デアリマスガ、政府ハ此評價審査委員會ハ、官吏及學識經驗アル者ヲ以テ組織スルコト云フコトヲ申述ベテ居タノデアリマス、此點ニ關シテ政友會ノ内田信也君ヨリ特ニ質問セラレマシテ、評價ト云フコトガ此問題ノ中心デアルト云フコト、茲ニ數十年ニ亙リ多額ノ國帑ヲ投ジタ所ノ此官業ヲ、民營ニ移スト云フコトニ付テ、極メテ重要性ヲ帯ビルト云フコトニ鑑ミテ、當然評價委員會ノ中ニハ、貴衆兩院議員ヲ參加セシムベキモノト信ズルガ、政府ノ所見ハ如何デアアルカト云フ質問セラレタノニ對シテ、政府ハ全然同感デアリ、其通り取計フ積リデアルト言明セラレタコトデアリマス、第二ノ點ハ、官營ノ製鐵所及其附屬炭坑等ニ於ケル從業員ノ待遇、及福利施設ヲ低下スルノ虞ナキヤ否ヤト云フ問題デアリマスガ、官營ハ轉製鐵所ニ從事シテ居ル所ノ多數ノ從業員、此多數ノ從業員ニ、官業ヲ民營ニ移スト云フコトガ傳ハルト、非常ナ衝動ヲ與ヘタコトデアリマスカラシテ、自然此問題ニ付テ相當多クノ質問ガ集中セラレタト云フコトハ、又洵ニ已ムヲ得ヌ次第ト考ヘルノデアリマス、此點ニ付テ政府ハ、各種各階級ノ從業員ニ對スル待遇並福利ニ關スル諸般ノ施設ハ、現在ヨリモ毫モ低下スルコトナキヤウ、新會社ハ十分ノ引續ヲ爲シ、且ツ監督權ヲ行使シテ、萬遺憾ナカラシムル積リデアルト言明ヲ致シテ居ルノデアリマス、第三ノ點ハ、官民ノ工場、炭坑等ノ在ル所ノ市町村、其



市町村トノ關係並ニ合同會社ニ對スル地方  
稅ノ賦課ニ關スル問題デアリマスガ、是亦  
所在市町村ニ對シテハ、歲入ノ上ニ於テ、  
又情誼ノ上ニ於テ、頗ル密接ナ關係ノアル  
點デアリマスルカラ、茲ニ相當質問ガ集中  
セラレタノモ、亦洵ニ故アリト思フノデア  
リマス、其實問ノ要點ヲ揭ゲテ見マスト云  
フト、一ツニハ、官營ノ製鐵所及附屬炭坑

地元市町村ニ對シ、從來製鐵所ヨリ助成金  
ヲ支給シテ居ルガ、是ハ將來ドウナルノデ  
アルカ、又保護ノ趣旨デ、市町村ハ製鐵業  
ニ對スル營業收益稅、所得稅等ノ附加稅ヲ  
徵收シ得ザル規定ト相成テ居ルガ、合同後  
ニ於テハ相當利益ヲ生ズルト云フノデア  
ルカ、此事ニ鑑ミテ地方稅ヲ徵收セシ  
メテモ宜イト思フガ、政府ノ考ハドウカ、第  
三ノ點ハ、財產取得稅ヲ賦課シ得ザル規定  
ト相成テ居ルガ、是ハ地元ノ收入ニ相當影  
響ノアル問題デアリガ、政府ハ是等ニ付テ  
何等カ考慮スル所ナキヤ、此三點ニ歸著ス  
ルノデアリマスルガ、此問題ニ對スル政府  
ノ答辯ハ、製鐵業保護ノ趣旨ニ基キ課稅減  
免ノコトハ、是ハ從來通りニ繼續スル積リ  
デアル、併ナガラ製鐵所並民間ノ工場カラ、  
從來市町村ニ支拂ヒ來タ所ノ助成金或ハ  
寄附金等ハ、從來通り必ズ之ヲ交付セシム  
ル積リデアル、又附加稅ノ徵收ニ付テモ、  
現ニ室蘭市ノ如クニ、附加稅ノ徵收ヲ許可  
シテアルモノニ對シテハ、引續イテ是ガ賦  
課ヲ許可スル積リデアルト云フコトヲ言明  
セラレテ居ルノデアリマス、其他以上申述  
ベタ重要ナル諸點ニ關聯派生致シテ、或ハ  
生産費ノ内外ノ比較ニ付テ、或ハ工場設備  
ノ適否ニ付テ、或ハ原礦生産地並ニ取得ノ  
數量ニ付テ、或ハ原礦ノ分析の貧富ノ別、  
或ハ化學的特徵等ニ付テ、或ハ原礦ノ貯藏  
量ニ付テ、或ハ副產物ニ付テ、等々、極メテ  
有益ニシテ參考ニ値スル所ノ質疑應答ガ、  
重ネラレタノデアリマスガ、此際逐一報告  
申上ガ兼ネマスルガ故ニ、ソレ等ハ速記録

ニ就テ御覽置キヲ願ヒタイノデアリマス  
討論ノ場合ニ於キマシテ、政友會鈴木英  
雄君カラシテ、二項目ノ附帶決議ヲ附シテ  
贊成スル旨ヲ陳述セラレマシタ、其二項目  
ノ附帶決議ト云フモノハ、茲ニ之ヲ朗讀致  
シマス

### 附帶決議

一 本合同ノ目的ヲ達成シ得ルヤ否ヤハ  
主トシテ出資財産ノ評價如何ニ依ル故  
ニ政府ハ本會社ニ參加スヘキ各製鐵事  
業者ノ出資財産ニ付特ニ其ノ選擇及評  
價ヲ嚴正ニスヘシ

二 製鐵所ト八幡市其ノ他直接關係市町  
村トノ特殊ノ沿革及將來ノ緊密ナル關  
係ニ鑑ミ政府ハ是等市町村ニ對スル措  
置ニ付遺憾ナキヲ期スヘシ

此二ツノ附帶決議ヲ附シテ贊成スル旨ヲ、  
鈴木君カラ陳述セラレタノデアリマス  
次デ民政黨ノ松本忠雄君カラシテ、五項  
目ノ希望條項ヲ附シテ原案ニ贊成シ、併セ  
テ只今朗讀致シタ鈴木君ノ附帶決議ニ贊成  
ノ旨ヲ陳述セラレタノデアリマス、而シテ  
此松本君ノ希望條項ハ、本會議ニ於テ委員  
長ヨリ之ヲ報告セヨトノ要求デアリマシタ  
ガ故ニ、茲ニ希望條項ヲ朗讀致シマス

### 希望條項

一、本計畫ノ實行ニ當リ合併豫定會社ノ  
全部併合ヲ實現スルコトヲ要ス  
二、本會社ノ創立ニ當リ設備改廢ノ計畫  
ヲ樹テ合理化ノ徹底ト共ニ極力生産費  
ノ低減ヲ期スベシ  
三、政府ハ本會社ノ成立ニ伴ヒ速ニ鐵鋼  
關稅ノ減廢ヲ斷行スベシ  
四、滿洲國於テ斷行製鐵業トノ統制ニ關  
シ更ニ適當ノ方策ヲ講ズベシ  
五、地方公共團體財政ノ實狀ニ鑑ミ製鐵  
業獎勵法ヲ改正シ地方稅徵收ノ途ヲ開  
クベシ

次ニ國民同盟ノ風見章君カラシテ、警告ヲ附  
シテ原案ニ贊成スル旨、並ニ政友會ノ鈴木英雄

君提出ノ附帶決議ニ贊成ノ旨ノ陳情ガア  
テ、討論ヲ終タノデアリマス、而シテ探  
決ニ付キマシテハ、政友會鈴木英雄君提出  
ノ決議ハ、是ハ單ナル希望デアリマセヌ  
デ、本案ニ附帶シタ所ノ、權威アラシムル  
趣旨ノ決議デアリマスルガ故ニ、本案ノ採  
決ト特ニ引離シテ、此點ニ付テモ採決ヲ行  
タノデアリマス、而シテ本案ノ採決ノ結果  
ハ、全會一致ヲ以テ原案ヲ可決セラレ、又政  
友會鈴木英雄君提出、附帶決議二項目ニ付  
テ特ニ決議ヲ行ヒマシタ、是亦全會一致ヲ  
以テ可決セラレタノデアリマス、以上經過  
並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス(拍手)

### (小池四郎君登壇)

○小池四郎君 本案ニ反對ヲ表明致シマス  
産業ノ發展ガ國家全體ノ利益ニ貢獻スルヤ  
否ヤト云フ問題ハ、其産業ノ經營ガ國家全  
體ノ利益ヲ目標トシテ經營サレテ居ルカド  
ウカ、或ハ又此産業ノ經營ガ、單ニ主トシ  
テ營利追求慾ヲ唯一ノ原動力トシテ經營サ  
レテ居ルカドウカト云フ、此問題ニ依ッテ  
決定サレルモノト信ジテ居リマス、政府ガ  
荷モノ日本ノ産業、而モ製鐵ト云フヤウナ重  
要産業ノ動向ニ關與シヨウト致シマスルナ  
ラバ、尠クモ以上ノ見解ノ上ニ立脚シテ事  
ヲ爲スベキダト、是亦私ハ信ジテ居リマス、  
國家全體の利益ヲ目標トシテ産業ヲ經  
營スルト云フ其形態ハ、ソレハ色々アルト  
私共考ヘテ居リマス、例ヘバ國有、國營ノ  
經營形態、是亦適當ナル一ツノ形態デアリ  
マセウ、或ハ國營ニアラズトモ、民營デア  
テモ、其間ニ國家ノ強力ナル管理權ト云  
フモノガ行使サレマスナラバ、是モ亦一ツ  
ノ適切ナル形態ナリト私共ハ考ヘマス、要  
スルニ現段階ニ於キマシテ實現ガ可能デア  
リ、而モ今言フヤウナ國家の利益ヲ求メ  
得ラレルト云フ所ノ目的ガ完全ニ達シ得ラ

レ、バ、以テ足レリト私共ハ考ヘテ居リマ  
ス、委員會ニ於キマシテ、私共幾多ノ質疑  
答辯ヲ承リマシテ、吾々ハ斯ウ云フコトハ  
知り得タノデアリマス、政府ガ今回本案ヲ  
提出セラレマシタ所ノ意圖ハ、氣持ハ  
其氣持ガ實現サレカドウカト云フコトハ  
自ラ別ノ問題ト致シマシテ、氣持ダケハ、  
少クモ此法案ガ提出サレヨウト云フ其以前  
ニ、一般國民ガ考ヘテ居リマシタモノト幾  
分違フデ、或ハ又前回ニ出シマシタ所ノ合同  
案、二三年前ニ噂ニ上リマシタ合同案ノ意圖  
トハ相當ニ違フデ、資本ノ合同ニ依ッテ、資本主  
義のナ獨占形態ヲ形成セントスルモノデハ  
ナイト云フ意圖ダケハ、私共認メ得ルノデ  
アリマス、即チ民間會社ノ水膨レ資本ヲ、相  
當ニ之ヲ切下ゲテ、或ハ二分ノ一、或ハ三  
分ノ一ニマデ切下ゲテ、生産費ヲ引下ゲ、  
鐵鋼ノ値段ヲ相當ニ是モ下ゲヨウトシ、或  
ハ相當ヲ相當ニ是モ制限ヲ致シマシテ、或  
ハ色々ノ設備ヲ整ヘ、増產計畫ヲ可能ナラ  
シメ、或ハ國防上ノ要求ニ付テ相當ノ準備  
ヲ整ヘルコトヲセヨウト致シ、或ハ從業員  
ノ待遇條件、或ハ勞働條件ニ付テハ、相當  
ニモ考慮スルコトヲセヨウナ意思ヲ、特別委  
員會ノ質疑應答ノ結果、私ハ認メ得ラレタ  
ノデアリマス、私共ハソレニ關シマスル限  
リ、此政府ノ意圖ハ極メテ正シイト信ジテ  
居リマス、併ナガラソレハ飽迄今日偶、商  
工大臣ノ任ニ在ラレル中島商工大臣ノ、善  
良ナル意圖ニ止マルノデアリマス、私ハ此  
點ガ大問題ダト思ヒマス、若シ現商工大臣  
ノ斯ノ如キ國家の意圖ガ、約束通り將來ニ  
互ッテ——此日本製鐵株式會社ト云フモノ  
ハ永遠ニ存続スルモノト信ジマスガ、是ガ  
將來ニ互ッテ、今ノヤウナ氣持ガ實現サレマ  
スル爲ニハ、單ニ現在ニアリマスル所ノ中  
島商工大臣ノ、國家の意義ト善良性ダケデ  
ハ、私ハ不足ナリト信ジテ居リマス、若シ  
此意圖ガ永遠ニ繼承サレル爲ニハ、此計畫  
者ノ意圖ガ其儘何モノニモ阻マレズシテ、

伸ビヤカニ是ガ將來繼承、承認サレテ參リ  
マス爲ニハ、其計畫實行ノ任ニ當リマス所  
ノ人ガ、永遠ニ今日ノ權力ノ地位ヲ確保シ  
テ居ラナケレバナラヌト私ハ信ジマス、是  
ガ條件デアリマス、併ナガラ事實ヲ考ヘテ  
見マスル時ニ、現中島商工大臣ハ、勿論永  
遠ニ今日ノ權力ヲ確保スルモノデハアリマ  
セヌ、恐ラク政變一度來ルナラバ、商相ハ  
又今日ノ地位ヲ去ラナケレバナラナイ立場  
ニアルノデアリマス、而モ商相ハ、居テモ  
居ナクテモ構ハナイト云フナラバ、議會ガ  
今日特別委員會ニ於テ、アレダケ熱心ニ論  
議サレマシタ特別委員會ノ意思ト云フモノ  
ガ、是ガ將來トモ日本製鐵株式會社ノ事業  
經營ニ對スル方針ヲ拘束スルモノナリト、  
私共ハ考ヘルコトモ出來ナイノデアリマス、  
勿論本會社成立ノ當時ニ於キマシテハ、過  
般ノ特別委員會ノ意思ト云フモノハ、十分  
ニ尊重サレルト信ジマス、ケレドモソレハ  
創立ニ關スル程度ニ止リマシテ、將來此會  
社ガ事業ノ經營ヲ續ケテ行キマス際ニ、議  
會ガ其時々ニ適宜ニ時機ヲ失ハズシテ、其  
會社ノ經營方針ニ關與致スト云フコトハ、  
不可能ダト私ハ信ジマス、然ラバ成立ノ時  
ハ兎ニ角トシテ、將來ニ於テ斯ノ如キ不安  
ガアルト致シマスルナラバ、若シ將來ニ於  
キマシテ、現中島商工大臣ト反對ノ意見ヲ  
持ッテ居ル人ガ、商工大臣ノ椅子ニ坐ッテシ  
マ、タト致シマスルナラバ、今日ノ中島商  
相ノ意圖ト云フモノハ、唯畫餅ニ歸スルダ  
ケダト私ハ信ズルノデアリマス、其點ニ對  
シテ私共ハ甚シイ杞憂ヲ本案ニ對シテ持ッ  
者デアリマス、若シ商相ノ意思ニ反シマシ  
テ、例ヘバ將來ノ會社ノ首腦部ガ——本案  
ガ成立致シマスルト、將來會社ノ事業方針  
ト云フモノハ、主トシテ會社ノ重役、首腦  
部ニ一任サレル形ニナルノデアリマス、其  
後參加シテ參リマス所ノ——製鐵會社ノ評  
價等ハ、ソレハ重役ニ一任サレルノデ、成  
立當時ダケハ資產評價委員會ガ評價致シマ

スルガ、其後一段落付キマシタ後ノ新參加  
會社ノ評價ハ、是ハ重役ニ一任サレルコト  
ニナリマス、此重役ガ其參加サレマシタ所  
ノ會社ノ評價ヲ、極メテ不當ニ、緩慢ニシ  
テ見タリ、高率配當ヲ定メテ賣値ヲ引上ゲ  
テ見タリ、其他設備ノ改善ヲ怠リ、國防上  
ノ用意ヲ缺キ、勞働條件ヲ低下シテ、搾取  
ヲ是レ事トスルト云フヤウナ場合ニ立至リ  
マシテ、而モ其時ノ監督官廳ノ大臣ハ、不  
幸ニシテ現商相ト相反シテ、其會社首腦部  
ト相通謀スルガ如キコトガ偶、アリマシタ  
ナラバ、今日商相ガ考ヘテ居ラレマスル事  
或ハ特別委員會ノ要求致シマシタ所ノ重大  
意圖ハ、全ク打碎カレテシマフ以外ニ私ハ  
ナイト、斯ウ考ヘルノデアリマス、ソレ故  
ニ私共ハ特別委員會ニ於テモ特ニ發言ヲ求  
メマシテ、將來此會社ガ、今日ノ善良ナル  
國家の意圖ヲ繼承致シマスル爲ノ條件ト致  
シマシテ、將來トモ國民ノ總テノ意思ヲ出  
來ルダケ完全ニ反映セシメテ、其意圖ノ下  
ニ此會社ガ運轉經營シテ行ケマスル爲ニ、  
今日ヨリ大方針ヲ決定スル所ノ、製鐵國家  
管理委員會ノ設置ヲ私共ハ要求シタノデア  
リマス、併ナガラ商工大臣ハ其必要ナシト  
シテ之ヲ拒絕致シマシタ、私共ハ斯ウ云フ  
強力ナル國家管理委員會ヲ作ッテ、其國家管  
理委員會ノ中ニハ、當該所管ノ大臣或ハ當  
該會社ノ首腦部、或ハ需要者側、或ハ勞働者  
側、或ハ軍部關係者、一切ノ者ヲ其處ニ代  
表ヲ入レマシテ、ソレガ嚴正ナル會社ノ根  
本方針ヲ決定スルコト云フ、管理委員會ノ設  
置ヲ私共ハ要求スルノデアリマス、ソレハ一  
切ノ重要ナル會社ノ事項、例ヘバ業務擔當  
首腦者ノ選任ハ其管理委員會デスル事業ノ  
創設及事業ノ方針、國防上ノ要求、利益金  
ノ處分、社債ノ取極、或ハ關稅其他競争者ニ  
對スル處置、原料購入ニ關スル根本方針、  
其後參加致シマスル所ノ會社ノ資產ノ評價、  
或ハ勞働條件ヲ如何ニスルカト云フヤウ  
ナ、根本問題ヲ決メサセル必要ガアルト私

ハ信ズル、例ヘテ見マスルト、斯ノ如キ嚴  
正ナル委員會ガ存在致シマセヌナラバ、先  
程委員長ノ報告ガゴザイマシタ時ニ問題ニ  
ナリマシタガ、將來必要ナル石炭ヲ三井、  
三菱ノ大手筋カラ之ヲ購入シナケレバナリ  
マセヌガ、出來上リマス所ノ會社ノ首腦部  
ニハ商相ノ言明ニ依レバ、三井三菱ノ株主  
モ、是亦重役トシテ參加スル所ノ會社ニ有  
リマス、此三井三菱ノ重役ヲ會社内ニ有  
ナガラ、三井三菱カラ安價ナル所ノ石炭  
ヲ、果シテ將來モ買ヒ得ルヤ否ヤ、是ハ大  
キナ問題ダト私ハ存ジマス、然ルニ輪西、  
兼二浦、釜石等ノ鑛石ヲ有ッテ居リマス所  
ノ鑛山ハ、今度ハ買收ヲ致サヌト云フコト  
ニ決定致シタノデアリマスガ、此鑛山ヲ買  
收致サズシテハ、此三ツノ民間會社ノ價值  
ト云フモノハ極メテ薄弱デアリマス、而モ  
今回購入セザル、此鑛山カラ出マス所ノ原  
鑛石ヲ、會社ガ契約ヲシテ之ヲ購入スル  
云フコトヲ聞イテ居リマスガ、其價格ヲ如  
何ニスルカト云フ問題ハ、會社ノ事業ガ良  
クナルカ、ナラナイカト云フコトニ取ッテ、  
重大ナル「ファクター」ナリト私ハ信ズル、  
或ハ今迄ノ狀態デ致シマスルナラバ、鉄鋼  
一貫作業ト云フモノハ、北海道、朝鮮或ハ  
釜石ノ如キ、邊鄙ナル處ニ一貫作業ヲ行ッ  
テ居リマスルガ、將來一貫作業ハ、此製鐵業  
ガ科學工業ノ母ナリト云フ立場カラ、果シ  
テ斯ノ如キ邊鄙ナル處ニ一貫作業ヲ發展セ  
シメテ可ナリヤ、或ハ京濱、或ハ阪神ノ如  
キ、科學工業ノ發展地ニ於テ、此一貫作業  
ヲ發展セシムルコトガ、國策上可ナリヤト  
云フヤウナ問題ヲ決定スルノハ、誰ガ一體  
スル、是等ノ重大ナ問題ヲ、總テ將來ノ會  
社ノ重役ニ一任スルコト云フコトハ、本法案  
提出ノ意圖デアアル、日本ノ製鐵業ノ國家的  
利益ノ下ニ誘導セントスル所ノ意圖ニ、相  
反スル結果ヲ齎スモノナリト、私共ハ信ズ  
ルノデアリマス、斯ウ云フ意味ニ於キマシ  
テ、私共ハ此會社ノ成立ノ意圖ヲ是トハ致

シマスルガ、此意圖ガ將來繼承實現セラ  
ルヤヲ、甚シク疑ハザルヲ得ナイト信ズ  
ルデアリマス、此點ニ付キマシテ、提案者  
タル所ノ政府ハ、斯ノ如キ懸念アレバコ  
ソ、政府ハ許可權、命令權、監督權ヲ留保  
シテアル、之ニ依ッテ斯ノ如キ懸念ハ解消  
セラレラデアラウト云フ答辯ガアリマシ  
タ、併ナガラ私共ハ監督權、命令權デ以  
テ、一切ノ民間ノ事業ガ國家の利益ニ背反  
セズシテ運轉セラレルト云フノナラバ、何  
ノ必要アッテ第一回ニ資產評價ノ爲ニ評價  
委員會ト云フ委員會ヲ作ル必要ガアリヤ  
ト、反問セザルヲ得ナイノデアリマス、大  
臣ガ監督權、命令權ヲ有チマスルナラバ、  
資產評價委員會ノ必要ハナイ、資產評價ガ  
間違タナラバ、大臣ノ監督權デ之ヲ取消サ  
シメレバ宜イノデアリマス、然ルニ最初ニ  
於キマシテ、嚴正ナル委員會ノ選任ヲ致シ  
シテ、評價委員會ヲ作ルト云フコトハ、一  
其評價ガ一般ノ信賴ヲ得ルニ足ルコトヲ示  
シ、權力ニ依ッテ邪マナルコトナカラシメ  
コトヲ、一般ニ安心セシメンガ爲メノ手段  
ナリト私ハ信ズル、此意味ト同ジヤウニ、  
單ニ評價委員會ニ非ズシテ、未來永遠會社  
ノ重要ナル方針ヲ決定スベキ、強力ナル國  
家管理委員會ノ設立ヲ私共ハ必要ト致シマ  
ス、特ニ私共ガ斯ノ如キ國家管理ノ形態ヲ取  
ラナケレバナラナイト申シマスルハ、本法  
案ノ如キハ我國ニ於テ初メテ現レタル所ノ  
經營形態デアリマス、今マデノ民營ヲ一切  
集メマシテ、之ヲ獨占的ナ姿ニシテ、而モ  
國家ガ之ニ、其程度ノ差コソアレ、管理ヲ  
シヨウト云フ形態ハ、之ヲ以テ私ハ嚆矢ト  
ナスト信ジマス、サレバコソ慎重ナル考慮  
ヲ私共ハ此際ニ必要ナリトスル、而モ世間ハ  
マダ日本ノ産業ノ將來ハ、如何ナル形態  
ニナルコトヲ適當ナリヤト云フコトニ付  
テ、一般輿論ハ熱シテ居ラナイト私ハ信ズ  
ル、是カラノ形態ハ、決シテ今マデノヤウ  
ナ自由主義經濟デハイケナイ、國家管理

ノ力ガ加ハラナケレバナラナイト云フコト  
ガ、國民一般ノ輿論デアリマスルナラバ、  
強テ強力ナル管理委員會ノ必要ハナイカモ  
知レナイ、ケレドモ世間ハ未ダ斯ノ如ク熱  
シテ居リマセヌ、新シキ此産業ノ形態ヲ逆  
ニ、隙アレバ叩潰サウト云フ所ノ力ガ、イ  
マ日本製鐵株式會社法案ノ周圍ヲ繞テ、力  
強ク押寄セテ居ルト云フ姿ヲ私ハ見ル、本  
法案ガ提出サレマスルトキニ私ハ聞イタノ  
デアリマス、三井三菱ガ此會社ニ合併ヲ  
サレナケレバナラナイ、而モ其三井三菱ガ  
所有シテ居リマスル會社ノ評價ハ、極メテ  
嚴正ニ切下ゲラレト云フコトヲ聞キマス  
ルヤ、同時ニ本法案ヲ流産セシメンガ爲ニ、  
陰ニ陽ニ本法案ノ提出ニ反對シタ事實ヲ私  
ハ知テ居リマス、今日、本法案ガ國家管理  
ノ形態ヲ取ルベキコト、ソレガ次第ニ議會  
ノ中デ是認サレテ參リマシタノヲ見テ、此  
反對勢力ハ今日鳴リヲ鎮メテ居リマスガ、  
若モ將來此會社ヲ、此會社ノ重役ト其時々  
ノ商工大臣ニ、私共ガ白紙デ之ヲ御委センテ  
シマツタナラバ、斯ノ如キ反對勢力ハ、必ズ本  
會社ヲ取巻イデ、此形ノ出來上リ掛ケタ國  
家管理ノ形態ノ縊ヲ戻スニ違ヒナイ、斯ウ  
私ハ信ズルノデアリマス、而モ本法案ハ商  
工大臣ガ提案サレタ、現内閣全部ノ關係ガ  
一致シテ出サレタカドウカハ私ハ疑ハザル  
ヲ得ナイ、日本ノ産業ノ將來ハ、斯ノ如キ  
形態ニナラナケレバナラナイト云フ信念ヲ  
御有チニナル方ハ、現内閣中果シテ何人ノ大  
臣アリヤヲ疑ヒマス、齋藤總理大臣ノ如キ  
ハ、斯ノ如キ形態ノ産業形態ガ何モノデア  
ルカト云フ、其價值ヲサヘ皆目知ラナイノ

デハナイカトサヘ私ハ疑フ、斯ウシタ中ニ  
在テ、四面一切敵ノ中ニ在テ、新シキ形態  
ノ産業ガ出發セントシテ居リマス、私ハ此  
意味ニ於キマシテ、本法案ハ其意圖是ナリ  
ト致シマスルガ、將來ニ向テ國家管理ノ實  
績ヲ擧ゲ得ラル、所ノ保證ノ附イタ、即チ  
強力ナル國家管理委員會ノ組織ナキ所ノ本  
案ニハ、殘念ナガラ反對セザルヲ得ナイト  
信ズルノデアリマス、以上簡單ナガラ、反  
對ノ理由ニ代ヘマス(拍手)

○議長(秋田清君) 岸田正記君

(岸田正記君登壇)

○岸田正記君 諸君、私ハ只今委員長報告  
ノ通り、本案ニ對シマシテハ二項目ノ附帶  
決議ヲ附シマシテ、政府提出ノ原案ニ贊成  
スルノ意思ヲ表明スル者デアリマス、申  
上ゲルマデモナク、我國ノ今日ノ製鐵業  
ノ現狀ト云フモノハ、甚ダ世界ノソレニ  
比ベマシテ劣弱ナル地位ニ在ル、即チ其  
生産額ニ付テ考察致シテ見マシテモ、斯  
界ノ最高記錄ヲ示シマシタ昭和四年度ノ  
統計ニ付テ觀察致シテ見マシテモ、世界ノ  
銑鐵總生産額九千八百萬噸、鑛材一億二千萬  
噸、之ニ比較致シマシテ、我國ハ僅ニ鐵鋼  
ノ生産額ハ、其ニ二ニシカ當ラナイヤウナ狀  
態デアアル、之ヲ各國ノ生産額ニ比較シテ見  
マシテモ、英國ニ對シテハ五分ノ一、獨逸  
ニ對シテハ八分ノ一、亞米利加ニ對シマシ  
テハ正ニ二十五六分ノ一ニシカ當ラザリシヤ  
ウナ實績ヲ示シテ居タノデアリマス、一國  
産業、軍備ノ基本的材料デアリマスル此鐵  
鋼ト云フモノガ、斯ノ如ク我國ニ於テハ劣  
弱ナル所ノ狀態ニアルト云フコトハ、洵ニ

寒心ニ堪ヘヌ次第デアリマスルガ、而モ斯  
ノ如キ斯業ノ不振ノ狀態ニアル此根本原因  
ハ何處ニアルカ、此點ヲ先ヅ觀察スル必要  
ガアルノデアリマス、斯業不振ノ第一ノ原  
因ハ、言フ迄モナク、我國ノ製鐵業ニ於キ  
マシテハ、中小數多ノ企業ガ分立對立致シ  
テ居リマシテ、其間何等ノ統制殆ドナキ狀  
態ニアル、第二ニハ、斯業ニ對スル投下資  
本、殊ニ外部負債ガ甚ダ過大デアリマシテ、  
爲ニ今日事業資金ノ堅實性ヲ缺イテ居ル、  
第三ニハ、言フ迄モナク、多年打續キマス  
ル所ノ我國ノ經濟界ノ不況、此爲ニ我國ノ  
製鐵業ト云フモノハ、自力合理化ノ途ヲ失  
ヒマシテ、今日或ハ不完安ナル生産設備ノ  
狀態ノ儘ニアル、或ハ其生産能力不足ノ狀  
態ノ儘ニアル、此三ツノ點ガ斯業不振ノ根  
本原因デアルト、私ハ信ジテ居リマス、故  
ニ此重大ナル工業發展ヲ期シマスルニ付キ  
マシテハ、是等ノ事業ノ根柢ニ積ハル所ノ禍  
根、缺陷ヲ一掃スルニ非ザレバ、到底其目  
的ヲ達スルコトハ出來ナイノデアリマス、  
之ニ付キマシテハ、色々ナ手段方法モ論ゼ  
ラレテ居ル、併ナガラ何ト申シマシテモ、  
今日ノ我國ノ製鐵業ノ狀態、經濟界ノ實情、  
是等カラ制斷致シマシテ、全國ノ中小幾  
多ノ製鐵企業ニ對シテ、其自力更生ヲ求メ  
ル、是ハ到底不可能ナコトデアリマス、殊  
ニ又極端ナル保護關稅ノ政策、或ハ今日ノ  
製鐵獎勵法ヲ徹底的ニ擴大施行致シマシタ  
所ガ、是デモ到底其目的ヲ達スルコトハ不  
可能ナノデアリマス、唯一ツ殘サレテ居リ  
マス問題ハ、中小數多ノ製鐵業ノ一大合  
併ヲ行フテ、サウシテ之ニ所謂統制經濟ノ妙

諦ヲ發揮シテ、一國一業主義ノ理想ニ邁進  
スル、是ヨリ外ニ斯業根本ノ發展策ハナイ  
ト私ハ信ジテ居ル次第デアリマス、今回政  
府ノ提案セラレマシタル日本製鐵株式會  
社、此法案ハ正ニ斯ノ如ク我國ノ製鐵業ノ  
根柢ニ横テ居ル缺陷ヲ排除シテ、サウシテ  
其劃期的ノ發展策ヲ期スル所ノ根本方針ニ  
基イテ立案セラレタモノデアリマシテ、以  
下數項ニ分チマシテ、私ハ本案ヲ支持スル  
所以ノモノヲ說キマシテ、サウシテ本案贊  
成ノ趣旨ヲ明ニセントスル次第デアリマ  
ス

先ヅ第一ニハ、前申上ゲマシタ通りニ、  
今日ノ我國ノ製鐵業ノ根柢ニ横テ居ル禍  
根缺陷ハ、中小數多ノ製鐵業ガ互ニ相分立、  
對立致シマシテ、其間ニ殆ド統制ガナイ、  
此缺陷ヲ排除致ス爲ニハ、日本製鐵株式會  
社ノ組織經營ノ方針ニ於キマシテハ、御存  
ジノ如クニ八幡製鐵所、此堅實ナ今日基礎  
ニアル八幡製鐵所ヲ中心ト致シマシテ、第  
一次ニハ民間五社ヲ之ニ合併ヲシ、續イテ  
近キ將來ニ於キマシテ、民間十一社ノ製鐵  
業者ヲ之ニ合同致シマシテ、而モ其資本金  
ハ三億五千萬圓、サウシテ殆ド全國ノ生産  
界ノ八割ヲ占メルマデノ此製鐵業合同ヲ行  
ヒマシテ、之ニ依テ所謂統制經濟ノ妙諦  
ヲ發揮シヨウトシテ居ルノデアリマス、言  
フマデモナク、我國ノ斯業ノ今日マデノ經過  
ヲ見マスルト、御存ジノヤウニ歐洲大戰亂當  
時マデハ、我國ニ於キマシテハ、事業ハ甚ダ  
振ハナカッタ、所ガ歐洲大戰亂ニ依リマシテ、經  
濟界ハ一時非常ナ好景氣ヲ呈シテ來タ、之  
ニ乗ジマシテ、雨後ノ筍ノ如クニ製鐵業ガ

起テ來テ、大正二年當時ニ於キマシテハ、僅ニ製鐵業二十一社、資本金二億圓ニ過ギナカッタ事業ハ、歐洲大戰當時ニ至リマシテ、俄ニ資本金或ハ製鐵會社ノ數ハ數倍致シマシタケレドモ、戰後經濟界ガ非常ナ疲弊ニ陥リ、此打撃ヲ受ケマスルヤ、御存ジノ如クニ製鐵業ハ非常ナ經營困難ニ陥ツタ、而モ是等ノ製鐵業ハ、此困難ナル狀態ノ中ニ互ニ分立致シマシテ、其間僅ニ販賣上ニ於テノ統制ヲ取ツテ居ルノニ過ギナイ狀態デ、或ハ原料ノ買入、或ハ生産デアルトカ、或ハ運搬デアルトカ、是等ノ點ニ付キマシテハ、殆ド何等ノ統制組織ヲ有テ居ラナイヤウナ狀態デアル、斯ク致シマスル結果ハ、或ハ設備費ノ二重投下トナリ、或ハ設備ノ過不足ヲ來シ、或ハ徒ラナル御互ノ競争ヲ致シマスル結果ガ、自ラ生産費ノ過重トナツテ來マシテ、今日市價ノ安定ヲ缺キ、事業ガ衰ヘテ來ルノミナラズ、消費者一般ニ對シテモ多大ノ迷惑ヲ掛ケテ居ルヤウナ狀態デアリマス、是ガ故ニ此缺陷ヲ排除スルニアラザレバ、到底斯業更生ノ目的ヲ達スルコトハ出來ナイ、是等ノ點ニ付キマシテハ、歐米ノ先進國ニ於テモ十二分ニ留意ヲ致シマシテ、御存ジノ如クニ亞米利加ノ如キハ、既ニ千九百一十四億弗ノ資本ヲ以テ「ユト・エス・スチール・コトポレーション」此製鐵界ノ大合同ヲ行ツテ居ル、或ハ又獨逸ノ如キハ千九百二十六年ニ、アノ鋼材合同會社ヲ作ツテ、八億馬克ノ資本ヲ以テ斯界ノ合同ヲ行ツテ、益、其擴充ヲ圖ツテ居ル、是等ノ實例ニ徴シマシテモ、我國ノ今日ノ事業ノ根柢ニ横ハツテ居ル缺陷、小

企業ノ分立、不統制、此缺陷ヲ排除シテ眞ニ劃期的ノ發展ヲ期スル爲ニハ、ドウシテモ本案ノ如クニ日本製鐵株式會社ノ創立ニ依リマシテ、斯業ノ一大合同ヲ行ヒ、系統的ニ、統一のニ、大規模ニ事業ヲ經營管理スル、此方策ニ出ヅルコトガ、斯業更生ノ第一ノ對策デアルト私ハ信ジテ居ル次第デアリマス

續イテ第二ノ缺陷ヲ補ヒマスル本法案ハ、御存ジノ如クニ、今日日本ノ製鐵業ハ投下資本ガ甚ダ多イ、殊ニ非常ニ澤山ノ外部負債ヲ負ツテ居ル、是ガ前申上ゲマシタヤウニ、歐洲大戰、其後ノ經濟界ノ打撃ニ因リマシテ經營困難ニ陥リ、爲ニ此資本的ノ合理化ヲ圖リ、整理ヲ行フ機會ヲ失フテシマツタ、此爲ニハ、今日睡眠狀態ニアル多クノ設備ガ殘サレテ居ルノデアル、之ヲ加奈陀ナドノ實例ニ較ベマシテモ、同ジ生産能力ヲ有スル會社ニ於キマシテモ、日本ノ四ニ對シテ加奈陀ハ僅ニ一ノ割合ヲ以テ、立派ニ同ジ生産量ヲ擧ゲテ居ルヤウナ狀態デアル、特ニ又外部負債、借入金デアリマストカ、或ハ社債デアルトカ、是等ノモノハ非常ニ多クノ額ニ達シテ居リマシテ、今日御存ジノヤウニ、合同ノ目標トサレテ居ル民間十一社ノ如キハ、其合計八千八百二十餘萬圓カラノ負債ヲ有シテ居ル、其固定財産ノ評價額ニ於キマシテハ、正ニ千四百四十萬圓カラノ過重ノ負債ヲ負ツテ居ル、年六分ノ金利ト見マシテモ、五百三十萬圓カラノ金利ヲ支拂ハナケレバナラス、斯ノ如キ利息ノ負擔或ハ減價償却ニ對スル負擔、是等ハ悉ク生産費ノ過重トナツテ來、是ガ

今日我國ノ製鐵業ノ經營ノ困難ニ陥ツタ所ノ、最モ大キナ原因デアリマスガ故ニ、此點ニ鑑ミマシテ斯業ノ更生ヲ期スルニハ、ドウシテモ此負債ヲ整理シ、サウシテ投下資本ヲ整理緊縮スル、是ヨリ外ニ方法ハナイ、日本製鐵株式會社ハ此點ニ著眼ヲ致シマシテ、先ヅ民間業者及八幡製鐵所カラ出資致シマスル財産ニ付キマシテハ、御存ジノヤウニ稼高式、或ハ複成式、是等ノ方法ニ依リマシテ嚴肅ニ出資財産ヲ整理シ、而モ其算定額ニ對シテ三分ノ二、或ハ五分ノ三、斯ノ如キ緊縮率ヲ掛ケテ資産ヲ整理致ス、サウシテ之ニ依ツテ各會社ガ出資スル額ニ對シテ割當テラレル所ノ株、此受株ニ依ツテ、各會社ハ今日マデノ莫大ナ負債ヲ整理シテ行ク、斯ウ致シマシテ、一面ニ於テハ多年ノ我國ノ斯業ノ根柢ニ横ツテ居ル痛腫トモ言フベキ此負債ノ整理ヲシ、一面ニ於テハ清新ナ、サウシテ水膨レノ取レタ、緊縮サレタ資金ヲ以テ行ツテ行ク、此堅實ナル基礎ノ上ニ社債或ハ借入金ヲ民間カラ起シマシテ、サウシテ事業經營ヲヤツテ行クノデアリマスカラ、斯ノ如クニシテ初テ我國ノ製鐵業ノ資本的基礎ガ鞏固ニナリ、斯クシテ初テ今日マデノ我國ノ製鐵界ノ衰ヘテ居ル根本原因ヲ、排除スルコトガ出來ルノデアリマス、是ガ第二ニ私ガ日本製鐵株式會社法案ニ賛成スル所以デアリマス

第三ノ點ハ、御存ジノ如クニ今日マデ多年打續ク不景氣ノ爲ニ、我國ノ民間製鐵業ト云フモノハ、自力更生ノ力ガナカッタ、時ニ不足ノ儘ナル生産能力、不完全ナル儘ノ製鐵設備、此狀態ノ儘ニ續イテ來テ居ツタ、是ガ今日ノ缺陷デアル、而モ今日ノ我國ノ鐵鋼ノ需要ノ狀態ハドウデアルカ、昭和四年ノ最高記錄ヲ示シタ時ニ考ヘテ見マシテモ、二百七十萬噸ト一年ノ需要ハ考察シナケレバナラス、而モ產業界或ハ軍事、是等ノ今日ノ實情カラ將來ヲ考察致シマス云フト、ドウシテモ昭和二十二年ニハ五百五十萬噸ノ需要量アルコトヲ考察シナケレバナラス、然ルニ今日ノ狀態ニ於キマシテハ、我國ノ斯業ノ生産能力ト云フモノハ、僅ニ九〇%ノ設備能力シカナヤウナ狀態デアル、之ヲ思ヒマスレバ、此生産能力ノ擴充ト云フコトハ、最大ノ急務デアル、而モ二百七十萬噸一箇年ノ生産能力ヲ完備スルニ付テハ、少クトモ五千三百三十萬圓ノ生産設備費ガ要ル、五百五十萬噸ノ生産能力ノ設備ヲスルニハ、二億圓ノ資金ガ要ル、斯ノ如キハ今日ノ儘ナル民間會社ニ任シテ置イテハ、望ミ得ベカラザルコトデアリマシテ、殊ニ生産界ノ非常ナ不完全ナル設備、銑鋼一貫ノ設備等ニ付テハ、洵ニ海外ニ對シテ恥カシキ狀態ニアル、是等ノ點ニ於キマシテ生産能力ノ擴充、或ハ設備ノ改善等ニ付キマシテハ、ドウシテモ斯業ノ一大合同ヲ行ヒ、堅實ナル資金ヲ以テ之ニ當ル、是ヨリ外ニ方法ハナイ次第デアリマシテ、是レ即チ私ガ第三點ト致シマシテ、日本製鐵株式會社法案ニ賛成スル次第デアリマス

而モ第四ノ問題ト致シマシテハ、此日本製鐵株式會社ヲ民間事業トシテヤツテ行クベキカ、或ハ國家ガ非常ナ管理權ヲ之ニ持ツテ、サウシテ殆ド官營ノ狀態ニ等シキ程度

ダイヤテ行クベキカ、是等ニ付テハ幾多ノ議論ガアル、只今小池君ノ如キハ國家管理委員會ヲ設ケテ、之ニ對シテ十分國家ノ權力ヲ加フベキデアル、斯ク主張サレタ、此點ニ付キマシテハ、私共ハ小池君ノ御意見ニ對シテ贊意ヲ表スルコトガ出來ヌノミナラス、斯ノ如キハ斷ジテ此事業合同ノ趣旨ヲ貫徹スル所以デナイト、信ジテ居ル次第デアリマス、何故カト申シマス云フト、今日日本ノ製鐵業更生ノ爲ニハ、鐵及鋼ガ如何ナル商品デアアルカト云フコトヲ考ヘナケレバナラス、言フ迄モナク鐵鋼ハ世界の生産、世界のノ消費、此國際の商品、而モ此國際商品ヲ生産シ、販賣シ、管理經營ヲ行フ、此製鐵業ニ於キマシテハ、徒ニ國家ノ大ナル權力、此掣肘ヲ受ケ、難カシイ規則、堅苦シイ規約、是等ノ制限ヲ受ケテハ到底此世界ノ競争ニ打勝ツコトハ出來ヌノデアアル、即チ先ツ第一ニハ此製鐵會社ノ今日迄ノ有力ナル經營者、是等ノ經驗ヲ有テ居ル所ノ民間ノ人々、或ハ八幡製鐵所——官營製鐵所ノ老練達識ノ士、是等ヲ網羅致シマスト共ニ、更ニ多ク在野ノ斯界ニ於ケル經驗知識ヲ持ツ者、是等ノ高材逸足ヲ網羅シテ、サウシテ純民間事業ト致シマシテ、世界ノ經濟狀態、或ハ我國ノ軍備、經濟ノ實情、是等ニ適合致スヤウニ、臨機應變、自由自在ニ經營方針ヲ行ハシメル爲ニハ、堅苦シイ國家管理委員會ナドノ掣肘ヲ受ケ

テ、常ニ規約ヅクメノ狀態ニ置クコトヲ離レテ、民營事業ニ移スコトハ、斯業發展ノ根本策デナケレバナラスト私ハ信ジテ居ル次第デアリマス、特ニ之ヲ資本調達ノ點カラ申シマシテモ、官營ノ事業、或ハ國家管理委員會ノ審査ヲ、悉ク一ツ／＼ノ仕事ニ對シテ受ケネバナラス、斯ノ如キ狀態ニ於キマシテハ、到底時ノ會社ノ狀態、四圍ノ經濟實情、之ニ適合シタヤウナ金融運轉ハ不可能デアアル、或ハ甚シキハ國家管理ヲ唱ヘル人々モアル、國家管理、即チ其資金ヲ公債ニ俟ツト云フヤウナ事ガアリマスナラバ、今日ノヤウナ比較的公債ノ濫發時代トモ謂フベキ時代デアリマシテモ、此製鐵業ニ對シテ、更ニ公債ヲ募テ之ヲ經營スルト云フヤウナコトハ、國家財政ノ見地カラ申シマシテモ、甚ダ憂フベキコトデアリマス、之ニ反シマシテ民間ヨリ社債或ハ借入金ヲ行ヒ、此純民間カラ資本調達ノ方法ニ依リマス云フト、時ノ經濟界ノ實情、民間ノ金融實情、是等ニ適合シタヤウニ臨機應變ノ金融調達ヲ行ヒ、以テ會社ノ發展ヲ圖ルコトガ出來ル、是等ノ點ニ付キマシテモ、私ハ本事業ガ純粹ノ民間事業トシテ行ハレルコトハ、斯業發展ノ最モ大切ナル點デアルト信ジテ居リマス

是等ノ實情カラ申シマシテ、本事業ハ何ト申シテモ國營ノ適當デナイト云フコトハ勿論ノコト、國家管理審査委員會ノ如キモノヲ設ケテ、極端ナル國權ノ發動ヲ之ニ加ヘテ、此活潑ナル所ノ、サウシテ自由ナル、圓滑ナル活動ヲ掣肘スルガ如キコトハ、斯界ノ爲ニ取ルベカラザルコトデアルト信ジテ居リマス、而モ小池君ノ御意見ニ依リマス云フト、今日ノ此法案ノ精神ハ宜カラウケレドモ、此精神ヲ産ミ出シタ所ノ歷代内閣、或ハ今日日本法案ノ誕生ニ際シテ最モ苦心サレ、努力サレタル所ノ、中島商相ノ此立派ナル精神ガ、其儘永遠ニ繼續スルコトハ不可能デアラウガ故ニ、此精神ヲ永續セシムル手段ト致シテ、國家管理委員會ヲ設ケル必要ガアルトノ御意見デアアルヤウニ承ツタノデアリマスケレドモ、併シ此爲ニハ日本製鐵株式會社ニ於キマシテハ、株式ノ過半数ハ國家ガ之ヲ掌握致シテ居ル、サウシテ政府ガ適當ナル代表者、或ハ民間、或ハ軍部、或ハ學界、是等ノ識見ヲ有チ、知識ヲ有ツ方面カラ適材ヲ網羅シテ、サウシテ國家管理委員會ト實質的ニ同ジヤウナ、斯業ニ對シテ國家ノ立場ヲ能ク考慮シ、國家的ノ識見ヲ以テ之ニ當ル人ヲ、株式會社ノ代表者ニ加ヘルコトガ出來マスレバ、徒ニ管理委員會、此名ニ因ハレルコトナク致シマシテ、十二分ニ國家管理ノ實ハ舉ゲ得ルモノデアルト、私ハ信ジテ居リマス、是等ノ點カラ申シマシテモ、國家管理委員會ガ設ケラレザルガ故ニ、本法案ニ對シテ反對スルト云フガ如キハ、徒

ニ偏狹ナル理論鬭爭ノ遊戲ニ過ギザル所論デハナイカト、私ハ思フ次第デアリマス（拍手）是等ノ實情ニ依リマシテ、私ハ本法案ガ其發展ノ根本策ト致シマシテ、今日マデノ我國ノ斯業ノ根柢ニ横テ居ル幾多ノ缺陷ヲ排除スルニ、最モ適切ナル政策デアリ、而シテ之ヲ民營ニ委ネテ、能ク八幡製鐵所ヲ中心ニ、衰ヘテ居ル各會社ヲ合同シテ、十二分ニ鞏固ナル基礎ノ上ニ其發展ヲ圖リ、自由自在ニ經濟界ノ實情ニ適合シ、世界ノ實情ニ適合シタヤウナ經營ヲ行ハシムル爲ニモ、民業ヲ以テ行ハシムル趣旨ニ織込シテ居リマス日本製鐵株式會社法案ガ、最モ斯業發展ノ爲ニハ適切ナル國策ナリト斷定シテ憚ラザル次第デアリマス（拍手）併ナガラ私ハ此法案ノ價值ト云フモノハ、以上申上ゲタヤウナ精神ヲ法文ノ上ニ書キ表ハシテ居ル此表現的ノ條文ヤ、或ハ辭句、此形式、以テ本法案ノ實效或ハ成果ヲ豫測スルコトハ早計デアルト信ジテ居リマス、此一點ニ至リマシテハ、私ハ小池君ト意見ヲ異ニスル者デアリマセヌ、問題ハ此法案ノ條文、辭句、是等ノ形式ニアラズシテ、此日本製鐵株式會社ヲ如何ニ實際ニ於テ創設シ、如何ニ之ヲ運用實行スルカ、此實行ノ問題ニアルト信ジテ居リマス、特ニ本法案ノ本當ノ生命ヲ發揮シ、其實效ヲ舉ゲルニ付キマシテハ、第一ノ問題ハ何ト致シマシテモ出資評價ノ問題デアリマス、即チ官



營八幡製鐵所ヲ初メト致シマシテ、第一次ニハ民間五社、續イテハ民間十一社、是等ノ各製鐵會社或ハ製鐵所ノ合同ヲ行テ、先ヅ其資金ヲ決メテ行クノデアリマスガ、此出資財産ノ評價ト云フコトニ當リマシテ、其當ヲ失シ、其嚴重ヲ失、タナラバ、本法案ノ價值ハ全然零トナテ來ルト云フコトハ、言フマデモナイ次第デアリマス、何トナレバ、今日既ニ民間ニ於テモ、此點ニ付テハ幾多ノ疑惑ヲ豫メ有テ居ル人々スラアルト云フコトハ、何處ニ其疑惑ノ問題ガ存シテ居ルカ、言フマデモナク、是ハ民間各製鐵會社ノ現狀ハ、前申上ゲマシタヤウニ頗ル經營困難ノ狀態ニ立至テ居リ、睡眠狀態ノ儘ニ置カレテ居ル所ノ固定財産ガ澤山アル、是等ノモノヲ、此一大合同ニ際シマシテ無條件デ、而モ評價ノ嚴重ヲ失シテ、八幡製鐵所ト相合シテ、其資金ト致シマスル如キコトアリト致シマスルト、茲ニ大キナル禍根ヲ將來ニ貽スコトニナテ來ルノデアリマス、即チ或ハ審査委員ノ能力、或ハ公正、是等ノ點ニ於キマシテ嚴重ヲ失シ、公平ヲ失シ、或ハ醜惡ナル所ノ裏面運動ナドニ依リマシテ、如何ハシキ審査評價ガ行ハレル如キコトガアルニ至リマシテハ、徒ニ是等合同ノ名ニ依テ弱體民間會社ヲ、八幡製鐵所ノ犧牲ニ致シテ救済スルト云フ結果ニナテ來ルノデアアル、然ラバ出來上タ所ノ、此日本製鐵界ノ劃期的發展ヲ期ス

ルヲ目的トスル合同製鐵所ト云フモノハ、徒ニ今日マデノ數多クノ民間ボロ會社ニ代ユルニ、一大水膨レ合同會社ノ出現トナリ、此事ハ取りモ直サズ、此大キナル劃期的ノ、我國斯界發展ノ根本策ヲ期スベキ此日本製鐵會社ノ、眼目ヲ失スルモノデアルト云フコトハ、洵ニ遺憾ニ堪ヘザルノミナラズ、此點ハ社會政策ノ見地、或ハ財政的ノ見地カラ申シマシテモ、許スベカラザル所デアリマスガ故ニ、先ヅ出資財産ノ評價ノ嚴重公平ト云フコトニ付キマシテハ、十二分ノ注意ヲ拂フベキモノデアルト云フコトヲ、吾々ハ附帶條件ノ第一項目ト致シマシテ、嚴肅ニ政府當局ニ要求致シテ置ク次第デアリマス

續イテ附帶決議ノ第二點ハ、御承知ノヤウニ、今日マデ八幡製鐵所ト緊密ナル關係ヲ有テ居ル八幡市、及其他ノ關係市町村、是等ニ對シマシテ、合同ニ際シテノ適切ナル善後處置ヲ誤ルコトナク、善處セラレンコトヲ希望シ、之ヲ絕對ノ要件トシテ要求致シテ置ク次第デアリマス、既ニ委員長カラモ申サレタ通り、八幡市及其他ノ關係市町村ト云フモノハ、今日マデ八幡製鐵所ガ呱々ノ聲ヲ擧ゲテ以來、幾十年ノ間煤煙騒音ノ裡ニ、能ク精神的ニ、物質的ニ、此八幡製鐵所ノ事業ヲ助ケテ幾多ノ犧牲ヲ拂ヒ、其發展ノ上ニ多大ナル貢獻ヲ拂ッタト云フコトハ、諸君御存ジノ通りデアアル、而モ斯ノ如キ過去ノ緊密ナル關係ハ、唯此合同ニ依テ卒然トシテ打切ルベキモノデハナク、將來此緊密ナル關係ヲ續ケ、精神的、物質的ノ措置ヲ誤ルコトナク繼續致シマシテコソ、初メテ此地方民ノ無形ノ、或ハ有形ノ援助ガ、將來ニ於テ期待セラレルノデアリマス、斯クシテ初メテ此合同會社ノ中心ヲ成ス、中軸ヲ成ス八幡製鐵所ノ——民間事業トナリタリトハ言ヒナガラ、其事業ノ發展ガ期待出來ルト思フノデアリマス、此意味ニ於キマシテ、今回ノ合同ノ機會ニ際シテ此地方ノ人々ハ、特ニ又炭坑地方ノ人々モ、如何ニ政府ガ從來ノ關係ニ對シテ措置ヲ執ルカト云フコトニ付テ、非常ニ衝動ヲ受ケ、不安ヲ有テ居ル、併ナガラ此點ニ付キマシテハ、以上申上ゲタヤウナ事情ニ鑑ミマシテ、政府ハ能ク從來ノ緊密ナル關係、將來ノ發展ニ對シテ十二分ノ考慮ヲ拂ハレマシテ、從來マデノ助成金ノ關係、或ハ學校、水道其他ノ福利施設ノ關係、或ハ炭坑地方補償ノ關係、是等ノ點ニ付キマシテモ從來ト變ルコトナク、十二分ノ溫キ、サウシテ恩惠アル所ノ施設等、此關係ヲ持續セラレルコトハ、獨リ地方ノ福利ニ關係スル問題ノミナラズ、日本製鐵株式會社ガ眞ニ國民的ノ衷心ヨリノ後援、衷心ヨリノ發展ヲ冀フ此心持、此無形ノ大キナル基礎ノ上ニ立ツ所以デアルト信ジマスガ故ニ、此點ニ對シマシテハ、政府ハ特ニ其處置ヲ

誤ルコトナキヤウ、十二分ノ善處ヲ拂ハレシコトヲ、此際嚴肅ニ第二ノ附帶決議ノ條件トシテ希望致シ、要求致ス次第デアリマス

以上申上ゲタヤウナ二箇ノ附帶決議ヲ附シマシテ、而シテ此日本製鐵株式會社ガ、以上申上ゲタヤウナ、幾多ノ今日マデノ我國ノ製鐵界ノ根柢ニ横テ居ル此缺陷、此禍根ヲ排除致シマスルコトヲ得マスルナレバ、茲ニ初メテ我國ハ今日マデノ劣弱ナル製鐵業界ノ此淺マシキ有様、此實情カラ脱却致シマシテ、眞ニ劃期的ノ事業ノ基礎ヲ確立シ、將來ヘノ發展ヲ期待シ得ルモノデアルト私ハ信ジテ居ル、願クハ滿場諸君ニ於カレマシテモ、是等ノ點ニ付テ十二分ノ御諒解ヲ賜リマシテ、此二箇ノ附帶決議ヲ、政府ガ能ク實施スルコトヲ條件ト致シマシテ、以上ノ趣旨ニ基イテ、本事業ノ眞ニ將來ヘ掛ケテノ發展ヲ期スル爲ニ、諸君ノ一致ノ御贊成ノ下ニ、國家百年ノ大計ヲ此際ニ樹立セシムル、此意味合ニ於キマシテ、諸君一致ノ本案ニ對スル御贊成ヲ冀テ、此壇ヲ降ル次第デアリマス(拍手)

○議長(秋田清君) 龜井貫一郎君

(龜井貫一郎君登壇)

○龜井貫一郎君 私共ハ本案ニ對シテ反對ノ意思ヲ表明致ス者デアリマス、若宮委員長ノ極テ條理整然タル、至レリ盡セリノ御

報告ヲ拜承致シマシタ、又只今ハ岸田議員カラノ、極メテ民營ニ付テハ、一面理路整然タル御話ヲ伺ヒマシタ、本會議ニ於ケル質疑應答、委員會ニ於キマスル質疑應答ヲ通ジテ、政府當局ノ意圖セラル、所ガ何デアリヤト云フコトモ、亦明瞭ニ諒得スルコトヲ得タノデアリマス、デアルニ拘ラズ、私共ハ是等ノ御議論ヲ伺ヒマシテモ、果シテ議院ガ政府ノ意圖ヲ認メ、之ヲ此形ニ於テ實現セントセシムルノ努力ガ、果シテ成功スルヤ否ヤニ付テハ、心中一片ノ疑念ガ拂拭シ去レナイノデアリマス、政府當局ノ御意嚮ヲ伺ヒテ見マスレバ、ソレハ斯ウデアリマス

日本ノ鉄鋼業ハ、米國ヤ獨逸ニ較ベテモ決シテ負ケルモノデハナイ、但シ今ノ狀態ハ、歐洲大戰當時ノ濫設會社モアルカラ、之ヲ整理シ、サウシテ生産費ヲ低減シテ行ケバ、行クハ鉄鐵モ二十圓見當ニハナルダラウ、サウシテ國內ノ需要ハ、幸ヒ大隈内閣ノ時ニ引イタ鉄鋼ノ需要曲線ノ通りニ、段々ト需要ガ殖エテ居ルカラ、二百七十万噸モモウ直キデアアル、イヤ三百五十万噸モ應テ來ル、ノミナラズ海外ニ對スル販路モ開ケテ來ル、安ク作レテ需要ガ多クナル、ダカラ此企業ハ算盤ガ採レル、三千万圓ノ儲ケガアルダラウ、ダカラ其基礎ニ於テ此鉄鋼業ト其所在工業都市ノ關係モ圓滿ニ行ク、又従業員ト儲主ノ關係モ旨ク行

ク、サウシテ茲ニ一ツ三億三千万圓ト云フ大會社ニ、勞資協力ノ立派ナ典型ヲ開イテ見タイ、又此會社ハ大キナ公益の事業デアリカラ、國家ノ統制力、監督ト云フモノモ一ツ加ヘテ、サウシテ民間事業ノ獨創力ニ國家ノ監督權ト云フモノヲ併セテ、一ツ茲ニ面白イ新規模ノモノヲヤッテ見タイ、是ハ出來ルモノデアアル、斯様ナコトガ政府ノ御意圖デアルト、私ハ漸クニシテ拜承ヲ致シマシタ、其限リニ於テハ洵ニ結構デアリマス、又岸田議員ノ御賛成ノ演說ノ御趣意モ、其處ニアラレルコト、私ハ信ジハ致シマス、ダガ率直ニ申上ゲマスレバ、漢文ノ古イ言葉ニ「夫レ然リ或ハ夫レ然ラン然レドモ」ト云フ言葉ガアリマスルガ、洵ニ御意圖ハ夫レ然リ或ハ夫レ然ラン、ケレドモ是ガ果シテ今ノ此御立案ノ形態デヤッテ行ケルカ行ケナイカト云フコトガ問題デゴザイマス、是ガヤッテ行ケレバ、是ハ洵ニ立派ナ御意圖デゴザイマスガ、現代ノ政治經濟ノ機構ノ下ニ於テ、此案デハ是ハ舊體色ノ天國ノ夢ト相成ラザルヲ得ナイノデアリマス

吾々ノ考ハ、最早前日ノ多クノ機會ニ於テ申述ベマシタシ、議會ノ審議ヲ極メテ嚴肅ニ致シマス意味ニ於キマシテ、最早多々縷々申述ベハ致シマセス、極メテ簡單ニ約四點バカリニ要約ヲシテ申上ゲタイノデゴザイマス、ダガ只今ノ岸田議員ノ御言葉ノ中ニ、國營論ニ付テノ誤解ガアラセラレ

ヤウニ考ヘマスカラ、ソレヲ一言ダケ先以テ附加ヘテ置キマス、實ハ國營ガ宜イカ民營ガ宜イカト云フ議論ハ、正直ニ申上ゲレバ、是ハ十年前ノ議論デアアル、今日ハモウ其「レットル」ヲ指シテ、是ハ「シトロ」ダ是ハ「サイダー」ダト云フ時代デハナイノデアリマス、問題ハ官吏ノ精神デ、サウシテ民間事業ノ自由サデヤッテ行クノニ、如何ナル形態ガ宜イカト云フノガ中心問題デアアル、此中心問題ニ今提案サレテ居ル此法律案ガ、ビッタリ來テ居ルカ居ラナイカ、問題ハソレダケデアリマス、御承知ノ通りデゴザイマスガ、國營論ニモ、昔ハ必ズ國有ヲ前提トスル國營論ガ唱ヘラレマシタ、是レ必シモ惡イト申上ゲルノデハゴザイマセヌ、委員會ニ於ケル鈴木委員ノ御質問ニモ、公債自體ニ於テ生産公債デアアルカラ、出シテモ宜イトモ思ハレルト云フ御議論モゴザイマシタ、是モ一ツノ國營論デゴザイマス、モウ一ツノ國營論ハ、今日ノヤウニ現物出資ヲサセナガラ、民間ノ金融モ吸收シナガラ、其要點ニ於テハ、一ニハ國家ガ經營權ヲ握ルト云フコト、二ニハ國家目的ニ副

ウテ事業ヲ經營セントスル人ヲ、身分ニ於テ、身上ニ於テ保障シテ居ル人ヲシテ働カシムルト云フ、此ノ二大要點ヲ備ヘルモノヲ稱シテ、吾々ノ國營原則ト謂フノデアリマス、隨テ國營トハ必シモ繁文縷禮ノ規則ゾクメデヤルトハ限ラナイノデアリマス、

ソコデ今日ノ會社ヲ民營デアルト云フノハ、是ハ會社ニ於テ經營ヲ擔當セラレル人ノ身分ノ議論デアリマス、確ニ本會社ノ株ノ半數以上ハ國家ガ持ッテ居ルノデアリマス、ダカラ抽象的ノ「レットル」ハ、是ハ會社ト云フ名前ガ「シトロ」ダト見エマスルガ、「レットル」ヲ剥イデ見レバ「サイダー」ト云フ國營ニナッテ居ル、是ハ確ニ國營デアリマス、デアリマスガ、重大ナル點ハ、是ハ經營ニ當ル當事者ノ精神ト其保障デアリマス、官吏ハ國家目的ニ副フ所ノ精神ヲ以テ、サウシテ國營事業ヲ經營スル、又其爲ニ身分上ノ保障ガアリマス、此精神ヲ持ツ爲メノ身分上ノ保障ヲ、此經營ニ當ル者ガ與ヘラレアリヤト云ヘバ、是ハ此法案ニ於テハ斷ジテナイノデアリマス、此點ガ重點ニナルト思ヒマス

ソコデ問題ハ、自ラ第一點ノ人ノ問題デゴザイマス、手前共ガ敢テ諄々シイコトヲ申上ゲル必要モナク、今日ノ大キナ資本主義企業ニ於ケル一ツノ矛盾ハ、企業ガ大キクナレバナル程、之ヲ經營シテ行ク所ノ人ノ企業能力ガ伴ハズシテ、自ラ此仕事ガ行詰ルト云フノガ、今日ノ大キナ事業ノ共通ノ缺點デアアル、企業經營ノ能力ト、事業ノ大規模ナルニ依ッテ、之ヲ國家目的ト並行セシムル所ノ社會意識ヲ有ッタ人ガナイノデアリマス、ソコデ今度出來ルモノガ出來マスレバ、此會社ハ恐クハ三億三千万圓位ノ資本ニナル

デアリマセウ、斯クナルトスレバ、之ヲ正直ニ考ヘテ、斯ウ云フ會社ノ經營ニ當テ、一方ニ於テ企業經營ノ活潑性、彈力性、獨創性ヲ有チナガラ、之ヲ國家目的ニ並行セシメテ行ケル人ガ、一體今ノ日本ニ居リマスカ、私ハ之ヲ御反問シナケレバナラヌ、日本ノ實業界ノ現情ヲ考ヘテ見マスレバ、此實業界モ段々良クハナツテ來テ居リマスカ、大體時期ヲ分ケテ見マスレバ、日本ノ實業界ノ代表的人物ハ、三ツノ段階ヲ經テ變テ來ツ、アルト考ヘルノデアリマス、直接ニ名前ヲ引キマスルノモ失禮デアリマスカ、惡イ意味デナク、代表人物トシテ引例ヲ致シマスレバ、日本實業界ニ於ケル第一期ノ典型的人物ハ、或ハ大川平三郎君、或ハ根津嘉一郎君ノヤウナ、所有ト云フコトガ事業經營ノ中心精神トナテ居ル所ノ、所有ト云フコトノ上ニ坐テ、其上ニ於テ、其外ノ他ノ範圍ノ經營權ヲ持テ事業ノ經營ヲ考ヘテ行カウト云フ人々デアリマス、即チ藤原銀次郎君等ニ表現セラル、人物ノ一團デアリマス、第三ニ、今後來ルベキ所ノ經濟界ニ實際必要ナル人物ハ、更ニ他ノ型デアリマス、例ヘバ「ユー・エス・スチール」ノ「ヂヤヂ・ゲリー」ガ、濫譯サンノ自宅ヲ訪問セラレマシタ時ノ會話ノ御話ハ、

私共ハ洵ニ興味アルコト、考ヘマス、濫譯サンガ歡迎ノ辭ニ於テ「ゲリー」トモ言フベキ人ガ、自分達ノヤウナ中産階級ノ家ニ能ク來テ吳レテ喜バシイト云フコトヲ言ハレタサウデアリマス、飛鳥山ノ邸宅ハ吾カラ見レバ中産階級デハナイ、ダガ濫譯サンハ、其精神ニ於テ中産階級トシテ事業ヲ經營シテヤツテ行クノガ、實業精神デアルト云フコトヲ力説サレル點ニ於テ、今モ尙ホ意味ガアルノデアリマス、是ガ「ゲリー」ガ「ユー・エス・スチール」ノ「カーネギー」ノ時代ヲ承ケテ、其仕事ニ新ラシイ精神ヲ注込シテ來タト云フコト、相應應シテ、一種ノ妙味ガアルノデアリマス、簡單ニ申セバ、官業ニ於ケルト同ジヤウナ精神デヤレルカト云フコトデアリマス、今日官業ニ於キマスル勞資ノ安定ト云フコトハ、一ツハ、ハッキリ申上ゲマスルガ、勞働者ノ家ハ小サイガ、長官ノ家モ大シテ大キクハナイ、民間資本家ニ於ケルガ如ク、勞働者ノ家ガ豚箱ノヤウデ、社長ノ家ハ金殿玉樓デアアル、サウ云フヤウナ比較觀念ハ、官業ニ於テハ少クトモアリ得ナイノデゴザイマス、官吏ノ如ク、極メテ謙遜ナル生活程度デ生活シナガラ、サウシテ一方、内、全日本ノ製鐵產業ヲ背負テ立ツノニ謙々抑抑シテ、而モ外、宇内ノ製鐵事業ニ通曉シテ居ル人、斯ノ如キ事業的有能者ニシテ、且ツ精神家ヲ併セタル者ヲ今日求メナケレ

バ、此會社形態ト云フモノハ成立モシナケレバ、眞ノ運用モサレナイノデアリマス、ソレデ人ガナイト吾々ガ考ヘルノガ第一點デアリマス

尙ホ一寸補足ヲ致シマスガ、デアルカラスウ云フ冒險ヲヤルヨリモ、先ヅ大體國家目的ヲ念トスル精神ヲ主トシ、官吏自體ヲシテ經營ニ當ラセツ、又一方其官業ノ束縛的規定ヲ撤廢シツ、製鐵所ヲ存續擴大シ、増産モヤリ、之ヲ盛立テ、行ツタラ、其方ガ宜カラウ、斯ウ云フコトガ言ヒ得ルト思フノデアリマス、第二ノ點ハ、下級當事者ノ問題デアリマス、私ハ斯ウ云フコトヲ申上ゲタイ、甚ダ率直デアリマスルガ、恐ラク此製鐵合同ガ出來上リマスルマデノ五箇年間ハ、マダ宜シイデアリマセウ、其後ノ五箇年モマダ宜シイデアリマセウ、ダガ其十年ノ後、否十年經過シナイ中ニハ、恐ラク今回出來上リマシタ日本製鐵株式會社ハ國營、更ニ進ンデ國有ニシロト云フノガ輿論バカリデナク、恐ラク實際政治ノ問題ニナリ得ルト私ハ確言ヲ致シマス、是ガ時代ノ「デンボ」デアアル、今日之ヲ以テ最新ノ案ト御考ニナルトモ、此形ノ如キハ時代ニ措イテ行カレルト私ハ確信ヲ致シテ居リマス、時代ノ信念カラ申シマスル此見透シガ間違ヒマシタナラバ、御目ニ掛ラナイトマデ思ウテ、申上ゲルノデアリマス、問題ハ下級當事者ノ問題デアリマス、何故サウ云フ議

論ガ起ルカト云ヘバ、是デアリマス、恐ラク今後十年ノ間ニ、今製鐵事業ヲ指導シテ居ラシヤル方ハ、此精神デ之ヲヤラウト云フ後繼者ヲ持ツコトガ出來ナイデアリマセウ、此仕組デハ政府ノ意圖セラル、所ヲ行ヒ得ル人ヲ養成シ得ナイノデアリマス、私ハ斯様ニ確信ヲ致シマス、簡單ニ申上ゲレバ斯ウデス、日本製鐵會社ニ例ヘバ商工省ノ若手有能ノ官吏ガ誰ガ入ツテ來マスカ、入ツテ來マセス、學問ヲ出テ役所ニ入リマス者ハ、ヤハリ國家目的ヲ意識シ、之ニ一生ヲ貢獻セントシテ官吏タル者デアリマス、ソレガ製鐵會社ニ入リマスカ、官吏タル身分ハ無クナル、國家行政ノ他ノ部分ニ進入シ得ル保障ガナクナル、今日マデ製鐵所ガ兎ニモ角ニモ民間ノ模範トシテ好成績ヲ擧ゲテ參ツテ居ル所以ノモノハ、商工省ノ若手官吏ノ有能ノ人ガ、製鐵所デ眞面目ニ二三年働イテ、業績ヲ擧グルコトガ出來レバ、製鐵所ニ僱ラズトモ、更ニ官吏トシテ他ニ進路ガアルト云フノガ、常ニ製鐵所ノ空氣ヲ一新シ、時代ニ適應シタ施設ヲ行ツテ、製鐵所ガ他ノ民業ニ對シテ、其典型トシテ今日マデヤツテ來タ所以デアルト私ハ言ハナケレバナラヌ、ソレガ今後製鐵所ガ會社ニナツテシマッタナラバ、商工省有能ノ若手ハ誰ガ入ルカ、誰モ入ラナイ、サウシテ製鐵會社ニ入ルノハ、甚ダ失禮ナ申分デハアリマスルガ、或ハ日本航空株式會

社、或ハ無線電信會社ノヤウニ、商工省ヤ選信省ノ古手デアリマス、本會社ハ商工省ノ姥捨山ノヤウニナルデアリマス、サウスレバ若イ者ヲ一體何處カラ入レテ行クカ、民間カラ——詰リ實業會社カラ若イ者ヲ入レテ來ルノ外ハナイ、其處カラ若イ者ヲ入レテ來ルト云フコトニナリマストドウナルカ、苟モ政治ニ志シ、或ハ官吏ヲ志シタ者ハ、國家目的ノ下ニ分ニ相當スル行動ノ場所ヲ與ヘラレ、其場所デ御奉公セントスル意圖カラ、サウナルデアリマス、然ルニ之ニ反シ、今日ノ社會通念トシテハ、實業界ニ入リマスル者ハ、其成功ノ基準又ハ目標ハ、要スルニ資産的成功デアリマス、是ハ今日ノ通念デアリマス、サウ云フ若イ者ヲ入レテ參リマスレバ、此製鐵會社ノ下部當事者ト云フモノハ、段々要スルニ自分ノ金儲ケ、算盤本位、良ク往ッテ會社ノ算盤本位ノモノニナッテ參リマス、問題ハ上ノ決裁ガ大事カ、下ノ立案實施ガ大事カト言ヘバ、ソレハ上ノ決裁モ大事デハゴザイマスガ、下ノ立案實施ガ一層大事デアリマス、ダカラ私ハ商工省ハ大事ナコトヲ御落シニナタト考ヘマス、例ヘバ陸軍省ハ私立學校ニモ軍事教官ヲ、其本官ノ儘配置ヲ致シテ居リマス、或ハ内務省デハ、内務省官吏ニシテ地方ノ自治團體ニ職ヲ奉ジタ者ニハ、恐ラク恩給年限ヲ加算サレマスル上ニ、更ニ其地方自治團體カラ退キマスレバ、又之ヲ再ビ内務省系統デ採用スルノ途ヲ拓イテ居リマス、セメテ商工省ガ有爲ナル人材ヲ官界カラモ推シ入レルコトヲ必要ト信ジ、サウシテ官吏トシテノ國家目的ヲ中心意思トスルノ行動ヲ爲サシメテ、一方ニハ會社ノ形態デ、役所式拘束ヲ離レテ潑刺タル所ヲヤラセテ行カウト云フ御意圖デアアルナラバ、此一大事ヲ御忘レニナタト云フコトハ、吾々トシテハ遺憾千萬デアルト言ハナケレバナリマセヌ、形ハ會社デモ、過半数ノ株ヲ國家ガ持チ、又官吏又ハ半官吏ノ身分ヲ有スル人ガ經營ニ當ルトセバ、私共モ之ヲ國營ト認メマス、是無クンバ監督ハアルトモ一營利會社デアリマス、而モ監督ノ様式ハ不親切デス、本會社ハチグハグナ二頭ノ馬デアリマス、斯ウ云フ風ニ考ヘテ參リマスレバ、段々段々下級ノ當事者ガ金儲ケヲシヨウ、實業界ニ於テ出世ヲシヨウト云フ考ノ者バカリガ入テ來マシテ、サウシテ本來ノ意圖ニ副フヤウナ訓練ガ出來ナイト云フコトニナッテ參リマスレバ、自ラ従業員ニ與フル思想影響ハ惡イト言ハナケレバナリマセヌ、是ハ田尻議員

モ、田島議員モ言ハレマシタヤウニ、今日ノ官業ニ貫イテ居ル精神ハ、假令賃銀ハ安クトモ「親方日ノ丸」ノ精神ガ、其能率ヲ擧ゲテ居ルト言ハナケレバナラナイ、或ハ方方ノ勞務部長ガ、或ハ方々ノ工場課長ガ「親方日ノ丸」ノ精神ヲ棄テ、段々自分モ會社モ儲ケヨウト云フ、營利追求ノ念ノ者デ充ツルト云フコトニナリマスレバ、全體ノ勞働問題ハ一體如何ニ相成リマスルカ、吾々ハ商工省ハ大事ナコトヲ御忘レニナタト思ヒマス、私ハ卒直ニ申シマス、迂ッカリ此儘ニシテ置キマスレバ、當分現當局ガ居ラレル間ハ宜イカモ知レマセヌ、ダガ必ズヤ其中ニ餘所ニ人ガ捌ケテ行カナイ結果ハ、製鐵會社ノ人心ニ萎靡沈滞ヲ來シ、下手ニ行キマスレバ、勞務部長ガ總務部長ノ地位ヲ狙ヒ、總務部長ガ長官ノ後釜ヲ狙フト云フ風ニナッテ、ソレガ内部ノ抗争ノ原因タラザルナキカラ、日本製鐵會社ノ將來ノ爲ニ憂ヘザルヲ得ナイノデアリマス

第三ノ點ハ、既ニ岸田議員カラモ申サレマシタカラ、モウ簡單ニ致シマスルガ、要スルニ此問題ハ、何モ今買収ニ依ル國營合同ヲスル必要ハナイト云フ仰セデアリマス、私モ今何モ買収シタ方ガ宜イトハ申シマセヌ、併シ何分ニモ此法案ニ依レバ會社

ノ儲ケガ三千万圓デアリマス、故ニ之ヲ此儘ニシ、特別會計ヲ突張ッテ置イテ、三千八百万圓ノ公債又ハ融資ヲ付ケル、サウシテ製鐵所ガ段々増産ヲヤッテ行ケバ宜イノデアリマス、一般會計ノ中ニ其益金ヲ入レルコトハ、是ハ良イ惡イト云フコトハ議論ガゴザイマシタガ、是ハ入レテモ宜イ、國家ノ財政ガ今日甚ダ窮乏ノ際、是ハ入レテモ宜イ、現ニ其三千万圓ノ少クトモ三分ノ二ハ、政府持株ニ配當サレルコトニナッテ居ルデアリマセヌカ、サウシテ其三分ノ一ハ、即チ一千万圓ハ、此法案ニ依リマスレバ、三井、三菱、一般株主ニ捧ゲルコトニ相成ルノデアリマス、之ヲ率直ニ申シマスレバ、金融資本家ニ對シテ、今マデ儲カラナカッテ製鐵業ニ、製鐵所ト云フ「プラス」ノ財産ヲ提供シテ、儲口ヲ與ヘテヤルト云フコトニ相成ルノデアリマス、ソナコトヲ爲サルヨリモ、一番簡單ナ方法ハ、中島商工大臣モ此間マデヤッテ居ラレマシタ産業合理局ノ力ヲ強クシ、今日ノ會社ニ於テオヤリニナラウト爲サイマスル監督權ノ力ヲ強クシ、サウシテ現存スル會社ヲ、今オヤリニナラウトスル位ノ評價ニ切下ヲ爲サリ、斯クテ其會社ガ生キテ來マスレバ「カルテル」ノ生産分野ノ統制モ出來テ參リマス、

サスレバ、ソコデ政府が御世話ヲ御焼キニ  
ナッテ、預金部ノ金ナリ興銀ノ金ヲ釜石ニ  
モ貸スシ、或ハ兼ニ浦ニモ貸スコト、シマス  
レバ、政府ノ統制ガ自ラ出來テ來ル、サウシ  
テ商工大臣ガ能ク御使ヒニナリマスル、所謂  
時ノ妙用ニ依リマシテ、漸次堅實ナル國家  
本位ノ眞ノ合同ガ出來上リ得ルト私ハ考ヘ  
ルノデアリマス、岸田君ノ自力整理ヲ助ク  
ルノ道ハ、必シモ會社の合同ニ限ラヌノデ  
アリマス、此方法ハ執リ得ルノデアリマス、  
必シモ私ハ今直グニ買收シロト言フノデハ  
ナイ、併シ又買收論ニモ無論理論ハアルト  
思ヒマス、現在ノ斯ウ云フ巨額ノ不生産公  
債ノ中ニ一ツノ生産公債ガアル、而モソレ  
ガ三千万圓儲カル公債デアルト云フコトハ、  
決シテ日本公債ノ價值ニ對シテ惡イ影響ハ  
ナイト考ヘマス

第四點ハ、簡單ニ申シマスレバ、御承知  
ノ通り是ハ銑鋼ニ於キマシテ、所謂生産系  
統ノ合理化ヲ遂行シ、銑鋼一貫作業ヲ行ヒ、  
單種多産ヲ爲シ、サウシテ銑鐵工業部門ノ  
八割ヲ占ムル獨占シテハ、是デ完成ヲス  
ルノデアリマス、ダガ是ダケデハ駄目デア  
ル、是ハ委員會ニ於テ風見代議士、或ハ岸  
代議士カラ度々ノ御質問ガアッタ所デアリ  
マスルガ、ドウシテモ之ヲ完成ショウト致

シマスレバ、他ノ部門ノ統制ヲ前提又ハ條  
件ト致シマス、戰爭ノ時バカリヲ考ヘズ、  
平時ニ於テモ矢張原料タル鑛石、原鑛石ヲ  
廉價ニ確保セント致シマスルナラバ、鑛山  
投資統制ヲ必要ト致シマス、例ヘバ南洋ノ  
「ロンピン」デアルトカ「ケママン」トカ、或  
ハ「ヅングン」デアルトカ「バトバハ」「ジュ  
ライ」ト言、タヤウナ、此方ノ方面ニ矢張投  
資ヲシナケレバナラヌ、投資ヲシテ日本ノ  
船ニ積ンデ來ナケレバ駄目デアアル、何故カ  
ト言ヘバ、サウ致シマセネバ、原鑛石値段  
ノ爲替關係ニアル變動ガ大トナリマス、斯  
ク致シマスレバ、原鑛石ノ値段ガ爲替ガ影  
響致シマスル幅ハ、南洋ニ於ケル勞銀ダ  
ケニ限ラレルノデアリマス、ダカラ原鑛  
政策ヲ永遠ニ確定セント致シマスルナラ  
バ——例ヘバ吾々ノ傳承スル所ニ依リマスレ  
バ、單ニ馬來半島バカリデハナイ「サラワ  
ク」ニシテモ「ボルネオ」ニシテモ「パーセン  
テーヂ」ノ高イ鑛石ガアル由デアリマス、是  
等ニ於ケル原鑛投資政策ノ確立ガ、第一ノ  
條件デアリマス、第二ハ所謂石炭ノ統制デ  
アリマス、是ハ委員會デモ問題ニナリマシ  
テ、多クノ代議士ガ熱心ニ御討論ニナリマ  
シタ通り、或ハ撫順、或ハ本溪湖、或ハ筑  
豊、或ハ北海道ト云フ風ニ、大體鐵ト石炭

トノ關係ヲ並行シテ、統制ヲヤツテ行カネ  
バナラナイ、サウシテ第三ハ、更ニ出來上  
リマシタ安イ銑鐵、或ハ半作品ヲ用フル所  
ノ精密機械工業ノ統制デアリマス、第四ハ、  
銑鋼一貫作業カラ出ル所ノ、或ハ銑鐵生産  
カラ出ル所ノ化學工業、化學工業ノ統制ヲ  
ヤラナケレバ何等意味ヲ成サナイノデアリ  
マス、所ガ此原鑛投資統制及石炭統制、化  
學工業統制、精密機械工業統制ハ、是ハ現  
下ノ經濟問題ノ重大問題デアリマス、之ヲ  
ドウデアリマスカ、正直ナ所、現内閣ハ果  
シテ是等ヲヤツテ行ケルデアリマセウカ、現  
内閣ガ是等ヲオヤリニナル見込ハ、私ハ持  
テ居ラスノデアリマス、サウスレバ現内閣  
ノ中デ、タツタ一ツ先ニ者共續ケト言、テ飛  
出シタ政策ガ、日本製鐵株式會社法案デア  
リマス、他ノ者ハ續カヌノデアリマス、隨  
テ本案ハ其意圖ハ兎モ角モ、事實ハ反對勢  
力ノ爲ニ直チニ討死スルコトハ明デアリマ  
ス、外ノ方ノ統制ト一緒ニ參ラナケレバナ  
リマセヌ、簡單ニ申シマスレバ、此法案ハ  
現内閣ト致シマシテハ——失禮ナ申分デハ  
ゴザイマスガ、萬ガ鷹ヲ生ンダヤウナ氣持  
ガスル、此鷹ハ餘程強ク致シテ置カスト、  
他ノ兄弟ガ皆鷹デアリマスルカラ、孤軍奮  
闘シテモ驚ノ爲ニ喰ベラレテシマヒマス、全

體ノ計畫經濟ニ於テ跛デアリマス、其中デ本  
會社ダケガ計畫經濟ノ統制力ノ先頭ニ出ル  
トスルナラバ、全體ノ他ノ部門ノ鷹テ來ル  
ベキ統制ト共ニ、國家權力ニ依ル監督權ヲ  
モツト強クシテ置カナケバレナラスノデア  
リマス

モウ一ツ程附加ヘマスガ、今日歐洲大戰  
爭後ノ政府ノ監督權ト云フモノハ、命令、  
解任、取消、或ハ認可ト云フ消極的監督權  
バカリデハナク、積極的監督權ト云フモノ  
ヲモ認メテ居ルコトハ、商工大臣御承知ノ  
通りデアリマス、指導的管理權ヲ認メテ居  
ルコトハ御承知ノ通りデアアル、サレバコソ  
私ハ監督委員會ヲ唱ヘ、小池君ハ國家管理  
委員會ヲ唱ヘラレマシタ、今日官業ニ於テ  
スラ、消極的監督權ヲ行フ監督官廳ト、積  
極的監督權ヲ行フ管理官廳トノ、別ヲ設ク  
可シト云フ議論ガアリマス、從業員ノ下カ  
ラ上ヘノ監督乃至管理ヲ留保シツ、モ、是  
デハ足りナイト私ハ思フノガ第四點デアリ  
マス、斯ウ云フ風ニ全體ノ統制ガ出來ズ、  
先ニ出來ルモノガ、國家權力ノ監督ガ弱ク  
或ハ親切デナイトスレバ、外ノ産業部門ニ  
景氣ガズツト出テ來テ、鐵鋼ノ需要ガドン  
ドン出テ來レバ、自ラ不必要ナル生産設備  
ノ擴大及商品ノ過剰生産ヲヤルノハ決、テ



居ル、サウシテ又ソレガ不景氣ニナリ、需要ガ急ニ減退スルコトニナレバ、是ハドウシテモ心其處ニ在ラズトモ、非常ナル従業員ノ減給ヲ行ハナケレバナラヌコトニ相成ル、斯ウ云フ點ニ於テ、吾々ハ商工大臣ガ本當ニ誠意ヲ有テ居ラレコトハ、少クトモ信賴致シマスルガ、百ノ御約束ヲ爲サラウトモ、千ノ御約束ヲ爲サラウトモ、全體ノ統制ガ旨ク行カズ、之ヲ先ニ出シテ「者共續ク」ト言ハレテ先陣ヲ切ラレタ所デ、此統制ガ、上、國家權力ガ弱ク且ツ不親切デ、下、事ニ當ル者ガ國家目的ニ副、タ統制意思カラ逸脱シ得ルナラバ大變デス、事業界ハ今後決シテ舊薇色ノ道バカリデハゴザイマセヌ、殊ニ評價ニ於キマシテ、複成價值ニ取ラレマシタ物價標準ハ、昨年ノ十月ノモノデアリ、或ハ稼高價值ニ於テ取ラレマシタノハ、昨年ノ十月ヲ基準トスル前六箇月ノ期間デアル、此間ハ相當鐵ノ需要ノ増サントシタ時代デアリマス、寧ロ吾々ガ取テ戴キタイノハ、過去五六年間ニ於ケル所ノ需要ノ最モ引込シダ、最モ不景氣ノ時代ノ底ヲ取テ戴キタイ、二百七十萬圓需要標準ノモノデアッテハナリマセヌ、更ニ不景氣ノ時代ノ稼高ト、其時代ノ物價ニ依ル複成價值ヲ御考ニナラナケレ

ベナラヌトマデ、吾々ハ考ヘテ居ル位デアリマス、今後ノ鐵鋼業ノ將來ノ展望ハ、商工大臣ノ御考ニナル程、決シテ舊薇色ノ道許リデハナイノデアリマス、千九百三十五年ニ鐵鋼業ニ景氣ガ出ルト云フコトハ、或ハ亞米利加ノ鐵鋼業者モ言テ居ル所デアリマセウガ、私ハ斯ノ如キ一路向上ノ單純ナ道デハナイト思フ、波ガゴザイマス、波ヲ越エテ、一方従業員ヲ預リ、一方國家産業ノ目的ヲ達シテ參リマスルノニハ、是デハドウシテモ不足デアリ、懸念ニ堪ヘヌト信ズルノデアリマス、私共ノ反對ハ遺憾ナガラ恐ラク破レルデアリマセウ、破レルデハアリマセウガ、私共ノ微意ハ、恐ラク本案ニ御賛成ニナル御方ニモ、其或點ニ於キマシテハ、御諒解ヲシテ戴ケル點ガアルト私共ハ考ヘテ居リマス、吾々ハ之ニ反對ハ致シマス、是ハ破レルデアリマセウ、ケレドモ私ノ拙キ表現ヲ致シマシタル反對ノ要旨ヲ、モット更ニ巧ニ此處ニ居ラレマスル各代議士ノ腹ニ織込マレテ居ルト信ジマス、國家産業統制ノ重要目的、従業員ノ待遇條件ノ福利施設ノ向上、及將來従業員ト事業主ガ對立セズシテ、眞ニ國家産業ニ協力ヲシテ行クト云フ仕組ノ實現、工場ト工業都市ノ圓滿ナル關係、本法案

ニ依ッテ商工大臣ハ是等ヲ實現シ居ルト言ッテ居ラレマス、其事ノ上ニ於テ、若シモ一步ヲ御誤リニナリマスルナラバ、是ハ重大ナル事態ヲ招致スルコトヲ御警告申上ゲナケレバナリマセヌ、願クハ、吾々ノ反對論ハ少數デ破レルデアリマセウ、デモアリマセウガ、反對ノ要旨ノ廉々ハ、此中デ賛成ヲ爲サル方々モ腹ノ中デハ一應ハ、アノ點此點ハ懸念デアッテ、吾々モ突張リタイト御考ニナッテ居ルト思フ、其廉々ハ商工大臣モ委員會ニ御出席デ、十分御諒解デ居ラシヤイマスルカラ、其點ニ付テハ少クトモ次善三善ノ御考慮ヲ以チマシテ、此案ニ善處ヲ期セラレナケレバ、將來重大ナル事ニナルコトヲ、吾々ハ重ねテ御警告致シマス

要スルニ民間出資ヲ含ミ、民間資金ヲ吸收シナガラ、官業形態ノ下ニ官業人ヲ以テ運用シツ、官規ノ拘束ヲ離レタ自由ナル經營形態ヲ考フルコト可能ナルノミナラズ、其方法ヲ以テスルヲ可トスルト云フノガ要旨デアリマス、他ニモ申上ゲタイコトガアリマスガ、以上四點ノ要旨ヲ以テ、本案ハ其意圖ハ兎モ角モ、現代政治經濟機構ノ下ニ於テ、此方法論ヲ以テ實現シ得ズト爲シ、反對論ニ代ヘタイト考ヘルノデアリマス

○議長(秋田清彦) 櫻井兵五郎君

○櫻井兵五郎君登壇

(櫻井兵五郎君登壇)

○櫻井兵五郎君 諸君、私ハ數箇ノ希望條項ト、二箇ノ附帶決議ニ同意ヲ致シマシテ、本案ニ賛成ノ意ヲ表スル者デアリマス、先刻來本案ニ反對ヲ致サレマスル所ノ、小池君竝ニ龜井君ノ御説ヲ謹ンデ拜聽致シマシタ、併ナガラ私ハ其御趣旨ヲ伺ヒマスルト、大體政府ノ企圖致シマスル所ノ趣旨ニ付キマシテハ、御兩君共ニ之ヲ諒トセラレ、御賛成ノヤウデアリマス、小池君ガ政府ノ意圖ハ之ヲ諒トスル、龜井君モ其様デアリマシタ、龜井君ノ御説ノ中ニハ、或ハ官營存續論デアアルカト疑ハル、點モアリ、總テヲ合併シテ國營デアル方ガ宜イカト云フ御趣旨ノ議論モアッタイウデアリマスルケレドモ、亦最後ニ至ッテ此案ガ成立シタ場合ニ善處セヨト云フ、政府ニ對シテ親切ナル御注意マデアッタ位デアリマス、ソコデ私ハ兩君ノ御意思ニ依リマスルト云フト、我が製鐵業ノ現狀ニハ確ニ不滿ヲ懷イテ居ラレル、ソレデアアルノニ之ニ反對ヲセラレルト云フコトハ、或ル期間ダケノコトカハ知りマセヌケレドモ、現狀ヲ肯定セラレル所ノ矛盾モアリマス、デアリマスルカラ、是ハ寧ロ修正ヲ可トセラル、問題デナイカト思ッタ、

反對ニ非ズシテ修正セラレル方ガ適當デア  
ル、斯様ニ考ヘマシタ次第デアリマスルガ  
故ニ、尊敬ヲ致シマスル御兩君ノ折角ノ御  
議論デアリマスルケレドモ、私共ガ本案  
ニ贊成ヲ致ス所ノ理由ヲ、自ら訂正スル所  
ノ理由トハナラナカッタデアリマス、故ニ  
私ハ是ヨリ進ンデ、少シク私ガ本案ヲ支持  
致シマスル所ノ理由ヲ、明ニシタイと思フ  
ノデアリマス

私共ハ本案ニ對シマシテ、最モ大切ナリ  
トシテノ狙ヒ所ハ、原價ノ低減ヲ圖ルト云  
フ一事ガ一點、今一點ハ、如何ナル場合ニ  
モ潤澤ナル量ノ供給ヲ確保スル所ノ途ヲ講  
ズル、是ガ二點デアルノデアリマス、鐵鋼  
ノ問題ハ非常ニ大切デアテ、是ガ或ハ文化  
ノ基ヲ成シテ居ルトカ、産業ノ基本デア  
ト云フヤウナ議論ハ、私ハ此場合致シマセ  
スケレドモ、サウ云フ譬ハ此處ニ省キマス  
見マシテ、之ヲ整理ヲ致シテ、今一般國際  
經濟ニ向ッテ飛躍ヲ遂ゲシムルト云フ途ハ、  
ドウシテモ鐵鋼ノ問題ヲ前提問題トシテ解  
決ヲシナケレバナラスト云フ信念ニ、私共  
ハ到達ヲ致スノデアリマス、然ラバソレハ  
ドウシテ解決ヲスルカト云ヘバ、唯一點、  
前申上ダタ如何ニシテ此原價ヲ下ゲ得ルカ

ト云フ方策問題ガ、其焦點トナルノデアリ  
マス、ソコデ政府ノ此度ノ案ヲ見マスルト  
云フト、本業ノ特質デアリマスル所ノ系統  
的ノ大經營組織、或ハ完全ナル統制ト云フコ  
トヲ企圖スルガ爲ニ、既設ノ本事業ヲ殆ド  
全部合同スルト云フコトガ、其目的ノ一ツ  
トナッテ居リマス、合同ノ目標ハ鉄鐵ノ全  
部、鋼材ハ約八割ニナッテ居リマス、アトノ二  
割ハドウシテ殘サレルカト申シマスルト、是  
ハ他ノ事業ニ附著ラシテ取去ルコトガ出來ナ  
イ狀態ニ在ル、サウシマスレバ製鐵工業ニ對  
スル所ノ既存設備ノ能力ヲ全部、之ヲ合同ス  
ルト云フコトヲ政府ガ目的トシテ居ラレル、  
是ハ私共非常ニ結構ナコト、思フテ贊成ス  
ル理由ノ一ツデアリマス、ソレカラ其次ニ  
ハ、合理化ノ徹底ヲ圖ルコトヲ目的トシテ  
居ルコトハ、當然ノコトデアルト思フノデ  
アリマス、ソレカラ資本ノ整理ヲスルト云  
フヤウナコトデ、先ヅ從來ノ整理ヲ完全ニ  
遂ゲヨウト云フコトモ、其目的ニナッテ居  
ルノデアリマス、是等ノ點ハ既ニ私ガ前ニ  
申上ゲタ、原價ノ低減ヲ致シマスルニ付テ  
必要ナ條件デアアル、其必要條件ヲ政府ガ皆  
數ヘ舉ゲテ居ラレル、斯様ニ信ジテ本案ニ  
贊成ヲ致スノデアリマス、併ナガラ此案ニ  
付テ率直ニ其缺點トモ稱スベキコトヲ申セ

バ、此案ニハ具體的ノ計畫内容ガ伴ッテ居  
ラナイ、是ガ吾々ニ不安ヲ與フル所ノ一事  
デアアルノデアリマス、ソコデ私共ハ附帶決  
議ニ同意ヲシタリ、或ハ希望條項ヲ述べザ  
ルヲ得ナイト云フコトニナルノデアリマス  
以下私ガ其希望條項ヲ述べルコトニ依リマ  
シテ、一層私共ノ主張ガ明ニナルコトと思  
フノデアリマス、希望條項ノ文章ハ委員長  
カラ御讀ミニナリマシタカラ、文章ヲ讀ム  
コトハ私ハ茲ニ略シマスルガ、先ヅ其第一  
項ノ意味ハ、政府ガ此合併豫定會社ノ併合  
ヲ實現スルコトヲ要ス、是ガ希望條項ノ第  
一項デアリマス、何故斯様ニ申シマスカト  
言ヒマス、政府ノ御説明ニ依ッテ伺ヒマ  
スルト云フト、本案ガ成立ヲ致セバ、鉄鐵五  
社ハ是ハ直チニ合併出來ル見込ガアルト、  
斯ウ仰セラレル、私共モ左様ニ信ジマス、  
所ガ殘リノ鉄鐵一社竝ニ鋼材ノ八割ハ五箇  
年ノ間ニ何トカナラウ、是ハナルカモ知レ  
マセスケレドモ、此點ガドウモ私共ハ不安  
ヲ懷カザルヲ得ヌ點デアリマス、是ガ若シ  
合併ガ出來ナケレバ、此案ノ筋書ノ大切ナ  
ル點ガ、一ツ崩レテシマウノデアリマス、  
原價ノ低減ノ目的ガ損ハレテシマウノデア  
リマス、ソレ故ニ私共ハ之ヲ強要スルノデ  
アリマス、斯ウ云フ國家ノ大目的ヲ達スル

ノニハ、政府ハ餘程強イ腹ヲ御持チニナル  
必要ガアルと思フ、現ニ國有鐵道ノ例ニ見  
テモ明デアリマス、國家ガ其目的ヲ達スル  
爲ニハ、民間ニ許シタ特許年限ニ達シナイ  
中ニデモ、鐵道國有ガ行ハレタデアリマ  
セヌカ、遠慮ヲ爲サル必要ハナイ、是非必要  
ダと思フタラ、敢然トシテオヤリニナル方ガ、寧  
ロ事端ヲ繁クシナイ所ノ利益ガアルト私ハ考  
ヘル位デアリマス、ソレ故ニ此點ハドウシテ  
モ政府ガ是非目標ノ合同ヲ實現シテ見セル  
ト云フ、強イ腹ヲ以テ進メラタイ、此事ヲ吾  
吾ハ希望ノ一項トシテ申述べザルヲ得ナイ  
第二ノ希望條項ハ、創立ニ當ッテ設備改  
廢ノ計畫ヲ立テ、サウシテ合理化ノ徹底  
ヲ期セラレタイ、是モ矢張原價ヲ低減スル  
技術方面ヨリスル唯一ノ方法デアルト私共  
ハ考ヘル、此點ニ關シ若シ政府ガ之ニ對ス  
ル事業計畫書ナリ、設備改廢ニ關スル具體  
的計畫案ヲ出サレテ居ラレルナラバ、私共  
ハ斯様ナコトヲ申上ゲル必要ガナイ、然ル  
ニ政府ハ單ニ合理化ノ徹底ヲ圖ルト云フ御  
説明ヲ爲サッテ居ルダデアリマス、私共ハ  
是ガ合同致シマシテモ、相當ナ何千万或ハ  
一億圓位ヲ要スルカモ知レマセヌガ、ソレ  
程ノ設備ノ改廢ヲ行ハナケレバ、ドウシテ  
モ製鐵事業ノ現狀ヲ根本的ニ改革シテ、サ

ウシテ原價ノ低減ヲ齎ラスト云フコトハ出  
來ナイト、斯ウ深ク考フルノデアリマス、

現ニ當局ノ御説明ノ中ニモ、三百廬爐ト五  
百廬爐ノ能率ハ是々デアル、原價ニ是ダケ  
ノ影響ガアルト斯ウ申シテ居ラレル、嘗テ  
ノ合同計畫ノ中ニハ、合同ガ出來レバ直  
チニ進ンデ七百廬爐ヲ造ルト云フ計畫  
ガアツカモ知レヌト思フノデアリマ  
スガ、何レニシマシテモ思切ツタ設備ノ  
改廢計畫ヲ立テナケレバナラヌト思フノデ  
アリマス、此點ガ民間會社ナドガヤツテ居  
リマスルト、出來惡イ點デアリマス、幸ニ  
シテ官民合同ノ特殊ノ會社ヲ作ツテ、資金  
ノ心配ガナイノデアリマスカラ、此場合ニ  
於ケル問題ハ單ニ金利ノ問題ト——使ヘバ  
尙且ツ是ハ使用出來ルケレドモ、此能率ノ  
モノヲ使フヨリハ之ヲ捨テ、サウシテ新  
ニ資金ヲ要シテモ、金利トノ見合ヒガドウ  
ナルカト云フコトノ判斷ヲ致セバ、茲ニ進  
ンデ此改廢ヲスルコトガ宜イト云フ判斷ハ  
直チニ付クト思フ、又斯クスルコトニ依ッテ  
ノミ國家ノ目的ヲ充シ、吾々國民生活ノ改  
善ヲスル途ガ開ケテ來ルト思フ、此點ガ要  
點デアアルニ拘ラズ、尤モ政府ニハ其腹案ガ  
アルカモ知レマセヌ、知レマセヌケレドモ、  
私共ガ具體的ニ之ヲ知り得ナカッタト云フ

コトヲ遺憾ニ考ヘマシテ、特ニ之ヲ希望條  
項ノ一項トシテ加ヘタ次第デアリマス

努力ヲ要スル、私ハ本案説明ノ劈頭ニ於  
テ、商工大臣ガ此不自然ナル價格ヲ正當ニ  
引返スコトガ目的ダト言ツテ貰ヒタカッタノ  
デアリマス、私共ハ原價ノ引下ガ行ハレテ  
開稅ガ撤廢セラレ、安イ鐵鋼ガ供給セラレ、  
量ニ於テ國防ヲ確保スルノミナラズ、産業  
ノ基礎ガ固メラレ、國民生活ニ潤ヒヲ與ヘ  
ルコトノ出來ナイヤウナモノデアラナラ  
バ、此合同案ハ形式的ナモノトシテ、吾々  
ハ何等ノ價值ガナイモノデアルト考ヘル、  
デアリマスカラ此點ハ、政府ノ御説明ハ實  
ハ大膽ナル御言明デハナイ、將來サウナツテ  
行ケバ關稅ハ減廢セラルベキモノデアルト  
云フ原則ヲ、御示シニナツテ居ルダケデア  
ル、是デハ不満足デアアル、ドウカハハ一ツ  
本當ノ目標トシテ掲ゲテ、銳意御努力ヲ願  
ヒタイ、是ガ私共ノ希望ヲ申上ゲル第三ノ  
理由デアリマス

第三項ハ、合同會社ガ出來タ後ニ、成ベ  
ク速ニ鐵鋼關稅ノ減廢ヲ斷行セラレタイト  
云フコトデアアル、是ハ洵ニ當然ナコトデア  
リマス、現在ノ我が産業ノ根幹ヲ成ス所ノ  
鐵鋼——國民生活ノ根柢ヲ培フテ居ル所ノ  
鐵鋼ガ、現在ノ價格ハ抑、如何ナル性質ノ  
モノデアリマセウカ、是ハ製鐵業自體ノ業  
務カラ生レテ來テ居ル所ノ正當ノ價格デハ  
ナイ、是ニハ關稅ガ加ッテ居ル、國稅、地方  
稅ノ免除ガ加ッテ居ル、製鐵事業材料ノ輸入  
ノ免稅ガ行ハレテ居ル、製鐵獎勵金ガ加ッテ  
居ル、斯ノ如クシテ繼ギ足シヲシテ此價格  
ヲ引上ゲテ居ルノデアアル、是ハ全ク幽靈ノ  
如キ價格——國家ノ犧牲ト、消費者ノ負擔  
ニ依リマスル所ノ幽靈的ノ價格デアアル、商  
工大臣ハ輸出ニマデ進ムト言ハレマシタ  
ガ、私モソレハ結構ナ御考デアルト思フ、  
遠キ將來ノコトヲ考ヘテ見マシレバ、我國  
ハ一大製鐵國トシテ起ル所ノ要素ヲ持ッテ  
居ルト考ヘマス、考ヘマスケレドモ、現在  
ノ價格ガ斯ノ如ク數ヘ來レバ、七重ノ保護  
ヲ以テ成立ッテ居ル、七本ノ支柱ニ支ヘラレ  
テ居ル、此價格ヲ目ノ前ニ置イテ、商工大  
臣ノ理想ヲ實現スルト云フコトハ、餘程ノ

努力ヲ要スル、私ハ本案説明ノ劈頭ニ於  
テ、商工大臣ガ此不自然ナル價格ヲ正當ニ  
引返スコトガ目的ダト言ツテ貰ヒタカッタノ  
デアリマス、私共ハ原價ノ引下ガ行ハレテ  
開稅ガ撤廢セラレ、安イ鐵鋼ガ供給セラレ、  
量ニ於テ國防ヲ確保スルノミナラズ、産業  
ノ基礎ガ固メラレ、國民生活ニ潤ヒヲ與ヘ  
ルコトノ出來ナイヤウナモノデアラナラ  
バ、此合同案ハ形式的ナモノトシテ、吾々  
ハ何等ノ價值ガナイモノデアルト考ヘル、  
デアリマスカラ此點ハ、政府ノ御説明ハ實  
ハ大膽ナル御言明デハナイ、將來サウナツテ  
行ケバ關稅ハ減廢セラルベキモノデアルト  
云フ原則ヲ、御示シニナツテ居ルダケデア  
ル、是デハ不満足デアアル、ドウカハハ一ツ  
本當ノ目標トシテ掲ゲテ、銳意御努力ヲ願  
ヒタイ、是ガ私共ノ希望ヲ申上ゲル第三ノ  
理由デアリマス

第四ハ、滿洲國ニ於ケル邦人經營若クハ  
支那人トノ共同出資ニ依ル所ノ製鐵業ト、  
今回ノ合同計畫ト一ツニセラレナカッタ  
點デアアル、是ハ私ハ實ニドウ云フ理由ニ基  
クノデアアルカ理解出來ナクテ、商工大臣ニモ  
御尋ヲ致シ、陸海軍大臣ニモ御尋ヲ致シマシ  
タガ、ドウモ要領ヲ得ナイノデアリマス、  
其理由トシテ説明セラレル所ハ、何ンダカ細

カイ小サナ問題デ、殆ド私ハ理由ニナラナ  
イ、理由ノ解釋ニ苦シムノデアリマスガ、  
是ハ今ノ場合仕方ガアリマセヌ、仕方ガア  
リマセヌケレドモ、此事業ノ性質ニ鑑ミテ  
完全ナル統制ヲ期セラレ、將來色々ナル面  
倒ナ禍根ヲ絶ツト云フ考カラ致シマシタナ  
ラバ、政府ハ進ンデ更ニ——適當ノ方策ヲ  
講ジ、是モ合同ノ中ニ加ヘルト云フ方針ヲ  
執ラレルコトガ必要デアルト考ヘマスルガ  
故ニ、茲ニ希望ノ第四項トシテ之ヲ掲ゲマ  
シタ次第デアリマス

次ニ希望條項ノ第五項デアリマス、是ハ  
從來ハ地方稅モ共ニ免除シテ居リマシタ  
ガ、斯ノ如キ場合デアアルカラ製鐵業獎勵法  
ヲ改正シテ、地方稅ダケハ取り得ル途ヲ開  
イタラ宜カラウ、斯ウ云フ希望デアアル、國  
ガ製鐵業ヲ保護シヨウト思ッタラ、他ニ方法  
ガアルト思フ、地方公共團體ハ此事業ガア  
ルガ爲ニ、交通ニ、衛生ニ、其他幾多ノ義  
務的ノ負擔ヲ爲サナケレバナラヌ、ソレヲ  
國家全般ノ目的ノ保護ノ爲ニ、一地方ニ義  
務的ノ施設ヲシナケレバナラヌノニ對シ  
テ、其途ヲ補フ所ノ稅金ヲ取ルコトガ出來  
ナイト云フヤウナ方法ニシテ置クコトハ、  
是ハ從來ト雖モ間違デハナカッタカト思フ、  
デアリマスカラ此點ハ政府ガ留意シテ改正

次ニ希望條項ノ第五項デアリマス、是ハ  
從來ハ地方稅モ共ニ免除シテ居リマシタ  
ガ、斯ノ如キ場合デアアルカラ製鐵業獎勵法  
ヲ改正シテ、地方稅ダケハ取り得ル途ヲ開  
イタラ宜カラウ、斯ウ云フ希望デアアル、國  
ガ製鐵業ヲ保護シヨウト思ッタラ、他ニ方法  
ガアルト思フ、地方公共團體ハ此事業ガア  
ルガ爲ニ、交通ニ、衛生ニ、其他幾多ノ義  
務的ノ負擔ヲ爲サナケレバナラヌ、ソレヲ  
國家全般ノ目的ノ保護ノ爲ニ、一地方ニ義  
務的ノ施設ヲシナケレバナラヌノニ對シ  
テ、其途ヲ補フ所ノ稅金ヲ取ルコトガ出來  
ナイト云フヤウナ方法ニシテ置クコトハ、  
是ハ從來ト雖モ間違デハナカッタカト思フ、  
デアリマスカラ此點ハ政府ガ留意シテ改正

次ニ希望條項ノ第五項デアリマス、是ハ  
從來ハ地方稅モ共ニ免除シテ居リマシタ  
ガ、斯ノ如キ場合デアアルカラ製鐵業獎勵法  
ヲ改正シテ、地方稅ダケハ取り得ル途ヲ開  
イタラ宜カラウ、斯ウ云フ希望デアアル、國  
ガ製鐵業ヲ保護シヨウト思ッタラ、他ニ方法  
ガアルト思フ、地方公共團體ハ此事業ガア  
ルガ爲ニ、交通ニ、衛生ニ、其他幾多ノ義  
務的ノ負擔ヲ爲サナケレバナラヌ、ソレヲ  
國家全般ノ目的ノ保護ノ爲ニ、一地方ニ義  
務的ノ施設ヲシナケレバナラヌノニ對シ  
テ、其途ヲ補フ所ノ稅金ヲ取ルコトガ出來  
ナイト云フヤウナ方法ニシテ置クコトハ、  
是ハ從來ト雖モ間違デハナカッタカト思フ、  
デアリマスカラ此點ハ政府ガ留意シテ改正

次ニ希望條項ノ第五項デアリマス、是ハ  
從來ハ地方稅モ共ニ免除シテ居リマシタ  
ガ、斯ノ如キ場合デアアルカラ製鐵業獎勵法  
ヲ改正シテ、地方稅ダケハ取り得ル途ヲ開  
イタラ宜カラウ、斯ウ云フ希望デアアル、國  
ガ製鐵業ヲ保護シヨウト思ッタラ、他ニ方法  
ガアルト思フ、地方公共團體ハ此事業ガア  
ルガ爲ニ、交通ニ、衛生ニ、其他幾多ノ義  
務的ノ負擔ヲ爲サナケレバナラヌ、ソレヲ  
國家全般ノ目的ノ保護ノ爲ニ、一地方ニ義  
務的ノ施設ヲシナケレバナラヌノニ對シ  
テ、其途ヲ補フ所ノ稅金ヲ取ルコトガ出來  
ナイト云フヤウナ方法ニシテ置クコトハ、  
是ハ從來ト雖モ間違デハナカッタカト思フ、  
デアリマスカラ此點ハ政府ガ留意シテ改正

ヲセラレタイト云フノガ、希望ノ第五項デアリマス

ソレカラ二箇ノ附帶決議、是ハ政友會ト全ク同様ノ考デアリマシテ、私共ハ委員會ニ於テ政友會ノ鈴木君ノ御提議ニ賛成ヲ致シタノデアリマス、其一ツハ、先程モ岸田君カラ述べラレマシタ通り、評價ノ問題デアル、此評價ヲ過大ニ見積ラタナラバ、是ハ會社ノ永久ノ痛デアル、併シ是ハ何レカト申シマスレバ、過大ニ見積ラレル恐れガ十分ニアル、故ニ過大ニ見積ラレルコトノナイヤウニ、吾々ハ十分ノ警戒ヲ拂ハナケレバナラヌ問題デアルト思フノデアリマスガ、

政府ノ示サレタ參考案ニ依リマス、製鐵所ナドハ現在ノ帳簿價格以上ニ評價ヲセラレヨウト云フ御意思ノヤウデナイカト私ハ考ヘル、サウ云フ必要ガアリマセウカ、國ガ總テノ産業ノ基礎ヲ爲ス、國民生活ノ基礎ヲ爲ス此問題ヲ解決スルニ當テ、之ヲ一ツノ單ナル政府ノ收入目的ノ營利事業カノ如キ見解ノ下ニ、今會社ヲ作ルノダカラ、之ニ利益ヲ出シテ評價ニ加ヘタイト云フヤウナ考ナ考ヲ有ツ必要ガ何處ニアルノデアリマス、唯民間會社トノ比例ノ場合ニ於テ、之ヲ不公平ニ見積ラテハ困ルガ、併シ民間會社ヲ是レ以上ニ安ク見積ルコトガ出來

ヌカラ、已ムヲ得ズ製鐵所モ利益ヲ出シテ見積ルト云フガ如キ場合デアルナラバ、ソレハ餘リニ勇氣ノナイ考デアル、私ハ是ガ行クベキ途デアル、執ルベキ正シキ方途デアルト判斷セラレタナラバ、ソレニ向テ勇敢ニ邁進ヲセラレナケレバナラヌ、斯様ニ考ヘテ、鈴木君ノ此御提議ニハ尤デアルト考ヘテ、賛成ヲ致シタ次第デアリマス

ソレカラモウ一ツノ附帶決議、即チ「製鐵所ト八幡市其ノ他直接關係市町村トノ特殊ノ沿革及將來ノ緊密ナル關係ニ鑑ミ」云云ノ項目デアリマス、是ハ八幡ニ於ケル製鐵所ト八幡市ノ關係デアルトカ、或ハ大牟田ニ於ケル三井ノ事業ト大牟田市ノ關係デアルトカ云フ問題、是ハ全ク其事業ガ起リタ爲ニ、其大都市ガ出來タノデアリマス、三十何年前ニハ一農漁村デアリマシタモノガ、人口十七万ヲ有スル八幡市ト、人口八万ヲ有スル大牟田市ガ出來タト云フヤウナ譯デ、事業トノ關係ハ全ク有機的ニ離スコトガ出來ナイ關係ヲ生ジテ居ル、一度政府ガ此處置ヲ誤ルナラバ、十七万市民ノ生活ニ激變ヲ起ス虞ガアル、製鐵事業ハ大切デアリマスガ、同時ニ國家ノ目的ノ上ヨリ致シマシテ、是等ノ有機的關係ニアル市民生活ノ上ニ、若シ手落ノ結果不幸ナル事

態ヲ齎スナラバ、遺憾至極ト言ハネバナラス、故ニ此點ハ十分ニ注意シテ適當ニ善處セラレタイト云フコトガ、私共ノ主張ノ要點デアリマス、而シテ最後ニ何カ小池四郎君ガ、今度ノ案ト從來歷代內閣ガ考ヘタ案トハ、餘程違テ居テ、國家的目的ノ意圖ガ變テ居ル、其點ヲ是認スルト云フ御説ガアツキヤウニ聽取リマシタガ、是ハ何カノ御間違デアラウト思フノデアリマス、前時代カラノ案ト變テ居ル所ハ、商工大臣ガ委員會デ言明セラレテ居ル通り、單ニ政府ノ一億圓ノ補償ガ無クナタト云フコト、竝ニ關稅ノ問題ガ解決セラレテ居ルカラ、其點ガ變テ居ルト云フコト、此二點ニ過ギナイト私ハ考ヘテ居ル、是ハ附加ヘタル問題デアリマスガ、小池君ノ間違ヲ正シテ置ク次第デアリマス、以上述べマシタル理由ニ依リマシテ、私ハ茲ニ本案ニ賛成シ、本案ガ完全ニ實現セラレテ、我ガ國民經濟上ニ於ケル此大問題ヲ而モ不況ノ機會ニ解決シ、以テ國民經濟飛躍ノ速進ヲ期セントスルモノデアリマス、龜井君ハ何カ鷹ガ鷹ヲ生シタトカト政府ノ此企圖ヲ御褒メニナタ、サウ御褒メニナル位ナラバ、龜井君ハ當然賛成セラレナケレバナラス、褒メテ置イテ反對トハ、世間デハ

例ノ無イコトデアリマス、故ニ前ノ反對ヲ翻サレテ、龜井君モ當然本案ニ賛成セラレ、本案ガ滿場一致ヲ以テ通過スルコトヲ確信致シマシテ、此壇ヲ降ル次第デアリマス(拍手)

○議長(秋田清君) 岸衛君

(岸衛君登壇)

○岸衛君 私ハ只今議題ニナッテ居リマスル日本製鐵株式會社法案竝ニ製鐵業獎勵法中改正法律案、此兩案ニ對シマシテ、我ガ國民同盟ヲ代表致シマシテ、賛成ノ意見ヲ述ベント欲スル者デアリマス(拍手)

本案ノ内容ニ付キマシテハ、既ニ論議シ盡サレテアリマスルガ、此内容ニ付キマシテハ、幾多ノ不備缺陷ガ存シテ居ルノデアリマス、第一ニ日本製鐵株式會社ガ半官半民ノ形態ヲ備ヘテ居ルコトデアリマス、我ガ同僚諸君ハ此案ニ對シマシテ、官營トカ民營トカ、斯ウ云フ議論ヲ爲サッテ居ラレマスケレドモ、私ハ是ハ純然タル官營デモ勿論ナク、又純然タル民營デモ勿論ナイト云フコトヲ考ヘルノデアリマス、先程龜井君ハ「シトロント」「サイダー」トヲ以テ、此例證ヲ爲サッテ居ラレマシタケレドモ、私ハ此案ハ純然タル「サイダー」デモ、亦「シトロント」デモナイ、丁度「サイダー」ト云フ

官營ト「シトロ」ト云フ民營、此ニツラ

欲スルモノデアリマス(拍手)

ナリマシタガ、私ハ此點ニ於キマシテハ櫻

シテ居リマスカラ、暫ク之ヲ認容致シマシ

混ゼ合シタル「コクテール」ノ如キモノデア

第二ハ民間ノ諸會社ヲ合同セシメル上ニ

井君ト同様、政府ガ漠然ト統制其モノハ考

テ、若シ豫期ノ成績ヲ裏切ル如キコトガア

ル、斯ウ考ヘル、私ハ假ニ之ヲ名付ケテ中

於キマシテ、政府ハ何等ノ強制權ガナイト

ヘテ居リマスケレドモ、進ンデ確乎タル勇

タナラバ、政府ハ其責任ヲ何トスルカ、十

島「コクテール」ト申シテモ差支ナイト思フ、

云フ點デアリマス、政府ハ先ヅ纏リ易キ五

敢ナル、此自由主義ニ對スル所ノ修正ノ方

分慎重ニ豫期ノ成績ヲ擧ゲラレンコトヲ、

甚ダ口當リハ宜シイケレドモ、生一本デナ

社ヲ合同ヲ爲シ、次デ五箇年以内ニ他ノ六

法ヲ缺イテ居ルト云フコトガ、本案ニ於テ

私ハ茲ニ警告ヲ致ス者デアリマス、而シテ

イ點ヲ遺憾ニ思フノデアリマス、諸君、半

社ヲ併合セシメントスル計畫デアリマス

シ當局ハ合同ニ對シマシテハ、十分ノ成算

此生産費ノ切下ノ目的ハ、當然従業員竝ニ

官半民ノ會社ニハ、既ニ滿鐵ニ於テ其例ヲ

ルガ、此合同ニ付キマシテハ、何等ノ

ヲ有テ居ルト云フコトヲ聲明シテ居リマ

レバナラヌト考ヘルノデアリマス、若シ此

見ル如ク、幾多ノ弊害ガ存在シテ居ルノデ

政府ニ強制權ガナイノデアリマスカラ、

スルカラ、吾々ハ暫ク假スニ時ヲ以テセン

會社ガ單ニ合同ノ上ニ於キマシテ、資本ノ

アリマス、其最モ尤ナルモノハ何デアルカ

ラ、唯風ノ間ニ間ニフワリノト合同ヲ

トスルモノデアリマス、若シ政府ガ將來此

ルヤウナコトガアツテ、消費者階級竝ニ從業

ト申シマスナラバ、内閣ノ更迭毎ニ首腦部

期待スルニ過ギナイノデアリマシテ、私ハ

民間十一社ノ合同ニ失敗ヲ致シマスカラ

員ノ福利ヲ無視スルガ如キコトガアツタ

ガ更迭ヲ致シマシテ、隨テ其經營方針ニ大

其會社ノ利害關係、又其時ノ事情等ニ依

バ、此日本製鐵株式會社ノ成立ノ根本意義

ラバ、吾々ハ之ニ對シ非常ナル關心ヲ以テ、

動搖ヲ來スト云フコトデアアルノデアリマ

リマシテハ、或ハ政府ノ期待スルガ如

ヲ減却スルコトニナルノデアリマスカラ、

大ニ將來ハナケレバナラヌ時期ガ來ルト

テモ、内閣ノ更迭毎ニ其經營方針ヲ變更ス

キ、此會社ノ實現ハ決シテ容易デナイト考

政府ノ責任ハ極テ重且ツ大ナリト言ハザル

云フコトヲ言明スルノデアリマス

ガ如キコトガアリマスナラバ、洵ニ由々シ

ヘルノデアリマス、而シテ政府ガ唯單ニ合

ヲ得ナイノデアリマス

第四點ハ從業者ニ對スル待遇ノ問題デア

キ大事ナリト私ハ言ハザルヲ得ナイト思フ

同ヲ促進スル所ノ唯一ノ武器ト致シマシテ

政府ハ合同ノ上ハ生産費ノ十分ナル切下ヲ

リマス、政府ハ八幡製鐵所ノ従業員ニ對シ

ノデアリマス(拍手)此意味ニ於キマシテ、

ハ、獎勵金ヲ廢シ、サウシテ非合同會社、

行ヒマシテ、銑鋼各一應ニ對シマシテ約五

マシテ、何等失業者ヲ出サズ、又合同前ト

半官半民ノ此經營ニ對シテハ、吾々ハ聊カ

即チ「アウトサイダース」ヲ遠擯キニ壓迫セ

圓ノ切下ヲ期シテ居ルノデアリマス、果シ

同様ノ待遇ヲ爲スコトヲ約束シテ居ルノデア

不滿ヲ感ズル者デアリマシテ、百尺竿頭一

ントスルノデアリマシテ、斯ル手段ハ恰モ

テ豫期ノ成績ヲ擧ゲ得ルヤ否ヤ、私ハ大ニ

リマス、併ナガラ吾々ヲ以テ見ルナラバ、八

歩ヲ進メテ、寧ロ純然ト民營ナラバ民營、

繼母ノ繼子密メニ類スルモノデアリマシテ、

憂慮ナキ能ハヌノデアリマスガ、況ヤ政府

幡製鐵所従業員ニ對シマシテ、合同前ト同ジ

官營ナラバ官營トヤッタ方ガ宜シイト、斯ウ

正々堂々ノ手段方法ヲ缺イテ居ルコトハ、

ガ聲明シテ居ル如ク、三千万圓ノ巨利ヲ一

ヤウナ待遇ヲ爲スコトハ頗ル怪シカラ

考ヘテ居ルノデアリマス、併ナガラ既ニ此

程岸田君ガ御述べニナリマシタガ、國家權

年ニ生ミ出スガ如キハ、蓋シ畫ニ描キタル

餅ノ如キモノデアリマシテ、到底吾々ノ首

形態ヲ以テ當局者ハ十分ナリト御考ヘニ

力ガ加ハラナイノガ宜シイト云フ御意見デ

肯シ得ナイ所デアリマス、併ナガラ政府ハ

同シタ上ハ此巨利ヲ先ヅ第一ニ従業員ニ宛行

ヲ監視致シマシテ、斯ル情弊ノ生ゼザラン

アル、櫻井君ハ、當然モウ少シ力強イ統制

力ヲ持ツベキデアルト云フコトヲ御主張ニ

ハナケレバナラヌ、然ラバ今日ヨリモヨリ良キ



待遇ヲ八幡製鐵所ノ従業員ニ與ヘルト云フコトガ、本旨デナケレバナラヌト私ハ考ヘルノデアリマス、而シテ合同ニ當リマシテハ、少クトモ従業員ノ中デ、今迄功勞ノアツタ者ニ對シテハ、株ヲ分讓スル位ノ肚ハ政府ニアツテ欲シイ、サウシテ又此新會社ガ出來ルナラバ、重役ノ一人ハ少クトモ此従業員ノ中ヨリ出シテ、而シテ勞資協調ノ目的ヲ達セラレシコトヲ切望スルノデアリマス、尙ホ八幡市其他工場ノ所在地ニ於キマシテハ、今迄ノ特典ヲ保留スルコトハ勿論デアリマスケレドモ、更ニ進ンデ地方町村ノ困憊セル今日ノ狀態ニ鑑ミマシテ、地方稅ヲ賦課スルコトニ對シ、將來政府ハ其意ヲ致サレンコトヲ、此場合希望シテ置クノデアリマス

第五ハ世間往々本案ヲ指シマシテ、ボロ會社ノ救済ニアラズヤト非難サレル點デアリマス、私ハ中島商工大臣ノ人格ニ顧ミマシテ、斯ル事ナキヲ確信スル者デアリマスガ、此案ガボロ會社ノ救済ニ終ルカ終ラナイカト云フ分歧點ハ、何處ニアルカト申シマスルナラバ、即チ決議事項ニアルガ如ク、民間會社ノ資産ガ評價審査委員會ニ於テ、ドノ程度マデ切下ゲ得ラレカ、得ラレナイカト云フ、此點ニ存スルノデアルト考ヘルノデアリマス、吾々ハ政府ノ揚言スル如ク、三分ノ二ニ其資産ヲ切下ゲルコトガ出來シタナラバ、決シテ本案ハボロ會社ノ救済ニ終ルモノデナク、國家ノ爲メ大ニ慶賀スベキ案デアルト考ヘマス、若シ之ニ反シテ審査會ニ於テ情實纏綿、其評價ノ寬ニスルガ如キコトガアリマシタナラバ、畢竟本案ハ即チ世間非難ノ如ク、ボロ會社ノ救済案ト化シマシテ、折角ノ鐵統制案ノ前途ニ暗雲ヲ漲ラスコトニナルノデアリマスカラ、政府ハ特ニ此點ニ付キマシテ留意セラレンコトヲ熱望スルノデアリマス(拍手)

第六點ハ滿洲ニ於ケル製鐵業ト本會社ノ聯絡統制ニ關スル點デアリマス、政府ハ此點ニ關シマシテ、遺憾ナガラ未ダ萬全ノ策ヲ講ジテ居リマセヌ、吾々ハ滿洲ニ於ケル所ノ製鐵業ガ、政府ノ言フガ如ク外國ノ事デアルカラト云ウテ、唯徒ニ無統制ノ儘ニ放棄シテ置ク譯ニハ行カナイノデアリマス、否、此兩者ハ恰モ車ノ兩輪ノ如ク、鳥ノ兩翼ノ如キ關係デアリマス、此兩者ノ統制ヲ無視シテハ、我國ノ眞ノ製鐵業ノ統制ハ斷ジテナイノデアリマス、此見地カラ致シマシテ、政府ハ此機會ニ於テ一日モ早く、其促進ヲ期セラレンコトヲ切望スルノデアリマス

以上申述べマシタル通り、此法案ハ未ダ

幾多ノ不備不滿ノ點ガアリマスルケレドモ、吾々同志ガ敢テ此案ニ贊成ヲ致シマスル所以ハ、第一ニ八幡製鐵所ヲ民營ニ移ス上ニ於キマシテ、國防上何等ノ支障ナシト云フ軍部ノ保證ヲ得テ居ルコトガ、其理由ノ一ツデアリマスルガ、更ニ進ンデ吾々國民同盟同志ガ、本案ニ贊成スル所ノ一大眼目ハ、我國ノ重要基本工業タル鐵ノ合同統制ガ、故意カ偶然カ、意識的カ無意識的カ分リマセヌガ、兎ニ角ニモ吾々同志ガ立黨以來常ニ天下ニ絶叫シテ居リマスル所ノ統制經濟主義ニ、全ク其軌ヲ一ニシテ居ル點ガ、即チ吾々ガ敢テ此案ニ贊同スル所以デアリマス、本案ハ今迄ノ自由主義經濟ニ對スル所ノ修正改善デアリマシテ、全ク新シキ經濟機構ノ下ニ組立ラレタルモノデ、現在ノ經濟界ニ於ケル所ノ一大革命トシテ、私ハ許シテモ差支ナイト思フノデアリマス、即チ本案ハ單ナル鐵ノ合同統制ト云フ意味デハナクテ、現在ニ於ケル自由主義經濟ニ對シ、修正改善ノ一石ヲ投ジタルモノトシテ、相當意義アル立案デアアル、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス諸君、今ヤ自由主義經濟ハ全ク行詰リテ居リマス、此行詰リヲ打開シテ、何等カノ方法ヲ講ジナケレバ、明ニ我ガ經濟界ハ破綻ニ導カレ、延テ思想

上ノ惡化ハ益々激シカラントシテ居ルノデアリマス、吾々同志ハ茲ニ顧ミル所ガアリマシテ、此經濟界ノ行詰リヲ打開シ、思想ノ惡化ヲ防ギ、サウシテ妖雲ヲ披イテ天日ヲ拜スル、其方法ハ此統制經濟以外絶對ニナキコトヲ信ジマシテ、立黨以來常ニ天下ニ呼號致シマシテ、天下大衆ノ共鳴ヲ得テ居ル次第デアリマス、今茲ニ無氣力ニシテ、半死半生ノ垂死ノ齋藤内閣ガ、其臨終ニ方リマシテ、今ハノ際ニ方リマシテ、斯ノ如キ經濟上ノ一大新紀元ヲ劃スベキ所ノ重要法案ヲ出サレマシタルコトハ、先程龜井君ガ言ハレマシタル通り、萬ガ應ヲ生シタ、或ハ瓜ノ蔓ニ茄子ガ生タトデモ申シマセウカ、兎ニ角意識的デアアテモ、無意識的デアリマシテモ、何カノ戸惑ヒデアアテモ、全ク我黨ノ政策ト一致スル點ニ於キマシテ、私ハ國家ノ爲ニ慶賀ニ堪ヘナイト思フノデアリマス、而モ過當ナル配當ヲ抑制スルト云フ點ニ於キマシテハ、一般大衆ノ利益ヲ先ニシマシテ、サウシテ資本ノ營利ヲ避ケントスル點ニ於キマシテハ、其經營方針ニ新機軸ヲ出シタルモノデアリマシテ、是レ單ナル營利統制經濟デハナイ、此我黨ノ主張致シテ居リマス所ノ公益統制經濟主義其モノト合致スルモノデアリマシテ、吾々ガ本

案ニ對シマシテ衷心ヨリ賛成ノ意ヲ表スルモノハ、即チ此主義ニ合致シテ居ルガ故デア  
ルノデアリマス(拍手)斯ノ如ク本員等國民同  
盟ノ同志ガ、本案ニ賛成ヲ致シマスル所ノ  
動機ハ、經濟界ニ新生命ヲ喚起スベキ主義  
ノ問題ニ、其論據ヲ置イテ居ルノデアリマ  
スガ、政民兩黨ノ諸君ハ、松本君ガ過日委  
員會ニ於テ述ベラレマシタル通り、唯吾々  
ハ現内閣ヲ信賴スル與黨デアルガ故ニ賛成  
スルト云フノデアリマシテ、此行詰レル資  
本主義ニ對シマシテ何等ノ自覺ナク、唯漫  
然ト之ヲ賛成スルガ如キコトハ、吾々ノ此  
案ニ賛成スルノト、其意義ヲ異ニスルト云  
フコトヲ私ハ揚言スルノデアリマス(拍手)  
先程小池君竝ニ龜井君ガ、最モ傾聴ニ値ス  
ル所ノ反對論ヲ御述ベニナツテ居リマス、  
私ハ其中ニハ或ハ賛成ヲ致スモノモアリマ  
ス、例ヘバ小池君ノ國家管理委員會ノ設  
置ノ如キハ、是ハ當然斯ノ如キ管理ノ機關  
ガ將來生レテ來ナケレバナラヌト思フノデ  
アリマスルガ、龜井君ガ斯ノ如キモノハ現  
内閣ニ依ッテハ出來ナイ、將來ノ内閣ニ依  
テモ出來ナイト云フコトヲ慮ラレテ居リマ  
スルガ、次ノ吾々ハ安達内閣ニ於テ、此案  
ヲ實現セント欲スルモノデアリマス、先日  
ノ本會議ニ於キマシテ、民政黨ノ林君ハ、

政友會ノ放漫政策ヲ嗜メラレマシタガ、反  
對ニ極端ナル緊縮政策ニ付キマシテモ、  
吾々ハ苦イ經驗ヲ嘗メテ居ルノデアリマス  
ル、放漫政策モ緊縮政策モ、共ニ國家ノ非  
常時ヲ救フニ足リマセヌ、將又現在亞米利  
加ニ於キマスル所ノ「テクノクラシー」ノ如  
キモ、既ニ自殺ヲシテ居ルノデアリマス、  
是ニ於テ此非常時局ヲ救フベキモノハ、何  
ヲ置イテモ外ニハナイ、我黨ノ主張スル所  
ノ公益統制經濟以外ニハ、斷ジテ我國ノ經  
濟界ヲ救ヒ、思想ノ善導ヲ完ウスベキ所ノ  
政策ハナイト云フコトヲ私ハ斷言スルソデ  
アリマス(拍手)當局ハ宜シク百尺竿頭一歩  
ヲ進メテ、唯單ニ鐵ノミナラズ、石炭、電  
氣其他ノ重要産業ニ、此統制ヲ用ユベキデ  
アリマス  
最後ニ斯ル半官半民ノ會社ニハ、滿鐵ノ  
例ニアリマスル通り、各方面ノ魔ノ手ガ延  
ビ易イノデアリマスルガ、現ニ世間デハ既  
ニ此會社ニ對シテ、重役ノ割込ノ豫約サヘ  
シテ居ル者ガアルト傳ヘテ居ルノデアリマ  
ス、洵ニ奇々怪々千萬デアッテ、吾人ノ寒心  
ニ堪ヘナイ所デアリマスルハ、然ルニ之ヲ抑  
制スルニハ、唯僅ニ課長級ノ若イ管理官ヲ  
置イテ、之ヲ管理セシムルト云フニ過ギナ  
イノデアリマス、私ハ此日本製鐵會社法案

ノ中デ、管理權ガ十分ニ政府ニナイト云フ  
コトガ、此法ノ一大缺陷ナリト考ヘルノデ  
アリマスルガ、政府ハ將來此改正ニ留意致  
サレンコトヲ切望スルノデアリマス、吾人  
ハ茲ニ新ニ光明ト希望ヲ浴ビテ生レ出デ、  
居リマス所ノ此日本製鐵株式會社ガ、過去  
ノ半官半民ノ會社ニ於ケルガ如ク、各方  
面、特ニ既成政黨ノ餌食トナリ、喰物トナ  
リ、其好餌トナツテ、完全ナル發達ヲ阻マ  
レルコトナキヲ、國民ト共ニ監視スルコト  
ヲ聲明致シマシテ、茲ニ本案ニ賛成ノ意ヲ  
表スル次第デアリマス(拍手)  
○議長(秋田清君) 討論ハ終局致シマシ  
タ、兩案ノ第一讀會ヲ開クニ御賛成ノ諸君  
ノ起立ヲ求メマス  
(賛成者起立)  
○議長(秋田清君) 起立多數、仍テ兩案ノ  
第二讀會ヲ開クニ決シマシタ  
○上田孝吉君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開  
キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通  
リ可決セラレンコトヲ望ミマス  
○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議  
アリマセスカ  
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)  
○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマ  
ス、直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全

部ヲ議題ト致シマス  
日本製鐵株式會社法案  
第二讀會(確定議)  
製鐵業獎勵法中改正法律案  
第二讀會(確定議)  
○議長(秋田清君) 別ニ御發議モアリマセ  
ヌ、第三讀會ヲ省略シテ、兩案トモ委員長  
報告通り、可決確定致シマシタ(拍手)  
○上田孝吉君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ  
提出致シマス、即チ此際政府提出、農業動  
產信用法案、政府提出、漁業法中改正法律  
案ヲ議題トシ、其審議ヲ進メラレンコトヲ  
望ミマス  
○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議  
アリマセスカ  
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)  
○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマ  
ス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、農業動  
產信用法案、漁業法中改正法律案、右兩案  
ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——農林大  
臣後藤文夫君  
農業動產信用法案(政府提出) 第一讀會  
漁業法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

農業動産信用法案

農業動産信用法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ農業トハ耕作、養畜又ハ養蠶ノ業務及之ニ附隨スル業務ヲ謂フ

水産動植物ノ採捕若ハ養殖又ハ薪炭生産ノ業務及之ニ附隨スル業務ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ農業ト看做ス

第二條 本法ニ於テ農業用動産トハ農業ノ經營ノ用ニ供スル動産ヲ謂フ  
前項ノ農業用動産ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 本法ノ先取特權又ハ農業用動産ノ抵當權ヲ取得スルコトヲ得ル者ハ信用組合及勅令ヲ以テ定ムル法人ニ限ル

第二章 農業經營資金貸付ノ先取特權

特權

第四條 信用組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人ガ農業ヲ爲ス者ニ對シ左ニ掲グル行爲ヲ爲スニ必要ナル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキハ其ノ債權ノ元本及利息ニ付債務者ノ特定動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

一 農業用動産又ハ農業生産物ノ保存

二 農業用動産ノ購入

三種苗又ハ肥料ノ購入

四 蠶種又ハ桑葉ノ購入

五 薪炭原木ノ購入

六 勅令ヲ以テ定ムル水産養殖用ノ種苗又ハ餌料ノ購入

前項ノ法人ガ農事實行組合、養蠶實行組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人ニ對シ其ノ農業用動産ヲ保存シ又ハ購入スル爲ニ必要ナル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ

第五條 農業用動産保存資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ保存シタル農業用動産ノ上ニ存在ス

農業生産物保存資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ保存シタル農業生産物ノ上ニ存在ス

前二項ノ先取特權ハ農業用動産又ハ農業生産物ニ關スル權利ヲ保存、追認又ハ實行セシムル爲ニ必要ナル資金ノ貸付ニ付テモ亦存在ス

第六條 農業用動産購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル農業用動産ノ上ニ存在ス

第七條 種苗又ハ肥料ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル種苗又ハ肥料ヲ用ヒタル後

一年內ニ之ヲ用ヒタル土地ヨリ生ジタル果實ノ上ニ存在ス尙桑樹ノ肥料購入資金貸付ノ先取特權ニ在リテハ其ノ果實タル桑葉ヨリ生ジタル物ノ上ニモ亦存在ス

第八條 蠶種又ハ桑葉ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル蠶種又ハ桑葉ヨリ生ジタル物ノ上ニ存在ス

第九條 薪炭原木購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル薪炭原木ヨリ生産シタル薪炭ノ上ニ存在ス

第十條 水産養殖用種苗購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル種苗ヲ養殖シタル物ノ上ニ存在ス

第十一條 水産養殖用餌料購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル餌料ヲ用ヒテ養殖シタル物ノ上ニ存在ス

第十二條 先取特權ノ優先權ノ順位ニ付テハ農業用動産又ハ農業生産物ノ保存資金貸付ノ先取特權ハ動産保存ノ先取特權ト、農業用動産又ハ薪炭原木ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ動産賣買ノ先取特權ト、種苗若ハ肥料、蠶種若ハ桑葉又ハ水産養殖用ノ種苗若ハ餌料ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ種苗肥料供給ノ先取特權ト看做ス

取特權ト、種苗若ハ肥料、蠶種若ハ桑葉又ハ水産養殖用ノ種苗若ハ餌料ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ種苗肥料供給ノ先取特權ト看做ス

第十三條 農業用動産ノ抵當權ハ農事實行組合、養蠶實行組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人ガ信用組合又ハ勅令ヲ以テ定ムル法人ニ對シテ負擔スル債務ヲ擔保スル場合ニ限り之ヲ目的トシテ抵當權ヲ設定スルコトヲ得

第十四條 農業用動産ノ抵當權ニハ本法其ノ他法令ニ別段ノ定アルモノノ外不動産ノ抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第三百七十八條乃至第三百八十七條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 農業用動産ノ抵當權ノ得喪及變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十六條 前項ノ規定ハ登記ノ後ト雖モ民法第九十二條乃至第九十四條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第十七條 第一項ノ登記ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者ガ之ヲ讓渡セントスルトキハ

命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ譲受人ニ對シ抵當權ノ存在スル旨ヲ告知スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ他ノ債務ノ擔保ニ供セントスルトキニ之ヲ準用ス

第十五條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者ガ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ債務ノ擔保ニ供シタル場合ニ於テハ遲滞ナク前條ノ告知ヲ爲シタル旨ヲ抵當權者ニ告知スルコトヲ要ス

抵當權ノ目的タル農業用動産ニ付第三者ガ差押ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ抵當權者ニ告知スルコトヲ要ス

第十六條 先取特權ト農業用動産ノ抵當權ト競合スル場合ニ於テハ抵當權者ハ民法第三百三十條ニ掲グル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第十七條 農業用動産ノ抵當權ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

#### 第四章 罰則

第十八條 抵當權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ損傷シ又ハ隱匿シタル者ハ一年以下ノ

懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ所有者ノ意思ニ反シテ損傷シタル者ニ付テ刑法ニ依ル

第十九條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者抵當權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ該動産ニ關シ讓渡、質入其ノ他抵當權ヲ侵害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ動産所有者ノ代表者又ハ代理人本人ノ爲ニ前項ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同ジ

第二十條 前二條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

#### 附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
登錄稅法第三條ノ六ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三條ノ七 農業用動産ノ抵當權ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得

債券金額 千分ノ二

但シ稅額金二十錢未滿ナルトキハ

二十錢トス

二 抹消シタル登記ノ回復

農業用動産每一箇 金十錢

#### 三 假登記

農業用動産每一箇 金十錢

#### 四 附記登記

農業用動産每一箇 金五錢

但シ一件ニ付稅額金一圓ヲ超ユルトキハ一圓トス

#### 五 登記ノ更正、變更又ハ抹消

農業用動産每一箇 金十錢

但シ一件ニ付稅額金一圓ヲ超ユルトキハ一圓トス

#### 漁業法中改正法律案

漁業法中左ノ通改正ス

第十五條 漁業權又ハ入漁權ノ各共有者ハ他ノ共有者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非ザレバ其ノ持分ヲ處分スルコトヲ得ズ

第十五條ノ二 漁業權又ハ入漁權ノ各共有者其ノ共有ニ屬スル漁業權又ハ入漁權ヲ變更セントスル場合ニ於テ他ノ共有者ノ住所又ハ居所分明ナラザルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ裁判所ノ許可ヲ以テ其ノ者ノ同意ニ代フルコトヲ得

第十八條第二項中「若ハ家資分散ヲ削ル」  
第二十八條中「分割、變更」ヲ「分割シ其

ノ他變更シ」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

第十五條ノ二ノ規定ハ漁業權ヲ分割シ其ノ他變更セントスル場合ニ於テ登錄シタル入漁權者ノ住所又ハ居所分明ナラザル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條中「漁場ノ標識ノ建設」ノ下ニ「又ハ漁具ノ標識ノ設置」ヲ加フ

第三十四條第一項第五號中「遺棄」ノ下ニ「又ハ漏泄」ヲ加ヘ同項第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

七 水產動植物ノ移植ニ關スル制限又ハ禁止

同條第三項中「製品及漁具」ヲ「製品、漁具及第一項第七號ノ水產動植物」ニ改ム  
第三十五條第一項ヲ左ノ如ク改ム

汽船「トロール」漁業、母船式漁業、汽船捕鯨業又ハ機船底曳網漁業ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第四十二條第三項中「市制」ヲ削リ「市町村」ヲ「町村」ニ改ム

第四十三條第二項中「漁業ニ關スル」ヲ「漁業又ハ其ノ經濟ノ發達ニ必要ナル」ニ改メ同條第三項中「漁業組合ハ」ノ下ニ「本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外」

ヲ加フ

第四十三條ノ二 漁業組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他漁場ノ利用ニ關スル施設

二 船溜、船揚場、漁礁其ノ他組合員ノ漁業ニ必要ナル設備ノ設置

三 組合員ノ漁獲物其ノ他ノ生産物ノ加工、保藏、運搬又ハ販賣ニ關スル施設

四 組合員ノ漁業又ハ其ノ經濟ノ發達ニ必要ナル物又ハ資金ノ供給ニ關スル施設

五 組合員ノ遭難防止又ハ遭難救恤ニ關スル施設

六 前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

前項ニ掲グル組合ノ施設ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限り組合員タルコトヲ得ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第四十三條ノ三 前條第一項第三號又ハ第四號ノ事業ヲ行フ漁業組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

シムル漁業組合(漁業協同組合)ノ組合員ハ出資一口以上ヲ有スベシ

出資一口ノ金額ハ均一ニ之ヲ定ムベシ  
出資一口ノ金額ノ最高限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十三條ノ四 漁業組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第四十三條ノ五 第四十三條ノ二第一項第三號又ハ第四號ノ事業ヲ行フ漁業組合ノ組織ハ無限責任、有限責任及保證責任ノ三種トス

無限責任ノ組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ連帶無限ノ責任ヲ負擔シ有限責任ノ組合ニ在リテハ組合員ノ全員ガ經費負擔額ノ外其ノ出資額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔シ保證責任ノ組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ其ノ出資額又ハ經費負擔額ノ外一定ノ金額(保證金額)ヲ限度トシテ責任ヲ負擔ス

第四十三條ノ六 無限責任又ハ保證責任ノ漁業組合ヨリ脫退シタル組合員ハ脫退前ノ組合債權者ニ對シ其ノ脫退ヲ登記シタル後二年間前條第二項ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔ス

第四十三條ノ七 新ニ無限責任又ハ保證責任ノ漁業組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生ジタル組合ノ債務ニ付テモ亦第四十三條ノ五第二項ノ規定ニ依リ責任ヲ負擔ス

第四十三條ノ八 漁業協同組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ得テ自ラ漁業ヲ營ムコトヲ得

第四十三條ノ九 漁業協同組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合ノ地區内ニ住所ヲ有スル者ニシテ漁業者ニ非ザルモノヲ組合員ト爲スコトヲ得

記シタル後二年間前條第二項ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔ス

第四十三條ノ七 新ニ無限責任又ハ保證責任ノ漁業組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生ジタル組合ノ債務ニ付テモ亦第四十三條ノ五第二項ノ規定ニ依リ責任ヲ負擔ス

第四十三條ノ八 漁業協同組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ得テ自ラ漁業ヲ營ムコトヲ得

第四十三條ノ九 漁業協同組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合ノ地區内ニ住所ヲ有スル者ニシテ漁業者ニ非ザルモノヲ組合員ト爲スコトヲ得

第四十三條ノ十 漁業組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合規約ニ違反シタル組合員ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第四十四條 漁業組合聯合會ハ所屬ノ漁業組合及漁業組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲行政官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ設立スルコトヲ得

漁業組合聯合會ハ法人トス  
漁業組合聯合會ハ第四十三條ノ二第一項第三號若ハ第四號ノ事業ヲ行フ漁業組合又ハ漁業組合聯合會ヲ以テ之ヲ構成ス

漁業組合聯合會ノ組織ハ有限責任及保證責任ノ二種トス  
第四十三條第三項、第四十三條ノ二、第四十三條ノ三第二項乃至第四項、第四十三條ノ四、第四十三條ノ五第二項、第四十三條ノ六、第四十三條ノ七及前條ノ規定ハ漁業組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第四十三條ノ二中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會及組合員トス

第四十五條中「營業稅」ヲ「營業收益稅」ニ改ム

組合又ハ漁業組合聯合會ヲ以テ之ヲ構成ス

漁業組合聯合會ノ組織ハ有限責任及保證責任ノ二種トス  
第四十三條第三項、第四十三條ノ二、第四十三條ノ三第二項乃至第四項、第四十三條ノ四、第四十三條ノ五第二項、第四十三條ノ六、第四十三條ノ七及前條ノ規定ハ漁業組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第四十三條ノ二中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會及組合員トス

第四十五條中「營業稅」ヲ「營業收益稅」ニ改ム

第四十八條第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 解散又ハ事業ノ停止

第四十九條中「管理」ノ下ニ「構成者ノ權利義務及加入脫退、組織變更」ヲ加フ

第四十九條ノ二 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ役員何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ組合若ハ聯合會ノ事業ノ範圍外ニ於テ貸付ヲ爲シ又ハ投機取引ノ爲ニ組合若ハ聯合會ノ財産ヲ處分シタルトキハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セズ

前項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十八條第二項中「漁獲物及漁具ハ之ヲ

沒收ス」ヲ「漁獲物、製品及漁具ハ之ヲ沒

收スルコトヲ得」ニ、「價額ヲ追徴ス」ヲ

「價額ヲ追徴スルコトヲ得」ニ改ム

第五十九條中「汽船」ト「ロール」漁業ノ下

ニ「又ハ母船式漁業」ヲ、「汽船捕鯨業」ノ

下ニ「又ハ機船底曳網漁業」ヲ加ヘ「罰金ニ

處シ」ヲ「罰金ニ處ス此ノ場合ニ於テハ」ニ、

「漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス」ヲ「漁獲物、

製品及漁具ハ之ヲ沒收スルコトヲ得」ニ、

「價額ヲ追徴ス」ヲ「價額ヲ追徴スルコト

ヲ得」ニ改ム

第六十一條中「漁場」ノ下ニ「又ハ漁具」ヲ

加フ

附則

第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之

ヲ定ム

第二條 本法施行前ヨリ引續キ第四十三

條ノ二第一項第三號又ハ第四號ノ事業

ヲ行フ漁業組合ハ本法施行ノ日ヨリ五

年ヲ限り其ノ組織ニ關シ第四十三條ノ

五ノ規定ニ依ラズ仍從前ノ規定ニ依ル

コトヲ得

第三條 本法施行前ニ設立シタル漁業組

合聯合會ハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ限

リ其ノ構成者及組織ニ關シ第四十四條

第三項及第四項ノ規定ニ依ラズ仍從前

ノ規定ニ依ルコトヲ得

前項ノ聯合會ニシテ前項ノ期間内ニ其

ノ構成者及組織ニ關シ第四十四條第三

項及第四項ノ規定ニ依ル聯合會ト爲ラ

ザルモノハ其ノ期間滿了ノ日ニ於テ解

散ス

第四條 印紙稅法第四條第一項第十一號

中「產業組合聯合會」ノ下ニ「漁業組合、

漁業組合聯合會」ヲ加フ

〔國務大臣後藤文夫君登壇〕

○國務大臣(後藤文夫君) 農業動產信用法

案提出ノ理由ヲ申述ベマス、農村漁村ニ於

ケル金融ノ現状ニ鑑ミ、農漁業者ノ擔保力

ノ増加ヲ圖リ、其生産資金供給ノ圓滑ヲ期

スル爲メ、新ニ先取特權及農業用動產ノ抵

當權ニ關スル制度ヲ創設致シマシテ、以テ

信用組合等ニ依リ農漁業金融ノ圓滑ヲ圖ル

ニ資スルコト、致ス爲ニ、茲ニ農業動產信

用法案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、本

法案ノ要旨ハ、第一ニ農業及漁業等ノ經營

用品ノ購入等ニ必要ナ資金ノ貸付ヲ爲シタ

場合ニ於ケル、特別ノ先取特權ヲ認ムルコ

ト、致シマス、第二ニ、農業者及漁業者等

ノ債務ノ擔保ニスル爲メ、農業者及漁業者

等ノ其業ノ經營ニ用ユル重要ナル動產ノ上

ニ、抵當權ヲ設定シ得ルコト、致シマス、

第三ニ、以上ノ先取特權又ハ農業用動產抵

當權ヲ取得シ得ルモノハ、信用組合其他特

定ノ法人ト致シマシタ、以上ガ要旨デゴザイ

マス、何卒御審議ノ上、御協賛アラント

ヲ希望致シマス(拍手)

○議長(秋田清君) 質疑ヲ許シマス、風見

章君

〔風見章君登壇〕

○風見章君 只今議題ニナリマシタ政府

提出ノ法案ニ關シマシテ、三四當局ニ質問

ヲ致シマス

第一點ハ本案ヲ何故モット早ク上程シナ

カタカト云フ點ニアルノデアリマス、大體

今度ノ議會ニ於キマシテハ、會期切迫シマ

シテカラ幾多ノ重要法案ガ出サレタ、重要

法案ヲ會期切迫ノ時期ニ際シテ出シテ、而

モ緊急上程ヲシテ、内容ヲ未ダ研究セザル

ニ直グニ議題ニ上セル、斯ウ云フヤウナコ

トニ對シテハ、其議案ニ對シテ吾々ハ本當

ニ審議出來ル筈ノモノデハナイ、デアリマ

スルカラ、政府トシテハ苟モ吾々議員ノ審

議權ヲ尊重セントスル考ガ毛頭デモアル以

上ハ、斯ノ如キ農村漁村ニ重大ナル關係ヲ

有スル法案ヲ出スノニ、其日ニ議案ヲ配テ

其日ニ緊急上程スル、斯ウ云フヤウナ態度

ニ出ルコトハ、正ニ吾々議員ノ審議權ヲ輕

ンズル所以デアリマスカラ、甚ダ怪シカラ

ヌト思フ(拍手)此點ニ關シテ政府當局ノ辯

明ヲ要求スル、最早餘命幾何モナイ内閣ダ

カラ、ソナ内閣ニ斯ウ云フ嚴重ナ質問ヲ

スルコトハ心苦シイヤウニ感ズルノダガ、

フラ／＼内閣ニ對シテ言フコトハ心苦シク

感ズルコトデアルケレドモ、併シ規律上默

テ居ラレマセヌカラ、當局ノ辯明ヲ要求ス

ル(拍手)

第二點ハ、此法案ハ金融ノ圓滑ヲ圖ルノ

ダト云フ、一體現内閣ハ金融ノ圓滑ト云フ

コトヲ、一個ノ形容詞ト心得テ居ルノデハ

ナイカ、私ハサウ思ハナイ、何トナレバ、

此法案ニ現ハレタル實質ハ、金融ノ圓滑ヲ

圖ラウト云フノデハナイ、少シバカリノ借

金ノ圓滿ヲ圖ルノデアアル、金融ノ圓滿ヲ

圖ルコト、借金ノ圓滿ヲ圖ルコト、ハ、

自ラ類ヲ異ニスル(拍手)一體金ヲ借リル

コトノ途ヲ圖ラテヤルガ、農漁村民ニ對シ

テ、拂フ途ハドウシテ呉レルノダ、コッチ

ノ方ニハチットモ手ヲ觸レテ居ラヌデハ

ナイカ、元來今日ノ金融逼迫ハ、金ガ借

リラレナクテ逼迫シタノデハナイ、金融ノ

途ガナイカラ逼迫シタノデハナク、多年ノ

誤ラタ政治ノ結果、農民ノ生活ガ非常ニ逼



迫シテ來テ、借金サヘ返セナイト云フ所ニ、金融逼迫ノ根本ノ原因ガアルノデハナイカ、苟モ此點ニ些少デモ考ガ及ンダナラバ、現在農漁村ニ對シテ大切ナコトハ、僅カバカリノ金融ノ途ヲ圖ルコトデヤナイ、農具トカ農産物、ソナナ物ニ抵當權ヲ設置スルト云フ、枝葉末節ノ問題デハナクテ、農業ヲシテ不利ナラシメタ幾多ノ原因ヲ取除クコトガ、金融ノ圓滿ヲ圖ル根本ノ仕事デナケレバナラス、大體私共ハ此金融ノ圓滿ヲ圖ラントスル現内閣ノ政策ニ關シテ、總テサウデアルガ、根本ニ觸レナイ、膏藥貼リナノデアル、根本ノ所ニ一體何ガ觸レテ居ルノデアルカ、此間米穀統制法案ガ出テ來タ、アレハ米穀統制法デヤナイ、大體アノ法案ハ、國民ノ食糧政策ノ問題ト、農民ヲ救ハントスル米穀政策ノ問題トゴツチャニ、混同シテ考ヘテ居ルカラ、ア、云フ不徹底ナ統制法ガ生レテ來タ譯デアル(拍手)恐ラク農林省ト雖モ、現内閣ト雖モ、アノ米穀統制法案ニアッテハ、國民ノ食糧政策ト米穀政策トヲ取違ヘタノダト云フ位ハ分ッテ居ルダラウト思フ、此點ニ付テモ穀生産者ハ、アレデ助カリハシナイ、アノ法案ガアル爲ニ、是ヨリ好クナル、是ヨリ惡クナルコトヲ、幾ラカ喰止メ

ル位ノ力ハアルカモ知レマセヌケレドモ、農民ヲ助ケル、積極的ニ好クスルト云フヤウナ效能ガ達セラレナイト云フコトハ、諸君モ御承知ダラウト思フ(拍手)或ハ負債整理組合法案ト云ヒ、何處マデ徹底シタ所ガアルノダ、大體農民ノ金融ヲ圓滿ニスル、斯ウ云フコトヲ考ヘルナラバ、肥料ノ統制ヲヤルトカ、農具ノ統制ヲヤルトカ、自ラ徹底シタ根本ノ途ニ入ッテ來ナケレバナラス管デアル、漁業問題デモサウダ、水産銀行一ツナイノダカラ、サウ云フヤウナ銀行デモ作ルト云フナラバ話ハ分ルケレドモ、サウデヤナイ、サウ云フ根本ノ問題ハ一切投ゲヤリニシテ、頼被リデ見ナイ振リシテ居ッテ、全ク膏藥貼リ同然ノ案ヲ出シテ、之ニ「レ」テ「ル」ヲ貼ッテ、金融ノ圓滿ヲ圖ル、是ハ飛ンデモナイ胡麻化シ政策ダト思フ(拍手)一體今度ノ米國ノ金融恐慌ニ關シマシテハ、是ガ我國ニ自ラ重大ナ影響ヲ與ヘテ來ルコトハ申ス迄モナイ、特ニ農村ニ對シテ惡イ打撃ヲ與ヘルデアラウト云フコトモ見透シガ付ク、成程「ルーズヴェルト」ハ色々ノ政策ヲヤッテ居リマスケレドモ、併シ彼「ルーズヴェルト」モ、米國不況ノ根本原因ニハチットモ觸レハシナイ、例ヘバサウデヤナイカ「トラクター」ヤ「コンバ

イン」ニ依ル農業生産革命ニ依ル土地問題ノ解決、農具問題ノ解決、是等ノ根本問題ニハチットモ觸レナインダカラ、今度ノ金融恐慌ハチョット止メタ所ガ、ソレデ米國ノ財界ハ好クナリハシナイ、好クナラナケレバ、其影響ハ日本ニ來ル、來レバ先ヅ第一ニ農村ニ來ル、現内閣ハ私ガ今申上ガタ如キ米國ノ財界ヲ見透シテ、是デハ聽テ日本ノ農村モモット惡クナルダラウ、モット惡クナッタラ、又借金ガ必要ニナッテ來ルダラウ、其場合ニ吾々ニハ何モ策ガナイカラ、何モ之ヲ防グベキ方法ガナイカラ、何モ方法ガナイカラト言ッテハ、國民ニ相濟マナイヤウナ氣持ガスルト云フノデ、農民ガ一層借金スル必要ヲ認メ、其借金ノ途ハ何處ニモ開ク所ガナイカラ、此邊ノ所デチョット借金ノ途ヲ開イテ胡麻化サウ、斯ウ云フヤウナ態度デハナイカト、私共デスラ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)

第三ノ點ハ、一體現内閣ハ斯ウ云フモノ爲ニ借金ノ途ヲ開イテヤルト云フノダカラ、如何ニモ親切ノヤウダガ、借リタ金ヲ一體何處デ返ヘサセヨウトスルノカ、現内閣ノ無策無能ヲ隱シ政策ノ一ツニ自力更生ガアル、自力更生ガ出來ル位ナラ負債整理組合等ハ要ラス、借金ヲ拂ッテ吳レト一體誰

ガ頼ムカ、自力更生ガ出來ナクナッタカラ、負債整理組合ヲ作ッテ借金ヲ整理サセナクテハナラス、斯ウナッタノデハナカラウカ、一體國民ノ自力更生ノ心、是ハ別ナ言葉デ言ヘバ、自主獨立ノ觀念デアル、此觀念ハ大ニ獎勵シナクテハナラス、大ニ尊敬シナクテハナラス、併ナガラ國民ガ自力更生ヲシヨウト、自分デ働イテ自分ノ運命ハ自分デ開拓シヨウトスル、此算ブベキ農村ノ農民ノ氣持ヲ、自己ノ政策ノ何モナイコトヲテレ隠サウトシテ、此自力更生ノ心ヲ、政策ノナイト云フ自分達ノ、何ト言フカ、無能無力、之ヲ蔽ハントシテ、此自力更生ノ精神ヲ利用セントスル如キハ、國民ノ自尊心ヲ冒瀆スル所以デアリ、私共ハ斷ジテ採ラナイノデアリマス、現内閣ノ命ヲチョットバカリ延バスニハ、役ニ立ツカ知レマセヌケレドモ、斯ノ如ク國民ノ尊重スベキ精神ヲ政策ニ利用セントスル如キハ、國家百年ノ後ニ禍ヲ貽スモノデアリマスカラ、私共ハ斯ウ云フ意味ニ於テ、政府ノ自力更生策ニ斷シテ贊成シ難イノデアリマス、大體ニ於テ現内閣ガ此案ヲ出シマスノハ、自力更生ノ餘地ガ無イニ拘ラズ、自力更生トヤッテシマッタカラ、今更取消ス譯ニハ行カナイ、何トカ共處ヲ胡麻化サウト云フノデ、

即チ此方ノ方ニ借金ノ途ヲ開イテヤルカラ  
金ヲ借り、ソコデ自力更生シロト云フ、  
斯ウ云フサモシイ根性カラ出タノデハナイ  
カト思ヒマスガ、此點ニ對スル現内閣ノ考  
方ハドウナノダ

モウ一ツ聞キタイコトハ、斯ウ云フヤウ  
ナ物マデモ借金ノカタニシテ、抵當權ノ設  
定ヲ許ス、斯ウナテ來タナラバ、同時ニ農  
業ニ關スル種々ナル保險制度ヲ設ケルコト  
ガ、常識上ニ於テモ當然デアル、寧ロ其方  
ガ根本策ナノデス、然ルニ其方ハ知ラヌ顔  
シテヤラス、此間多分政友會ノ諸君ノ提案  
ダト思ヒマスガ、民政黨モ吾々共モ色ミ妥  
協シタ結果、農業保險制度ノ案ガ衆議院ヲ  
通過シテ居ル、現内閣ハ衆議院ノ提案ヲ俟  
タズ、農業保險ノ如キハ率先シテ自ラ立案  
提案スベキモノデアル、然ルニソレハヤラ  
ナイ、サウ云フ根本的ノコトデハヤラズシ  
テ、單ニ斯ウ云フ法案ダケヲ出シテ知ラス  
顔ヲシテ居ル、私ハ現内閣ガ農村救済若ク  
ハ漁村救済ニ對シテ、幾何ノ誠意アルヤヲ疑  
ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)

次ノ點ハ、大體現在ノ——我國ニ於テ  
モサウデアリマスガ、世界ヲ通ジテノ  
新シキ法律ノ通念カラ申シマスレバ、本  
案ニ依ッテ金融ノ對象物トナテ居リマ

スモノハ、差押サレナイヤウニ、法律ニ  
依ッテ擁護シテヤルコトガ當然デアル、  
只今ノ法案ニ依ッテ金融ノ對象物トナテ居  
ル物ガ、差押サレタナラバ、農民ハドウシ  
テ生キテ行クノダ(拍手)勞働者ノ足ニ抵當  
權ヲ設定シ、手先ニ抵當權ヲ設定スル如キ、  
殘酷ナヤリ方デアル、斯ウ云フ物ヲ抵當ニ  
金ヲ借ルノダ、現内閣ハ飛ンデモナイ政治  
バカリヤッテ居ル、ロデハ農村ノ救済ト云  
フコトヲ言ッテ居リナガラ、米國ノ不景氣ガ  
ヤッテ來テ、一時ニ農作物ガ下落シテ、金ガ  
拂ヘナイト云フ時分ニ、本案ニ依ッテ抵當  
權ヲ設定サレタモノヲ差押ヘラレタナラバ、  
一體農民ハドウシテ拂フノダ、現在ノ法律  
ノ通念カラ言ヒマシテモ、斯ウ云フコトハ  
間違ッテ居ル、差押ヘラル、時ニナッテモ、  
ソレハ差押ヘラレナイヤウニ法律制度ヲ設  
ケルコトガ、私共ハ當然デナケレバナラス  
ト思フ、然ルニ斯ウ云フ馬鹿々々シイ法律  
ヲ作ッテ、農村救済ダト云フノデアルカラ、  
私共ハ現内閣ノ時代錯誤のナ考ヘ方ニ寧ロ  
呆レ返ザルヲ得ナイ、農林當局ハ此點ニ  
關シテ此法案ハ時代錯誤デアルト考ヘテ居  
ラナイカ

最後ニ此法案ハ最初ノ分ハ「農業」トダケ  
アッテ「農漁」ト書イテナイ、何故「農漁」ト

ヤラナカッタカ、極メテ簡單ナ質問ノヤウデ  
アリマスルケレドモ、現内閣ハ此法案ノ題  
目ニ漁業ノ漁ノ字ヲ落シタ、此點ハ落シタ  
ト云フ氣持ニ於テ、私共大ニ問題ニシナケ  
レバナラスコトガアルト思ヒマスルカラ、  
此點ヲ農林大臣ニ質問スル

詰リ以上私ガ質問セントシタコトヲ要約  
シテ申シマレバ、何故是程ノ重大ナ案ヲ今  
頃上程シテ、而モ緊急上程シテ、法案ガ今  
朝配ラレテ、ヤット見テ、此法案ニ關スル  
私共ガ内容ヲ知ッテヤウナコトデアッテハ、  
吾々ノ議員ノ審議權ヲ無視スルモノデア  
ル、誰デモ同感ダラウト思フ、苟モ衆議院  
ニ議席ヲ有ッテ居ル者ナラバ、斯ウ云フ馬  
鹿馬鹿シイコトヲサレテ、審議權ガ重ンゼ  
ラレタト思フ者ハ、唯ノ半カケデモ私ハア  
ルマイト思フ、此點ニ關シテ政府ハ、衆議  
院ノ審議權ヲ無視シタト思ハナイカドウカ  
ニ關スル質問、第二ハ、金ヲ借リルコトヲ  
世話シテヤッテ居ルノハ宜イガ、此借リタ金  
ヲドウスレバ返セルト思ッテ居ルカ、此點ガ  
一ツ、何故同時ニ農業保險制度ヲ實現シナ  
イカ、此點ガ一ツ、斯ウ云フ法案ニ依ッテ  
サレナイヤウニスルノガ當然ダト思フガ、  
農林當局ハサウ思ハナイカ、其次ハ自力更

生ノテレ隱シノ政策ニ對シテ、何トカ彌縫  
シタイト云フサモシイ根性カラ提案シタノ  
デアルカナイカ、其次ハ何故漁業ノ「漁」ノ  
字ヲ入レナカッタノカ、此點ニ關シ農林當  
局ノ明快ナル答辯ヲ求メマス、答辯ニ依ッテ  
ハ重ネテ質問致シマス(拍手)

(國務大臣後藤文夫君登壇)

○國務大臣(後藤文夫君) 只今議題トナ  
テ居リマスル今一ツノ法案、漁業法中改正  
法律案提出ノ理由ヲ先ニ説明致シマス、漁  
業法中改正法律案ヲ提出スルニ至リマシタ  
ノハ、現在ノ漁業法ニ於テ認メテ居リマス  
ル漁業組合ハ、漁業者ノ共同ノ團體デアリ  
マシテ、漁村ニ於ケル重要ナル機關デアリ  
マス、從來漁業權又ハ入漁權ノ主體トナリ、  
又組合員ノ爲ニ漁業ニ關スル各種ノ共同施  
設ヲ行ッテ參リマシタガ、現行ノ規定ノ下  
ニ於キマシテハ、漁村ノ經濟團體トシテノ  
機關ヲ十分ニ發揮スル上ニ、尙ホ遺憾ノ點  
ガアルノデゴザイマス、故ニ是ガ機能ヲ擴  
充シ、漁業組合ヲシテ眞ニ隣保共助ノ精神  
ニ基キ、漁村ノ中樞機關トシテ活動スルニ  
便ナラシメマスルコトハ、漁村經濟ノ更生  
ヲ圖ルノ方途ト致シマシテモ、極メテ肝要  
デアルト考ヘルノデアリマス

又時勢ノ變遷、漁業ノ進歩ニ伴ヒマシ

テ、現行漁業法中水産動植物ノ蕃殖、保護、漁業取締ニ關スル事項、其他ニ付キマシテモ、亦改正ヲ要スル點ガアルノデアリマス、仍テ漁業法中改正法律案ヲ提出致シマシタ其要旨ヲ簡單ニ申上ゲマス

第一ニ、漁業組合ノ目的ヲ擴張致シマシテ、新ニ組合員ノ經濟ノ發達ニ必要ナル共同ノ施設ヲ爲シ得ルコト、致シマシタ

第二ニ漁業組合ノ一種トシテ漁業協同組合ナル出資團體ヲ新ニ認メマシテ、特定ノ經濟施設ヲ爲シ得ルモノトシ、其組織ヲ無限責任、有限責任及保證責任ノ三種ト致シタノデアリマス、又之ト同時ニ、同種類ノ施設ヲ爲ス漁業協同組合ニアラザル組合ノ組織ハ、無限責任又ハ保證責任ノ二種ト致シマシタ

第三ニ、漁業組合聯合會ハ、前述ノ特定ノ經濟施設ヲ行フ漁業組合又ハ漁業組合聯合會ヲ以テ設定シ得ルコト、致シマシテ、其組織ハ、有限責任又ハ保證責任ノ二種類ト致シタノデアリマス

第四ニ水産動植物ノ蕃殖保護、漁業取締ニ關スル規定ニ必要ナル改正ヲ加ヘマシタ第五ニ、漁業權又ハ入漁權ノ處分等ニ關スル規定ニ付テ是正ヲ加ヘタノデアリマス、以上ハ本案ノ要旨デアリマス、何卒御

審議ノ上御協賛アラシコトヲ望ミマス

次ニ風見君ノ質問ニ御答致シタイト存ジマス、農業動産信用法案ヲ提出ハ、豫テ當局ニ於テ苦心調査ヲ致シテ居タ問題デアリマス、併ナガラ是ハ政府部内、他ノ省ト

色々關聯ノアル法案デアリマス爲ニ、法案ノ調査ニ手間ガ取レタノデアリマス、併シ事柄ハ比較的簡單ナ事柄デアリマス、折角準備ガ整ヒマシタ以上ハ、此法案ヲ提出致シマシテ、成ルベク速ニ實現ヲ圖リタイト云フ趣旨デ提案ヲ致シタ譯デアリマス、此法案ガ農業者、或ハ漁業者等ノ借金ヲ寧ロ容易ニシテ、却テ困ラセルノデハナイカ、サウシテソナナ品物ノ差押マデサレルヤウナコトニナツテ、却テ困ルデハナイカト云フ誤解ガ、動モスルト此法案ニ生ズルノデアリマス、所ガ全ク事實ハサウ云フ譯デハナイノデアリマス、現在或ハ賣渡抵當ト云フヤウナ方法デ、家畜等ヲ事實上抵當ニシテ金ヲ借りル場合モアリマス、或ハ漁船等ガ出漁致シマス際ニ、色々ノ品ヲ借りテ参リマシテ、歸リニ漁獲物デ拂フト云フコトモ行ハレテ居リマス、斯ウ云フ方法ノナイガ爲ニ、動産ノ占有ヲ移サズニ金ヲ借りルコトニ、色々ノ惡イ條件ガ伴フ場合ガ多いノデアリマス、此方法ガ立チマスレバ、サウ

云フコトガ行ハレテ、不利益ナ條件デ金ヲ借りルコトヲ免レシメルコトガ出來ルノデアリマス、實施ノ場合ヲズト考ヘマスト、決シテ弊害ノ起ル問題デハナクシテ、現在ノ農民漁民ノ資金ノ融通、殊ニ生産資金ノ融通ノ場合ニ、寧ロ便利ノ開カレル問題ナ

ノデアリマス、唯何人ニ對シテモ、斯ウ云フ方法デ金ガ借りラレルコトニシテ置キマスルト、弊害ノ生ズル虞ガアリマス、隨テ是等ノ方法デ金ヲ借り得ル、貸シ得ル主體ト云フモノハ、産業組合其他ノ法人ニ限ルト云フコトニ致シタルノデアリマス、是ハ我國バカリデナク、各國デ行ハレテ居リマシテ、相當ナ效果ヲ奏シテ居ル方法ナノデアリマス、此案ハ何カ農村救済ニ宜イ案ガ無イノデ、胡麻化シ出シタノデハナイカト云フヤウナ御非難ガアリマシタガ、決シテサウ云フモノデハアリマセヌ、サウ云フ點ニ付テノ言葉ヲ重ネテノ色々御非難ハ、全然私ハ承認スルコトハ出來マセヌカラ、御返シヲ致シタイト存ジマス

ソレカラ保險ハヤッタ宜イデヤナイカ、保險ハヤッタ宜イコトデアリマス、斯ウ云フ方法ト共ニ、保險ノ行ハレルコトヲ吾々モ希望致シマス、サウシテ保險ニ付テハ、今日色々調査ヲ致シテ居リマスルガ、マダ

此議會ニ提案スル程ニハ參ラナカッタノデアリマス、ソレカラ是ハ時代錯誤デハナイカト云フ御話ガアリマシタガ、斯ノ如ク時代ニ順應シタ案デアリマシテ、決シテ時代錯誤デハゴザイマセヌ、ソレカラ農業ノ文字ヲ使テ漁業ヲ入レナカッタノハドウ云フ譯カ、是ハ法案ノ第二條ニ、漁業ト云フモノ、此法案デ認メルコトニチャント書イタルノデアリマシテ、農業ト云フ意味ハ、原始産業ノ意味デ掲ゲタノデアリマシテ、農村漁村ノ住民ノ生業ヲ大體現ハス積リデ書イタルノデゴザイマス

○風見章君 議長

○議長(秋田清君) 簡單ナラバ議席デモ宜シウゴザイマス……

(風見章君登壇)

○風見章君 只今農林大臣ノ答辯ニ依リマスルト、何故モット早く程出シナカッタカト云フコトニ對スル答辯トシテハ、苦心調査シテ居ッタノデ手間ガ取レマシタ、斯ウ云フ譯デアアル、苦心調査シテ手間ガ取レタコトハ怠慢デハナイカ、大體此位ナ法案ヲ、今申上ゲタ如クソナ意味デ出スナラバ、農村問題ハ去年カラデアアル、議會劈頭ニ出シテモ宜イ筈デアアル、私ハ斯ウ云フモノヲ今頃ニナツテ出スコトハ、審議權ヲ輕ンズル所

以デハナイカ、斯ウ云フコトヲ尋ネタ譯デアリマス、尤モ吾々ノ審議權ヲ輕シタカ

輕シナイカ、斯ウ云フ重大ナ質問ニ對シテ、農林大臣ガ答辯出來ナイコトハ當リ前

カトモ思フ、モウ一ツ此法案ニ依ッテ借金ヲスル條件ヲ改善スルノデア、斯ウ云フ答

辯デアッタ、借金スル條件ヲ改善スルト云フナラバ、金融ノ圓滿ヲ圖ルナント云フ、デ

カイ「レ」テル」ヲ貼ラズニ、借金改善法案ダト言、タラ宜イデヤナイカ、サウ云フ大キ

イ言葉ヲ掲ゲテ來テ、内容ノ貧弱ナルモノヲ以テスルコトハ、即チ羊頭ヲ懸ケテ狗肉

ヲ賣ル類デア、羊頭狗肉ノ政策ガ、大體現内閣ノ附物デア、何デモ彼デモ話ハ大

キイケレドモ、政民兩黨ノ與黨諸君デモ、條件ヲ附ケタリ、嫌味ヲ附ケナクチャ賛成

出來ナイヤウナ、宜イ加減ナ案シカ出サナイデヤナイカ、私共ハ農林大臣ノ答辯サレ

ル如キ意味ナラバ、金融ノ圓滿ヲ圖ルナント云フ、大藏大臣ガ言フヤウナコトハ言ハ

ズニ、農村ノ借金ノ條件ヲ幾ラカ改善シタイト思フカラ出シマシタト、斯ウ言フナラ

バ幾分納得スル點ハアル、サウ云フ駄法螺ヲ吹イデハ相済マヌゾト云フコトヲ、私ハ

警告シテ居ル譯デアリマス（拍手）何故「漁」ト云フ字ヲ入レナカッタカ、此私ノ質問ニ對

シテハ、法案ノ中ニ漁業ト入、テ居ルカラ宜

イデハナイカト、斯ウ言フ、サウデヤナイ、私ハ斯ウ言フノデアリマス、大體日本ノ漁

業ハ農村ノ副業デヤナイ、副業ニシテ居、テハイケナイ、我國ノ特殊ナル情勢カラ考ヘ

テモ、本當ハ漁業省位ハ疾ウノ昔ニ出來テ居、デモ宜イ答デア、多年鎖國狀態ニ置カ

レタル日本ノ政治家ガ、ロニハ四面環海ト言ヒナガラ、狭イ田地ニバカリ考ヲ囚ハレ

テシマッテ、大切ナ漁業問題ヲ忘レテ居、タ、其因襲の考ガ、此法案ノ一端ニモ現レテ來

テ、農漁業ト言、タラ宜サ、ウナモノデア、ルノニ、農漁業片付ケテシマウ、サウ云フ

ナラバ何故農林省ト言フカ、漁業ガ我國ニ取、テ大切ナル産業デア、ルコトヲ考ヘタナ

ラバ、同時ニ又常ニ農業ノ保護ナル名ノ下ニ、漁村ガ保護サル、コトニ關シテハ、全國多

數ノ漁民ハ常ニ甚ダシク憤慨シテ居ル譯ナノデア、ル、繼子扱ヒニサレタガ如キ感シヲ有、

テ居ルコトハ、諸君ノ中ニモ漁民ニ接觸スル者ガアルダラウカラ御存知ダラウト思

フ、漁業問題ニ熱心ナノハ、國民同盟ダケデア、ル管ハナイ、政民兩黨ト雖モ此點ニ關

シテハ十分ナ關心ヲ拂フベキ管ナノデア、ル、拂フナラバ、漁民ノ氣持ヲ買、テヤル

位ハ當然ナコトデア、ル、ソレガ當然ナラバ

何モ漁業ノ「漁」ノ字ヲ儉約スル必要ハナイ

デハナイカ（拍手）ノミナラズ農林大臣ガ眞ニ能ク漁業行政ニ關シマシテモ本當ニ親切

ナラント欲スレバ、漁民ノ獨立性モ尊重シテ、此法案ニ關シテモ中ニ文字ヲ入レル以

上ハ、更ニソコニ現シテ「農漁」トヤルノガ當然デハナイカ、ヤラナイ所ニアナタ方

ハ、ロデハ何ト言、テモ、腹ノ中デハ漁業ヲ以テ農業ニ附隨スルモノダト云フ、徳川時

代ノ當時ノ如キ考ヲ以テ、今日ノ農村ニ臨ミツ、アル、此時代錯誤ノ考ガ現レテ居ル

コトヲ證明シテ居ルノダト斯ウ私共ハ考ヘザルヲ得ナイ

更ニ農林大臣ハ、私ガ現内閣ノ各般ノ施設ニ關シテ批判シタコトニ對シ、之ヲ御返

却スルト云フ譯ダガ、返却ハアナタノ與黨デア、ル民政黨ナリ政友會ナリニ返却スルガ

宜シイ、私共ハ返却サレル義理ハナイガ、何レ巨細ノコトハ委員會ニ於テ質問シマス

カラ、私ノ質問ハ是デ打切りマス（拍手）

○議長（秋田清君） 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○上田孝吉君 兩案ヲ一括シテ議長指名十七名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

アリマセヌカ

○議長（秋田清君） 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○上田孝吉君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、製絲業

法中改正法律案ヲ議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミ

マス

○議長（秋田清君） 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長（秋田清君） 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、政府提出、製絲業法中改正法律案ノ第一讀會ノ續

ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長武田德三郎君

製絲業法中改正法律案（政府提出）

第一讀會ノ續（委員長報告）

報告書

一製絲業法中改正法律案（政府提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和八年三月十四日 委員長 武田德三郎 衆議院議長秋田清殿

希望條項

政府ハ從來ノ方針ヲ繼續擴充シ乾藹取引ノ普及ヲ圖リ以テ養蠶業者ヲシテ生繭處理ノ合理化ヲ徹底セシムヘシ

〔武田德三郎君登壇〕

○武田德三郎君 製絲業法中改正法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス昨年六十三議會ニ於キマシテ、此製絲業法ガ制定サレマシタノデアリマスガ、ソレハ我國ノ製絲業ニ統制ヲ加ヘル目的ヲ以テ、免許制度ニ致シタノデアリマス、併シ其當時百五十釜以下ノ小製絲業ハ十箇年ノ猶豫期間ヲ與ヘルト云フ原案デアッタノデアリマシタガ、衆議院ニ於テ其制限ヲ撤廢スル修正案ガ通過シタノデアリマス、政府モ之ニ同意ヲ致シテ、現行法ト相成ツタノデアリマス、其結果ト致シマシテ、我國ノ製絲業ハ、極メテ小規模ノモノガ非常ニ澤山ニ現存シテ居ルト云フ狀態ニナツテ居ルノデアリマス、斯様ナ狀態ニ於キマシテハ、我國ノ製絲業ニ適當ナル統制ヲ加ヘテ、斯業ノ發達改善ニ資スルコトガ、頗ル困難ナ狀態ニ相成ツテ居ルノデアリマス、是ニ於テ此弱小ノ多數ノ製絲業者ニ、適當ナル統制ヲ加フルノニ、共同施設ヲ獎勵致シマシテ、之ニ獎勵金ヲ附與スルト云フコトハ、最モ

適切ナル施設デアルト云フコトデ、此改正案ガ提出ヲサレタノデアリマス、

委員會ニ於キマシテモ、各派ハ總テ此共同施設ヲ適當ナルモノト認メマシテ、質問應答モ僅カニ一回ニシテ終ツタノデアリマス、今日討論ヲ致シタル結果、政友會ノ横川君ヨリ希望條項ヲ附シテ、本案ニ賛成スルト云フ意見デアリマシタ、其希望條項ヲ申上ゲマス

政府ハ從來ノ方針ヲ繼續擴充シ乾藹取引ノ普及ヲ圖リ以テ養蠶業者ヲシテ生繭處理ノ合理化ヲ徹底セシムヘシ

斯様ナ希望ヲ附シテ原案ニ賛成ノ意見ヲ表明サレマシタ、之ニ對シマシテ、民政黨ノ田中君モ、同様ナ意見ヲ以テ賛成ノ意ヲ表明サレマシタ、又國民同盟ノ戸田君モ同様ナ意見ヲ發表サレマシテ、同ジク賛成ノ意ヲ表サレマシタ、斯クシテ採決ノ結果、全會一致本案ヲ可決致シタ次第デアリマスカラ、何卒皆サンノ御賛成ヲ得ルヤウニ御願ヲ致シマス、以上御報告致シマス（拍手）

○議長（秋田清君） 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（秋田清君） 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○上田孝吉君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決セラレントヲ望ミマス

○議長（秋田清君） 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（秋田清君） 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

製絲業法中改正法律案

第二讀會（確定議）

○議長（秋田清君） 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ（拍手）

○上田孝吉君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第九乃至第十二ノ繰上ゲ上程シ、逐次其審議ヲ進メラレシコトヲ望ミマス

○議長（秋田清君） 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（秋田清君） 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、日程第九及第十ハ同一委員ニ付託セラレタル議案ナルニ依リ、一括上程スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（秋田清君） 御異議ナシト認メマス、日程第九輸出生絲販賣統制法案、日程第十日本蠶絲株式會社法案ヲ一括シテ議題ニ供シ、第一讀會ノ續キヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長武田德三郎君

第九 輸出生絲販賣統制法案（胎中楠右衛門君外二名提出）

第十 日本蠶絲株式會社法案（胎中楠右衛門君外二名提出）

報告書 第一讀會ノ續（委員長報告）

一輸出生絲販賣統制法案（胎中楠右衛門君外二名提出）  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和八年三月十日

委員長 武田德三郎  
衆議院議長秋田清殿

報告書

一日本蠶絲株式會社法案（胎中楠右衛門君外二名提出）  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和八年三月十日

委員長 武田徳三郎

衆議院議長秋田清殿

〔武田徳三郎君登壇〕

○武田徳三郎君 輸出生絲販賣統制法案竝ニ日本蠶絲株式會社法案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス

此兩案ハ關聯ヲ致シタ法案デアリマシテ、即チ我國ノ現在ノ生絲ノ販賣ノ狀況ハ頗ル非合理的ノモノデアリマシテ、所謂橫濱、神戸ニ於ケル少數ノ問屋業者ハ、製絲業者ノ委託ヲ受ケテ、之ヲ輸出業者ニ販賣ヲ致シテ居ルト云フ實情デアリマスルガ、其輸出業者ハ僅ニ二三ノ有力者ニ依ッテ事實上輸出ヲサレテ居ルモノデアリマシテ、而モ資力ハ頗ル龐大ナルモノデアリマス、然ルニ之ヲ對抗スル所ノ

〔議長退席、副議長著席〕

問屋業者ト云フモノハ、其數モ頗ル多クアリ、資力モ極メテ薄弱ナルモノデアアルノデアリマス、而シテ此販賣ニ當リマシテハ、對等ノ立場ニ於テ商賣スルコトガ困難ナ實情ニナッテ居ルノデアリマス、同時ニ又我國ノ製絲業者ト云フモノハ、頗ル資力ノ少イ、「スケール」ノ小イ、多數ノ製絲業者ニ依ッテ現在經營サレテ居ルノデ

アリマス、而モ是等ノ少數ノ製絲業者ハ、

其資力ノ不十分ナル點カラ、又少シク

相場ガ下ルト云フヤウナ傾向ノアル場合

ニ於テハ、實急ギノ結果濫賣ノ弊ガ今日ニ

於テ現ハレテ居ルノデアリマス、是ガ爲ニ

製絲業者モ非常ナ困難ノ狀態ニ陥リ、問屋

モ亦隨テ困難ノ狀態ニ陥ッテ居ルト云フノ

ガ現狀デアリマス、吾ニ我國ノ生産者ガ、

斯様ナ實情ニ於テ困難ヲ感ジテ居ルノミナ

ラズ、需要者タル亞米利加ノ機屋竝ニ生絲

業者モ、斯様ナ實情ニ於テ生絲ノ相場ガ非

常ナ亂高下ヲ致スコトヲ迷惑ガッテ居ルト

云フコトハ、今日ノ實情デアリマス、亞米

利加ノ機屋其他ノ製絲業者ハ、多少値段ハ

高クテモ宜イカラ、相場ノ亂高下ノナイヤ

ウニ、日本ノ生絲ノ相場ノ安定センコトヲ

希望シテ居ルコトハ今日ノ實情デアリマ

ス、此實情ニ副ハンガ爲ニ、我國ノ生絲ノ

販賣ヲ合理化シ、之ニ相當ナ統制ヲ加ヘタ

イト云フノガ、本案提出ノ主ナル目的デア

ルノデアリマス、同時ニ先程申上ゲマシタ

ル如ク、今日橫濱、神戸ニ於ケル問屋ト云

フモノハ、頗ル弊害ノ多イ賣買ノ仕方ヲ致

シテ居ルノデアリマシテ、而モ弱イ製絲業

者ニ取リマシテハ其手數料ガ一定シテ居ナ

イト云フヤウナ實情ニ相成リマシテ、小ナ

ル製絲業者程、餘計ナ手數料ヲ拂ハナケレ

バナラスト云フ窮狀ニ陥ッテ居ルノデアリ

マス、然ルニ本案ノ趣旨カラ申シマスルト

云フト、半官半民ノ會社ニ致シマシテ、産

業組合ノ精神ヲ酌取ッテ、利益ヲ目的トセザ

ル所ノ會社トシテ、此經營ヲセシメヨウト

云フノガ本案ノ趣旨デアリマスルカラ、其

結果手數料ヲ減ズルコトモ出來ルト云フ結

果ニ相成ルノデアリマス、尙ホ又今日ノ問

屋ハ、一二ヲ除キマシテハ、其資力ハ頗ル

薄弱デアリマシテ、製絲業者ニ金融ヲ致ス

上ニ於テ頗ル不滿ノ點ガ多イノデアリマ

ス、然ルニ此計畫ノ如クニ致シマスルナラ

バ、即チ資力ノ十分ナル半官半民ノ會社デ

アリマスルカラ、其資本ノ充實セル點カラ

申シマシテモ、亦信用ヲ利用シ得ル點カラ

申シマシテモ、製絲業者ニ製絲ノ金融ヲ與

ヘル上ニ於テ、極メテ合理的ニ、極メテ便

宜ナ方法ヲ用フルコトガ出來ルヤウニ致シ

タイト云フノガ本案ノ主ナル趣旨デアアル

デアリマス、斯様ナ次第デアリマシテ、本

案ハ我國ノ製絲業竝ニ蠶業全體ノ統制ノ根

本ヲ爲スモノデアリマシテ、極メテ重大ナ

ル意味ヲ有ッテ居ル所ノ法案デアアルノデア

リマス

委員會ニ於キマシテハ、數日ニ互リマシ

テ、委員諸君ノ間ニ極メテ熱心ニ、且ツ又

有益ナル質問應答ガ、提案者竝ニ政府委員

ト、委員會間ニ行ハレタノデアリマス、其詳

細ナルコトハ速記録ニ於テ御承知ヲ願フコ

ト、致シマス、其中最モ必要ナル一二ノ點

ダケヲ御紹介致スコトニ止メテ置キタイト

思ヒマス

第一ノ質問ハ、民政黨ノ方カラ發セラレ

タノデアリマシテ、此本案ヲ見ルト云フ

ト、販賣ヲ統制スルト云フケレドモ、此組

織ニ於キマシテハ、單ニ問屋ヲ合同セシメ

タト同ジャウナ結果ニ相成ルノデハナイ

カ、又斯様ナ組織ノ下ニ於テ、生絲ノ價格

ノ維持竝ニ安定ヲ圖ルコトガ出來ルカドウ

カ、斯様ナ質問デアリマス、是ニ對シテ提

案者ノ答辯ハ、本案ノ本來ノ目的ガ、

價格ノ維持統制安定ニ在ルノデハナ

イ、先程本案ノ趣旨ヲ説明致シマシタル

如キ次第ヲ提案者カラ述べラレマシテ、

此法案ノ主ナル目的ト云フモノハ、販

賣ヲ合理化サスト云フコトニアアルノデア

ル、隨ッテ經濟ノ實情カラシテ、生絲ノ値ガ

自然ニ上リ、自然ニ下ルト云フコトヲ敢

テ阻止セントスルノデハナイ、唯不自然ノ

亂高下ダケヲ防グト云フコトガ、此案ノ目

的デアアルノデアルカラ、必シモ價格ノ維持



安定ト云フコトハ、本案ノ目的デアルノデ  
ハナイ、斯様ナ答辯デアリマシタ、ソレデ  
尙質問者ハ、然ラバ本案ノ如キ組織ニ依ラズ  
トモ、現在行ハレテ居ル所ノ問屋ヲ免許可  
度ニシタナラバ、同一ノ結果ヲ得ラレルデ  
ハナイカ、若クハ又地方ノ製絲業者ノ出荷  
組合ニ法人格ヲ與ヘテ、サウシテ共同販賣  
ヲセシムルヤウナ方法ヲ執ッタナラバ、同一  
ノ結果ヲ得ラル、デハナイカ、何故ニ殊更  
ニ半官半民ノ會社ヲ作ッテ、政府ガ多大ノ負  
擔ヲシナケレバナラヌト云フヤウナ案ヲ  
作ッタノデアルカ、斯様ナ質問デアリマス、  
是ニ對シテ提案者ハ、成程質問者ノ意見ニ  
對シテハ、提案者モ反對ハナイ、併ナガラ  
今日我國蠶絲業ノ狀態ト云フモノハ、非常  
ナ危急ナ立場ニ立ッテ居ルノデアッテ、左様  
ナ暢氣ナコトヲ言ッテ居ラレルモノデハナ  
イ、出荷組合モ適當デアルケレドモ、日本  
ノ今日ノ實情ヲ見ルト言フト、是ガ左様ナ  
統制アル販賣ヲ致スマデニ其組織ヲ完了セ  
シムルニハ、如何様ニ政府ガ獎勵努力ヲ致  
シマシテモ、三年ヤ五年ニ於テ、出荷組合  
ガ完全ニ全國ニ互ッテ是ガ行ハレテ、由テ  
以テ共同販賣ヲ致シテ、統制ヲ加ヘルト云  
フヤウナコトハ、中々企圖スルコトハ出来  
ナイノデアル、斯様ナ答辯デアリマス、又

問屋組合ノコトニ付テハ、ソレヲ免許可制度  
ニスルカシナイカト云フコトハ、決シテ提  
案者トシテハ異論ガナイ、併ナガラ本案ノ  
目的ソレ自身ガ、問屋ヲ合同セシムルト云  
フコトデナイノデアルカラ、問屋制度ヲ如  
何ニ改良スルカト云フコトハ、本案ニ對ス  
ルの外レノ質問デアアル、斯様ナ答辯デアリ  
マス、更ニ政友會ノ方カラ、農林大臣ニ一  
ツノ質問ガアリマシタ、ソレハ昨年ノ六十  
三議會ニ於キマシテ、蠶絲業法ヲ政府ガ提  
出致サレマシテ、之ニ衆議院ガ協賛ヲ與ヘ  
ルニ際シ、附帶決議ヲシテ居ルノデアアル、其  
附帶決議ニハ、蠶種ノ國營案竝ニ輸出生絲ノ  
販賣統制法案ガ、我國蠶絲業ノ現狀ニ於テ  
極メテ必要ガアルカラ、政府ハ次期議會ニ  
於テハ、是等ノ法案ヲ必ズ提出スベシト云  
フ意味ノ附帶決議ガアッタノデアアル、然ルニ  
政府ハ、此附帶決議ニ重キヲ置カズシテ、  
今日最モ必要ナル此法案ヲ提出シナイノハ  
如何様ナ譯デアアルカ、斯様ナ質問デアリマ  
シタ、之ニ對シテ農林大臣ハ、農林當局ト  
致シマシテモ、總テ蠶絲業ニ向ッテ適當ナ  
ル統制ヲ加ヘルコト、即チ蠶種ニ向ッテハ  
之ヲ國家ガ管理シ、又販賣ニ向ッテモ適當ナ  
ル統制ヲ加ヘルト云フコトニ向ッテハ、最モ  
必要デアルト云フコトヲ認メテ居ル、併シ

是等ハ極メテ重大ナコトデアッテ、外國ト  
ノ關係上、微妙ナ働キヲナス虞ガアルノデ  
アルカラ、慎重ノ上ニモ慎重ヲ加ヘテ調査  
スルノ必要ガアル、然ルニ政府ハ未ダ確信  
アル提案ヲ得ルコトガ出来ナイノデ、遺憾  
ナガラ今期議會ニハ之ヲ提案スルコトハ出  
來ナカッタノデアアルガ、更ニ鋭意調査ヲ進メ  
テ、成ルベク速ニ是等ニ關スル法案ヲ提出  
シタイ、斯様ナ答辯デアッタノデアリマス  
斯クシテ質問ハ打切ラレマシテ、討論ニ  
移ッタノデアリマス、民政黨ノ小山ヨリモ  
本案ニ對シテ、大體統制ハ必要ト認ムルケ  
レドモ、本案ノ内容ニ付テハ、尙ホ幾多  
ノ調査ヲ進メテ見タイ點ガアル、更ニ又  
農林當局ニ於テモ、適當ナル調査機關ヲ  
設ケテ、是等ニ向ッテ更ニ一段ノ調査ヲ  
進メルト云フコトヲ言ッテ居ラレルノデ  
アルカラ、此農林當局ノ慎重ナル調査ヲ  
俟ッテ、此統制案ヲ成立セシムルモ必シモ  
遅クハナイト思フカラ、左様ナ意味ニ於テ、  
本案ノ趣旨ニ反對スルノデハナイガ、慎重  
ナル態度デ今一段ノ調査ヲ進メルト云フ趣  
旨ニ於テ本案ニ反對スル、斯様ナ御議論デ  
アリマシタ、政友會ニ於テハ、左様ナ農林  
省ノ言フヤウナ、サウ云フ暢氣ナコトヲ言  
テ居ルト云フコトハ、我國ノ蠶絲業ノ現狀

ハ之ヲ許スモノデハナイ、政府ハ既ニ中央  
蠶絲會ニ向ッテ、自己ノ有ツ所ノ成案ヲ示シ  
テ、諮問シテ居ルデハナイカ、之ニ向ッテ  
蠶絲會ガ、唯色々ナ利害關係上、議論ガ一  
致シナクテ、ソレニ向ッテ賛成デアルトカ反  
對デアルトカ云フ答申ハシナイトシテモ、  
其議論ノ在ル所、其趨勢ヲ見ルナラバ、一  
切ノ蠶絲業者全體ニ於テモ、此販賣ニ向ッ  
テ統制ヲ加ヘルノ必要ヲ認メテ居ルト云フ、  
此趨勢ヲ見ルコトハ決シテ困難デハナイノ  
デアアル、況ヤ政府ハ、自己ノ信念ヲ以テ其  
成案ヲ示シテ、中央蠶絲會ニ之ヲ諮問シタ  
以上ハ、其答申如何ニ拘ラズ、自己ノ信念  
ニ依ッテ之ヲ提案スルト云フコトガ最モ必  
要ナコトデアアル、斯様ナ趣旨カラ本案ヲ成  
立セシメタイト云フ議論デアリマシタ、斯  
クシテ採決ヲ致シマシタ結果、大多數ヲ以  
テ、本案ハ本會議ニ於テ可決セラレンコト  
ヲ望ムト云フ意味ノ決定ニ相成リマシテ、  
可決確定シタ次第デアリマス、右様ノ次第  
デアリマスカラ、何卒諸君ニ於カレマシテ  
モ、本案ニ御賛成ヲ下サッテ、本案ヲ可決  
確定セラレンコトヲ、偏ニ御願致シマス  
(拍手)  
○副議長(植原悦二郎君) 通告順ニ依ッテ  
討論ヲ許シマス——小山邦太郎君

〔小山邦太郎君登壇〕

○小山邦太郎君 私ハ只今議題ニナリテ居リマス此二ツノ法案ニ對シマシテ、私共ノ意見ヲ申述ベテ、併セテ其態度ヲ表明致シタイト思ヒマス、即チ輸出生絲販賣統制法案竝ニ日本蠶絲株式會社法案ノ提案ノ理由、目的トスル所ハ、販賣處理ノ上ニ適當ナ統制ヲ加ヘ、價格即チ絲價ノ安定ヲ圖ルニアルト云フノデアリマスカラ、之ニハ吾々モ勿論大賛成デアアルノデアリマス、併ナガラ其目的ヲ遂行スル爲ニ立案セラレマシタ二ツノ法案ノ内容ヲ檢討シテ見マスレバ、此規模、計畫ヲ以テシテハ、價格ノ安定ニ對スル何等ノ機能モ發揮スルコトガ出來ナイト云フコトハ、明瞭ニ提案者ニ依ッテモ説明セラレテ居ルノデアリマス、又更ニ是ガ實行ノ上ニ、將來起ルベキ重大ナル問題、即チ營業權ノ買收等ハ、何レモ、其根本的調査研究ヲ缺イテ居リマスカラ、私共ハ此法案ノ重大性ニ鑑ミマシテ、徒ニ論議ヲ重ネテ反對ノ意見ヲ述ブルヨリハ、繼續研究ノ態度ニ出ヅルヲ以テ妥當ナル態度ナリトシテ、ソレヲ要求致シテ居ルモノデアリマシタガ、不幸ニシテ委員會ハ、先程委員長ノ報告ノ通りノ結果ニ終リマシタ、今本會議ニ於テ此贊否ヲ敢テ決セラル、ナラバ、遺憾ナガラ其趣旨ニハ賛成デアアルケレドモ、其趣旨ノ徹底ヲ期スルニ足ラザル、内容貧弱ナル法案トシテ反對セザルヲ得ナイノデアリマス（拍手）

皆サン、先ヅ輸出生絲販賣統制法案ニ付テ申上ゲマスレバ、日本カラ輸出スベキ生絲、若クハ輸出會社ニ販賣スベキ生絲ハ、舉ゲテ此法律ニ依ッテ組織セラルベキ日本蠶絲會社ノ手ヲ經ザレバ、賣ルコトガ出來ナイトナリテ居リマス、ケレドモ一方ニ於テハ、輸出業者ハ從前通りノヲ認メテ居ル、製絲業者ニシテ直接販賣スル者モ亦其儘認メル、又他方ニ於テハ産業組合製絲ニ依ッテ組織セラレテ居ル販賣組合モ亦從前通りデアアル、然ラバ今後我國ノ生絲ヲ輸出スベキ取扱機關ハ、別個各様ニ、獨立シタル會社若クハ個人ガ約三十有餘軒アツテ、各、其自由裁量ニ依ル統制ナキ活動ヲスルト云フコトニナリマシテ、販賣統制ト云フ立派な名前ハ打ッタルケレドモ、其間何等統制ノ機能ヲ發揮シ得ナイコトガ、ハッキリシテ居ルデハアリマセヌカ、此意味ニ於テ私ハ反對スルヨリハ、洵ニ其理由トスル所ハ結構な案デアリマスカラ、繼續研究ヲ願ヒタイト云フノガ第一ノ理由デアリマス

第二ニハ、此法案ヲ實行スルナラバ、現在アリマス問屋ハ自ラ廢業ノ運命ニ置カレルノデアリマス、而シテ其廢業ニ對シテ、營業權買收ヲ政府ニセシメルト書イテアリマス、政府ニセシメル營業權買收ノ總額及營業權査定ノ標準ヲ何ニ據ルカト云フト、ソレハ明示サレテ居ナイ、若シ其研究ガ足リナイナラバ、是レ明ニ調査研究不十分ナリト難ゼラル、モ敢テ辯解ノ辭ガナイデハアリマセヌカ、更ニ又之ヲ政府ニ一任シテ行クナラバ、若シ其額ガ多イ時ハ、國民ノ耐ヘザル負擔トナリ、少キニ失スル時ハ、又當業者ノ應諾致サザル所トナルデアラウ、當業者ノ不應諾ヲ構ハズ、國民負擔ノ如何ヲ無視シテ、唯、政府權力ノ發動ニ一任スルナラバ、ソレハ暴政ニ墮スルノ處ガアルノデアリマスカラ、是亦研究ノ餘地アリトシテ、私共ガソレヲ主張スル第二ノ理由デアリマス

第三ニハ日本蠶絲株式會社ト云フモノハ、丁度直接輸出スベキ者、若クハ産業組合製絲ニ關係スル者以外ノ製絲業者ノ共同販賣ノヤウナモノダカラ、此程度ノコトダケナラバ、今日本會議ヲ全會一致デ可決サレマシタ製絲業法中改正法律案ノ共同施設ノ徹底ト、一方ニ於テハ問屋ニ對スル免許資格制度ヲ定メ免許制ヲ布クコトニ依ッテ、現在行ハレテ居

ル所ノ幾多ノ弊害ハ十分ニ矯正シ得ル見込ガアルト思ヒマスノデ、是等モ考慮ノ中ニ加ヘテ貰ヒタイト云フコトヲ、主張シタ第三ノ理由デアリマス

第四ハ資本金四千萬圓ト書イテアル、然ラバ其四千萬圓ニシナケレバナラヌ基礎的數字ハ何處ニアルカト申スト、是ハ明瞭デナイ、ソレト今一ツニハ、賣買ノ數量ガ一致シタ時ハ問題ハアリマセヌガ、買手ガ少クテ、賣手ノミガ多イ時ニ、之ヲ如何ニ加減按配スルカト云フコトヲ、舉ゲテ將來ノ研究ニ委セルト云フコトデアリマスカラ、數ヘ來レバ不備、缺點、舉グルニ遑ナキ法案ノ内容デアリマスノデ、其提案ノ理由ハ結構デアアルケレドモ、中味が如何ニモ殘念ナガラ貧弱デアアルカラ、續イテ御研究ヲ願ヒタイト云フコトヲ主張シタ第五ノ理由デアリマス

皆サン、更ニ賛成論者ノ意見ノ二三ニ付テ申上ゲマス、賛成サレル方ハ、既ニ販賣統制ハ、我國ノ國論ノ一致シテ居ル所デアアル、若シ之ニ反對スルガ如キコトアラバ、ソレハ養蠶家ノ利益ヲ無視スルモノデアルト云フ主張モアリマシタ、成程販賣統制ニ依ル絲價ノ安定ハ、何レノ蠶絲關係者モ求メテ居ル所デアリマスガ、其窮極ノ目的ハ

販賣統制ニ非ズシテ、價格ノ維持ニアルノ  
デアリマス、價格ノ維持ヲ得タイ爲ニ、販  
賣統制ノ手段ヲ求メルノデアリマス、然ル  
ニ先程申シタ通り、此法案ニ依ッテハ價格  
ノ維持ハ出來ナイト云フコトヲ提案者自ラ  
ガ明瞭ニ説明シテ居ル以上、是コソ本當ニ  
先程風見君ノ農林當局ニ對シテ言ハレタ御  
言葉ノ如ク、羊頭狗肉ノ法律ナリト言ハル  
ルモ致方ナイ、私共ハサウ云フコトヲ申上  
ゲタクナイ、大切ナル法律デアッテ、而モ  
提案者ノ目的トスル所ハ洵ニ結構デアルノ  
デアルカラ、ドウカ此事ハ徒ニ反對ノ聲ヲ  
大ニスルヨリハ、繼續研究ヲシテ、サウシ  
テ其根本の方策ヲ誤ラナイヤウニシタイ、  
當業者モ既ニ數箇月ニ亙ッテ此問題ヲ研究  
サレテ、尙ホ結論ニ到達シナイノデ、今尙  
繼續研究ヲシタイト言フ、政府亦ドウデア  
ルカト云フト、既ニ調査費ヲ計上シテ、調  
査研究ニ入ルベキ準備ヲ急イデ居ルノデア  
リマスガ、吾々ハスル根本問題ハ今待ッテ  
居ルコトノ出來ナイ、所謂拙速ヲ尊ブ底ノ  
問題デナイノデアリマスカラ、繼續研究ノ  
上、慎重ニ審議ヲ致シマシテ、其途ヲ誤ラ  
ナイヤウニ致シタイト云フノガ、吾々ノ即  
決可決ニ反對ノ理由デアリマス、ドウゾ此  
意味ニ於キマシテ、政黨の集團のニ決スル

ナラバ、吾々ハ自ラ破ル、ノデアリマセウ  
ガ、斯ル重大ナル問題ニ付テハ、何レ私ノ  
後ニ又贊成演説モアリマセウカラ、ソレヲ  
能ク御聽取リ下サイマシテ、自由ノ立場カ  
ラ自由ノ御判斷ヲ願ヒ、法案取扱ヒノ上ニ、  
且又斯業ノ爲メ慎重ナル態度ニ出デラレン  
コトヲ望ンデ已マザル者デアリマス（拍手）  
○副議長（植原悦二郎君） 近藤壽市郎君  
〔近藤壽市郎君登壇〕  
○近藤壽市郎君 諸君私ハ只今茲ニ上程サ  
レマシタ輸出生絲販賣統制法案、竝ニ日本  
蠶絲株式會社法案ニ付キマシテ、只今委員  
長ガ報告致シマシタ通り、原案ニ贊成スル  
者デアリマス、仍テ成ベク是ガ贊成ノ理由  
ヲ簡單ニ述ベ、サウシテ諸君ノ御賛同ヲ仰  
ギタイト存ズルノデアリマス、輸出生絲販  
賣統制法案ト、日本蠶絲株式會社法案トハ、  
御承知ノ如ク一括シテ議題トナッテ居リマ  
スルガ、此二案ハ最モ關聯シテ居ル所ノ、不  
可分ノモノデアリマスカラ、隨テ是ガ理由  
モ、總括的ニ私ハ申上ゲテ見タイト存ジマ  
ス

抑、我國ニ於ケル農家ノ重要物產ト致シマ  
シテハ米ト繭デアリマスガ、其米ニ對シマ  
シテハ、既ニ今議會ニ於キマシテ政府ヨリ  
米穀統制法案ヲ提出シ、本會ニ於キマシテ  
滿場一致ヲ以テ可決シタノデアリマス、然  
ルニ繭ト云ヒ、蠶種ト云ヒ、生絲ト云ヒ、  
何レモ是等ノ統制ヲ圖ルベキ重要問題ニ對  
シマシテハ、委員會デモ幾人カ此事ニ付テ  
ハ農林大臣或ハ農林當局ニ尋ネタノデアリ  
マスルガ、政府ガ提案スルニ至ラナカッタ  
ノデアリマス、ソレハ何故ニ政府ガ提案セ  
ナカッタカト申シマスルト、只今委員長ガ報  
告サレタ如ク、外國トノ關係微妙ナルモノ  
ガアリ、尙ホ大ニ調査スベキ點ガアルトカ  
申シマスルケレドモ、私共此内容ヲ探ッテ  
見マスルト、其實ハ農林當局ニ於テハ十分  
是等ノコトハ辨ヘテ居ラレマスルケレドモ、  
大藏當局トノ關係上、多クハ經費ノ點ニア  
ルヤウデ、別段是等ノ案ニ對シテハ農林當  
局ハ反對ノ御意見ヲ有ッテ居ルモノデナイ  
ト云フコトヲ私共ハ感じテ居ルノデアリマ  
ス、殊ニ昨年臨時議會ニ於キマシテ、政府  
ハ製絲業者ノ蠶種統一ヲ圖ル爲メ、製絲業  
法案ヲ提出致シマシテ、本會ニ於キマシテ  
ハ御承知ノ通り滿場一致ヲ以テ可決シ、又  
貴族院ニ於キマシテモ是ガ可決ヲ致シマシ

テ、直チニ法律トナッテ實施サレテ居ルノ  
デアリマス、其際ニ此衆議院ニ於キマシテ  
ハ、蠶種ノ統制ヲ圖ルニハ單ニ製絲業法ノ  
ミヲ以テ足レリトスルモノデナイト云フ見  
地カラ斯ウ云フ附帶決議ヲ其時ニシタノデ  
アリマス「政府ハ時代ノ趨勢ニ鑑ミ原蠶種  
國家統制、生絲販賣統制其ノ他共同施設助  
成ニ關スル法律案ヲ次期議會ニ提出シ以テ  
蠶絲業根本政策ヲ確立シ併セテ本法ヲシテ  
更ニ一段ノ效果アラシムベシ」斯ウ云フ附  
帶決議ヲ、而モ滿場一致デ可決シタノデア  
リマス、此附帶決議ハ、政府ヲシテ蠶絲業  
ノ根本政策ヲ樹テサスベク要望シタノデア  
リマス、蠶絲業ノ根本政策ハ、蠶種ノ統制ニ  
依ッテ養蠶家ニ繭ヲ改良サスルトカ、又ハ蠶  
絲業法ニ依ッテ製絲ノ統制ヲ圖リ、販賣統  
制ニ依ッテ絲價ノ安定ヲ圖ルト云フ風ニ、何  
レモ竝行シテ進マネバ何等效果ヲ奏セザルノ  
ミナラズ、現在窮境ニ陥ッテ居ル所ノ養蠶  
家竝ニ製絲家ハ容易ニ救ハレナイと思フノ  
デアリマス、本案ノ如キハ、既ニ發布サレ  
テ居ル製絲業法竝ニ本會議ニ於テ過日可決  
セラレマシタル原蠶種國營管理法ト、殆ド  
一身同體ノ如キ關係ヲ有スル重要法案デア  
リマスルカラ、一日モ早ク是ガ實施ヲ見ル  
ニ至ラシメテ、而シテ行詰レル蠶絲業ノ發

展ヲ圖ルコトハ、刻下ノ急務中ノ急務デア  
ルト私ハ存ズルノデアリマス、是等ノ意味  
ヲ以テマシテ、既ニ今期議會ニ於テ原蠶種  
國營管理法案ハ、滿場一致ヲ以テ可決シタ  
ノデアリマスカラ、本案モ滿場一致ヲ以テ  
可決スルノガ、私ハ當然過ギル程當然デア  
ルト思フノデアリマス、只今之ニ對シテ、  
民政黨ノ小山君ヨリ反對ノ御意見ガ出タノ  
デアリマスケレドモ、小山君ハ昨年モ製絲  
業法ノ委員ノ御一人デアッタノデアリマス、  
其時ニヤハリ此附帶決議ヲ附ケルコトニ付  
キマシテハ、大ニ力説セラレテ、一日モ早  
ク是ガ統制ヲヤラネバ救ハレルコトハ出來  
ナイト言ハレタノデアリマス、然ルニモ拘  
ラズ内容ガ貧弱デアルカラ、内容ガ整ウテ  
居ナイカラ、此案ノ根柢カラ否決論ヲ主張  
スルト云フニ至リマシテハ、實ニ驚キ入ッ  
ル次第デアルト私ハ思フノデアリマス(拍  
手)案其モノ、内容ニ付テハ、惡イ所ガア  
リマシタナラバ、御修正爲サルナラバ兎ニ  
角、本案ニ對シテ根柢カラノ反對ヲスルト  
云フニ至リマシテハ、製絲ニ關係アリ、蠶  
絲ニ關係アル民政黨ノ小山君トシテハ、單  
ニ民政黨ノ立場ニアルガ故ニ、政友會ノ提  
案ノ此案ナルガ故ニ反對ヲシタノデハナイ  
カ、私ハサモシイ心ト思フノデアリマス

(拍手)昨年附帶決議ヲ滿場一致デ可決シ、  
政府ニ提案ヲ要求致シマシタ、政府ガ提案  
セヌカラト云ウテ、政府ノ提案スルマデ、  
百年モ二百年モ待ッテ居ラウト云フヤウナ、  
ソナナコトヲシテ居リマシテハ、此蠶絲業  
界ノ、養蠶家及製絲家ト云フモノハ顎ガ乾  
上ッテシマフノデアリマス(拍手)尙ホ細カ  
イ反對ノ御議論ト致シマシテ、提案者ニ向ッ  
テ質問シタラバ、此内容ノ答辯ガナッテ居ラ  
ストカ、此點ニ於テハ是ガ出來ナイトカ言  
ヒマスケレドモ、決シテサウデハナイノデ  
アリマス、速記録ヲ御覽ニナルト分リマス、  
委員會ノ速記録ヲ見テ、ソレハ小山君其人  
カラ、提案者其人ニ對シテノ質問ヲ致シマ  
シタ其事ガ御自身ノ頭ニ十分ニ入ラヌ點ハ  
アツタカモ存ジマセヌ、御意見ノ合ハザル點  
ハアツタカモ知レナイケレドモ、ソレハ意見  
ノ相違デアリマス、私ハ此案ハ、兎ニ角本體  
ニハ小山君ハ何等反對デナイ、贊成デアルト  
仰セラレタ、此一言ニ依ッテ、私ハ全體ニ是ハ  
御贊同ノアルベキモノダト確信致シマス、  
故ニ本會ニ於ケル多數ノ諸君ハ勿論、委員  
會ニ於テ反對爲サレル諸氏ニ於カセラレ  
マシテモ、而モ小山君モ御反省爲スッテ、  
全國ノ二百万養蠶家ノ爲メ、製絲家ノ爲メ、  
蠶絲業界ノ爲メ、是非トモ御意思ヲ御願シ

ニナリマシテ、滿場一致ヲ以テ御贊成アラ  
シコトヲ偏ニ希望致シマス(拍手)  
○副議長(植原悦二郎君) 戸田由美君  
(戸田由美君登壇)  
○戸田由美君 私モ本案ニ對シマシテ極メ  
テ簡單ニ吾々國民聯盟トシテノ意思ヲ表明  
致シタイト思フノデアリマス、私共ハヤハ  
リ小山君ノ御趣旨ニ基キマシテ、本案ノ提  
案ノ御趣旨ニハ贊成ハ致シマスルガ、其效  
果ヲ考ヘマシタ場合ニ於キマシテ、效果少  
イノミナラズ、寧ろ現在ノ我國ノ蠶絲業界  
ノ情勢ニ鑑ミマシテ、或ハ却テ有害無益ノ  
結果ニ陥ラザルヤト云フコトヲ恐レマスガ  
故ニ、此案ノ取扱ヲ最モ慎重ニ致シ、而シ  
テ政府當局ヨリ最モ意義アル、效果アル提  
案ヲ一日モ速ニサセルト云フ意味ニ於キマ  
シテ、遺憾ナガラ反對ヲ致シタイノデアリ  
マス、只今近藤君ガ小山君ニ對シマシテ、  
色々論難攻撃ガアリマシタガ、之ヲ私ハ聞  
キマシテ、一層本案ヲ即決スルノ不可ナル  
コトヲ悟ッタノデアリマス、即チ諸君ハ現内  
閣ノ兩與黨ト致シマシテ、最モ我國ニ重大  
ナル蠶絲業ニ付キマシテハ、最モ良キ案ヲ  
共同一致シテ提案セシムルノガ本來ノ御役  
目デアルノニ拘ラズ、與黨側ニ於テ案ノ一  
致セザル、練リ合ノ足ラザル案ヲ以テ、良

イトカ惡イトカ論議サレルコトガ、此案ノ  
不完全、不徹底ナルコトヲ私ハ感ジマシテ、  
洵ニ政友會ノ諸君ノ御盡力ニ對シテハ相濟  
マスノデアリマスガ、私共國民同盟ト致シ  
マシテハ、此案ニ遺憾ナガラ反對セザルヲ  
得ナイノデアリマス(拍手)  
○副議長(植原悦二郎君) 兩案ノ第二讀會  
ヲ開クニ贊成ノ諸君ハ起立  
(贊成者起立)  
○副議長(植原悦二郎君) 起立多數、仍テ  
兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ  
○上田孝吉君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開  
キ第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り  
可決セラレンコトヲ望ミマス  
○副議長(植原悦二郎君) 上田君ノ勸議ニ  
御異議アリマセヌカ  
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)  
○副議長(植原悦二郎君) 異議ナシト認  
メマス、直ニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ議案全  
部ヲ議題ト致シマス  
輸出生絲販賣統制法案  
第二讀會(確定議)  
日本蠶絲株式會社法案  
第二讀會(確定議)  
○副議長(植原悦二郎君) 別ニ御發議モア  
リマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告通

リ可決確定致シマシタ(拍手)日程第十一、出版權法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス、委員長牧野賤男君

### 第十一 出版權法案(原夫次郎君外六

名提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

#### 報告書

一出版權法案(原夫次郎君外六名提出)  
右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和八年三月十一日

委員長 牧野 賤男

衆議院議長秋田清殿

#### (別紙)

#### 出版權法

第一條 本法ニ於テ出版權ト稱スルハ著作權ノ他人ニ屬スル著作物又ハ著作權ノ存セサル著作物ヲ原作ノ儘印刷複製シテ之ヲ發賣頒布スル權利ヲ謂フ

第二條 自己ノ計算ニ依リ著作權ノ他人ニ屬スル著作物ノ出版ヲ引請ケタル發行者ハ其ノ著作物ニ付出版權ヲ專有ス著作權者ハ第五條ニ規定スル場合ヲ除クノ外現ニ出版權ノ目的タル著作物ヲ原作ノ儘自ラ印刷複製シ又ハ他人ヲシテ印刷複製セシムルコトヲ得ス  
著作權者カ原著作物ニ就キ著作權法第十

九條ニ依リ新ニ著作權ヲ生セサル程度ノ修正増減又ハ翻案ヲ爲シタルトキハ出版權ノ目的タル著作物ニ變更ナキモノト看做ス

第三條 著作權ノ存セサル著作物ノ最初ノ發行者ハ其ノ著作物ノ印刷複製ニ用フル版型(寫眞術又ハ之ト類似ノ方法ニ依リ複製スル場合ヲ含ム)ニ付テノミ出版權ヲ專有ス

前項ノ出版權ハ其ノ著作物カ最初ニ發行セラレタル時ニ發生シ爾後十年間存續ス

第四條 第二條ニ依ル出版權ハ其ノ著作物ニ付著作權者ト發行者トノ間ニ出版契約カ成立シタル時ニ發生シ其ノ契約ノ存續スル期間存續ス

存續期間ノ定ナキ出版契約ハ其ノ成立ノ時ヨリ三年ヲ經過スルニ因リテ終了ス但シ之ヲ更新スルコトヲ妨ケス

第五條 著作權者ハ出版契約ニ別段ノ定ナキ限り其ノ著作物カ最初ニ發行セラレタル時ヨリ三年ヲ經過シタル後ハ出版權ノ存續中ト雖之ヲ全集其ノ他ノ編輯物ニ輯録シ又ハ全集其ノ他ノ編輯物ノ一部ヲ分離シテ別途ニ利用スルコトヲ得

出版契約ニ別段ノ定ナキ限り新聞紙又ハ雜誌ニ掲載セラレタル著作物ハ其ノ新聞紙又ハ雜誌ノ發行後一箇月間ハ著作權者ニ於テ之ヲ別途ニ利用スルコトヲ得ス

著作權者タル原著作カ死亡シタル場合ニ在リテハ特約ノ有無ニ拘ラス其ノ死亡ト同時ニ前二項ノ期間滿了シタルモノト看做ス

第六條 出版權ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得但シ出版契約ニ別段ノ定ナキトキハ著作權者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七條 出版權ノ讓受人ハ出版契約ノ履行ニ付著作權者ニ對シテ其ノ讓渡人ト同一ノ權利及義務ヲ有ス但シ金錢上ノ債務辨濟ノ責任ハ出版權讓渡ノ當事者及著作權者間ニ特別ノ意思表示ナキ限

ハ既ニ計算ノ確定シタル部分ニ及ハス

第八條 著作物カ最初ニ發行セラレタル時ヨリ三年ヲ經過シタル後ハ出版權者ニ於テ三箇月前ニ著作權者ニ豫告シ將來ニ向テ出版契約ヲ解除スルコトヲ得

第九條 出版權者カ正當ノ理由ナクシテ六箇月以上著作物ノ印刷複製又ハ發賣頒布ヲ爲ササルトキハ著作權者ニ於テ三箇月以上ノ期間ヲ定メテ其ノ履行ヲ

催告シ其ノ期間内ニ履行ヲ得サルトキハ將來ニ向テ出版契約ヲ解除スルコトヲ得

第十條 出版權カ消滅シタルトキハ著作權者ハ發行者ノ所有ニ屬スル其ノ著作物及之カ印刷複製ノ爲ニ特ニ作ラレタル機械器具ヲ相當ノ價額ヲ以テ優先ニ買受クルコトヲ得

前項ノ權利ハ出版權消滅ノ時ヨリ三箇月内ニ之ヲ行使セサルトキハ消滅ス

第十一條 出版權ノ取得、相續、讓渡及質入ハ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十二條 登録ハ行政廳之ヲ行フ

登錄ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 虚偽ノ登録ヲ受ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 出版權ヲ侵害スヘキ著作物ヲ發行シタル者又ハ情ヲ知テ之ヲ印刷シ若ハ發賣頒布シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 前條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十六條 出版權ノ侵害ニ關シ民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴アリタルトキハ裁判

所ハ原告又ハ告訴人ノ申請ニ因リ保證ヲ立デシメ又ハ立デシメスシテ假ニ侵害ノ疑アル著作物ヲ差押ヘ若ハ之カ發賣頒布ヲ差止ムルコトヲ得民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴前ト雖民事訴訟法ニ規定スル假差押又ハ假處分ノ要件ヲ具備スルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ侵害ニ非サル旨ノ判決確定シタルトキハ申請者ハ差押又ハ發賣頒布ノ差止ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第十七條 法人ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本法ニ定メタル罪ヲ犯シタルトキハ法人ヲ處罰ス前項ノ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ被告人トス

第十八條 本法ニ定メタ罪ニ對スル公訴ノ時效ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行前ニ發行シタル著作物ニ付本法

施行ノ日ヨリ一年內ニ本法ニ依リ出版權ノ登錄ヲ受ケタル場合ニハ爾後本法ノ規定ヲ適用ス

〔牧野賤男君登壇〕

○牧野賤男君 只今上程相成リマシタ出版權法案ニ付テ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス、本案ハ著作物ノ出版ヲ引受ケタ者ガ、多大ノ費用ヲ投ジ、勞力ヲ費シテ、出版物ヲ社會ニ紹介シテ、其出版物ノ賣行ヲ盛シナラシメ、大ニ出版物ガ聲價ヲ擡シタルト云フ際ニ當ッテ、著作者ガ更ニ第二、第三ノ出版者ト契約ヲシテ出版ヲ爲サシムルト云フヤウナ不合理ヲ矯メタイ、サウシテ最初ノ出版者ノ權利ヲ認メテ之ヲ保護シヨウト云フノガ案ノ骨子デアリマス、併ナガラソレアルガ爲ニ、著作者ノ權利ヲ壓迫スルヤウナコトガアッテハナラナイト云フ考カラ、茲ニ小委員ヲ設ケマシテ、小委員會ニ於テハ著作者側ト、出版者側トノ代表的ノ意見ヲ取纏メテ、各兩者ノ保護宜シキ規定ヲ設ケマシテ、成案ヲ得テ譯デアリマス、即チ諸君ノ御手許ニ廻シテアリマス所ノ案ガ、其小委員會ノ案デアリマス、小委員會ノ委員ハ星島二郎君、犬養健君、中野勇治郎君、山折儀重君、原夫次郎君ノ五名デアリマシテ、星島

二郎君ガ委員長トナッテ報告セラレタノデアリマスガ、政府ニ於キマシテハ、該案ノ趣旨ニハ反對ハナイガ、千九百三十五年ニハ著作權ニ關スル國際會議ガアルカラ、其會議ノ結果ヲ見テ立法シテモ晩クハナイト云フヤウナ意見デアリマシタケレドモ、委員會ニ於キマシテハ、今立法ヲ致シテ、其際ニ又改メル必要ガアレバ改メテモ宜イデヤナイカト云フ意見ガ多數デアリマシテ、即チ小委員會ノ成案ヲ以テ本案ノ修正意見トシテ、本案ヲ修正可決致シタ次第デアリマス、何卒滿場ノ御賛成ヲ御願致シマス(拍手)

○副議長(植原悦二郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認メマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○上田孝吉君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開

キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告通り、可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(植原悦二郎君) 上田君ノ動議ニ

御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

出版權法案

第二讀會(確定議)

○副議長(植原悦二郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)次ニ日程第十二營業收益稅法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——小林鑄君

第十二 營業收益稅法中改正法律案

(木暮武太夫君外二名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一營業收益稅法中改正法律案(木暮武太夫君外二名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和八年三月十三日

委員長 大崎 清作

衆議院議長秋田清殿

(小林鑄君登壇)

○小林鑄君 只今上程セラレマシタ營業收益稅法中改正法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結



果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ慎重審議致シマシタガ、討論ニ際シ中村委員カラ、本法ノ實施ニ當リテハ、政府ハ法人ノ漁業ニ付テモ相當考慮スベシトノ希望ノ申出ガアリマシテ、全部本案ニ贊成ノ意ヲ表示セラレ、採決ノ結果多數ヲ以テ原案ハ可決致シタノデアリマス、何卒滿場諸君ノ御贊成ヲ冀フ次第デアリマス(拍手)

○副議長(植原悦二郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認メマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○上田孝吉君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(植原悦二郎君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

營業收益税法中改正法律案

第二讀會(確定議)

○副議長(植原悦二郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○上田孝吉君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、本日は是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○副議長(植原悦二郎君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ハ可決セラレマシタ、次會ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日は是ニテ散會致シマス

午後五時三十二分散會

衆議院議事速記録第二十五號中正誤

| 頁   | 段 | 行  | 誤             | 正      |
|-----|---|----|---------------|--------|
| 五八六 | 四 | 四  | マダ目的自足主義      | マダ自給自足 |
| 五八七 | 四 | 二八 | 耕作權或ハ自作耕作權ト云フ | 耕作權ト云フ |

